

現場説明事項

工事名称 市立富士見特別支援学校エレベーター更新工事

担当部署 総合政策部 管財課

「説明事項」

1. 工事目的

本工事は、老朽化したエレベーターの更新を行う。(2基)

2. 工事概要

特記仕様書、設計図書による。

3. 工事範囲

本工事に目的上必要と思われる、仮設材、安全措置（ガードフェンス・バリケード等）も本工事に含む。

4. 特記事項

- 1) 契約後速やかに、設計図製本3部（見開きA3版）を提出すること。
- 2) 仮設については、学校・学校関係者に十分配慮し安全を確保すること。
- 3) 工事中の騒音・振動等の防止に努めると共に指定場所以外に違法駐車しないこと。
- 4) 工事搬入口付近の道路について清掃等を行うこと。
- 5) 富士見特別支援学校の学校環境を考え、安全面などを十分に考慮し工事を進行すること。また、騒音、振動、異臭等、児童・生徒の授業等に支障があると思われる工事は、原則学校休業日に行うこと。
- 6) 現場施工期間は、6月10日から9月30日とする。
 - ・夏季休業以外は、どちらかのエレベーターが使用出来る状態とする。
 - ・調査及び仮設工事等学校運営に支障が出ない工事については、学校と協議の上、夏季休業期間（7月21日から8月24日）以外も施工可能とする。
 - ・2号機を先行工事とする。8月24日までに引き渡し検査及び建築基準法等の検査を受け、引き渡しをすること。
 - ・1号機の工事は、夏季休業後も学校運営に支障が出ない程度に施工可能とし、9月30日までに引き渡し検査及び建築基準法等の検査を受け、引き渡しをすること。
- 7) ホルムアルデヒド等の有害化学物質の発生材は、MSDS（化学物質安全データシート）を確認した上で監督員に提出し、厚生労働省及び文部科学省の室内濃度指針値以下に抑えること。
- 8) 竣工図の原図は、監督員と協議の上、CADデータを修正したものから作成すること。
- 9) 提出書類については、富士見市様式にて遅滞無く提出すること。
- 10) 建築基準法による手続き（確認申請、完了検査申請）及び消防関係の届出・申請は、本工事に含むものとする。

設 計 仕 様 書

工事名称 市立富士見特別支援学校エレベーター更新工事

工事場所 富士見市 大字上南畑 地内

積算書は、本工事の積算をする際の参考として提示するものです。入札の際には、設計図書に従い積算をして下さい。なお、参考積算書への質問に関しましては回答できませんのでご了承願います。

工事名称 市立富士見特別支援学校エレベーター更新工事					
請負工事費					
工事概要 昇降機(2基)の更新工事 ・既存エレベーターの撤去 ・エレベーターの更新					
・付帯建築工事一式					
・付帯電気設備工事一式					
総括要表					上段 設計変更
					下段 原設計
名称	摘要	数量	単位	金額	備考
直接工事費					
昇降機工事		1	式		
計		1	式		
共通仮設費		1	式		
純工事費					
現場経費		1	式		
工事原価					
一般管理費		1	式		
工事価格					スクラップ控除前 スクラップ控除
改め					
消費税相当額		1	式		10%
請負工事費					

積算用紙

上段	変更設計
下段	原設計

名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
工事共通仮設費						
準備費	その他に要する費用	1.0	式			
仮設建物費	倉庫、下小屋、 作業員施設等の費用	1.0	式			
工事施設費	場内通信設備等の工事用施設に 要する費用	1.0	式			
環境安全費	安全標識、消火設備等の施設の設置	1.0	式			
動力用水光熱費	工事用電気設備及び工事用給排 水設備とその料金に要する費用	支給				(共通仮設費率) + (積上げ)
屋外整理清掃費	屋外跡片付け、屋外発生材の処分 等の整理清掃に要する費用	1.0	式			
機械器具費	測量機器及び雑機械器具に要す る費用	1.0	式			
その他	上記のいずれの項目にも属さない もののうち軽微なものの費用	1.0				
計						

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
0	共通仮設費(積上げ)						
	交通誘導員	6人程度	1	式			
	ガードフェンス(外部)	h=1.8m 存置4ヶ月間 運搬費共	14.4	m			
	ガードフェンス(内部)	h=1.8m 存置4ヶ月間 運搬費共	16.9	m			
	計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	直接工事費						
1	昇降機工事						
	I 建築工事		1	式			
	II 電気設備工事		1	式			
	IIIエレベーター更新工事		1	式			
	計						

()
()
()

	名 称	摘 要	数 量	单 位	单 価	金 額	備 考
I	建築工事						
	1) 1号機		1	式			
	2) 2号機		1	式			
	小 計						
II	電気設備工事						
	1) 1号機		1	式			
	2) 2号機		1	式			
	小 計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
Ⅲ	エレベーター更新工事						
	1) 1号機		1	式			
	2) 2号機		1	式			
	小 計						
	合 計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	单 位	单 価	金 額	備 考
I	建築工事						
	1) 1号機						
1	直接仮設工事		1	式			
2	仕上改修工事		1	式			
3	撤去工事		1	式			
4	発生材処分		1	式			
	合 計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	直接仮設工事						
	墨出し(内部改修)	複合改修	30.4	m2			
	養生(内部改修)	複合改修	30.4	m2			
	整理清掃後片付け(内部改修)	複合改修	30.4	m2			
	養生(内部改修)	搬出入路部分	181	m2			
	整理清掃後片付け(内部改修)	搬出入路部分	181	m2			
	シャブ内足場	運搬費とも	14.4	m2			
	内部仕上足場	脚立足場 運搬費とも	16.0	m2			
	仮設間仕切り壁	A種	49.0	m2			
	計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	仕上改修工事						
	塩ビシート張り	t2.0	0.9	m2			
	モルタル金ゴテ	張物下地	1.3	m2			
	建具周囲モルタル充填	内部	16.8	m			
	腰壁 羽目板	上小節 縦張り 杉 t12.0	0.8	m2			
	見切縁	上小節 杉 25×25	6.5	m			
	木製巾木	上小節 桧 h=180 t25	1.2	m			
	天井点検口	アルミ製 450×450 額縁タイプ	1.0	か所			
	天井点検口	アルミ製 600×600 額縁タイプ	3.0	か所			
	天井 LGS開口補強	450×450 ホード切込とも	1.0	か所			
	天井 LGS開口補強	600×600 ホード切込とも	3.0	か所			

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	UC	二液性B種 素地A種とも	0.8	m2			
	UC(細幅物)	二液性B種 素地A種とも	7.7	m			
	UC	二液性B種 下地調整RB種とも	0.5	m2			
	EP-G	一般 モルタル面 下地調整RB種とも	4.3	m2			
	樹脂モルタル金ゴテ薄塗	壁面 5mm	52.3	m2			
	樹脂モルタル金ゴテ薄塗	天井面 5mm	9.8	m2			
	EV揚重梁	H-150×75×5×7 L=1.835m B.PL、HTB 錆止塗装とも	2.0	か所			
	あと施工アンカー	M16 横向き 有効埋込長7d	16.0	本			
	無収縮モルタル充填	200×180 t30	4.0	か所			
	計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
3	撤去工事						
	床カッター入れ		4.5	m			
	壁カッター入れ	両面	16.8	m			
	塩ビシート撤去		0.9	m2			
	タイルカーペット一時撤去・再利用		0.4	m2			
	床モルタル撤去		1.3	m2			
	建具周囲ハツリ		16.8	m			
	腰壁 羽目板撤去	t12	0.8	m2			
	見切り縁撤去	木製	6.5	m			
	巾木撤去	木製	1.2	m			
	壁 グラスウール撤去	t50	52.3	m2			

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	天井 グラスウール撤去	t50	9.8	m2			
	床面EV機器基礎(鉄骨部材) 切断及び撤去	切断面の防錆塗装とも	1.0	式			
	計						

(_____)
(_____)

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
4	発生材処分						
	発生材積み込み	コンクリート、モルタル類 人力	0.2	m3			
	発生材積み込み	ボード、木材類 人力	3.2	m3			
	発生材運搬費	ダンプトラック2t積 人力					
		無筋コンクリート 11.0 km以下 DID無し	0.2	m3			
	発生材運搬費	ダンプトラック2t積 人力					
		木材類 11.0 km以下 DID無し	3.2	m3			
	発生材処分費	コンクリート	0.3	t			
		木くず	0.1	m3			
	発生材処分費	混合廃棄物	3.1	m3			
	計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	单 位	单 価	金 額	備 考
I	建築工事						
	2) 2号機						
1	直接仮設工事		1	式			
2	仕上改修工事		1	式			
3	撤去工事		1	式			
4	発生材処分		1	式			
	合 計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	单 位	单 価	金 額	備 考
1	直接仮設工事						
	墨出し(内部改修)	複合改修	23.8	m2			
	養生(内部改修)	複合改修	23.8	m2			
	整理清掃後片付け(内部改修)	複合改修	23.8	m2			
	養生(内部改修)	搬出入路部分	104	m2			
	整理清掃後片付け(内部改修)	搬出入路部分	104	m2			
	シャブ内足場	運搬費とも	10.5	m2			
	内部仕上足場	脚立足場					
		運搬費とも	13.3	m2			
	仮設間仕切り壁						
		A種	38.0	m2			
	計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	仕上改修工事						
	塩ビシート張り	t2.0	0.9	m2			
	モルタル金ゴテ	張物下地	0.9	m2			
	建具周囲モルタル充填	内部	11.2	m			
	腰壁 羽目板	上小節 縦張り 杉 t12.0	0.5	m2			
	見切縁	上小節 杉 25×25	4.3	m			
	木製巾木	上小節 桧 h=180 t25	0.1	m			
	天井点検口	アルミ製 450×450 目地タイプ	1.0	か所			
	天井点検口	アルミ製 600×600 目地タイプ	1.0	か所			
	天井 LGS開口補強	450×450 ホード切込とも	1.0	か所			
	天井 LGS開口補強	600×600 ホード切込とも	1.0	か所			

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	UC	二液性B種 素地A種とも	0.5	m2			
	UC(細幅物)	二液性B種 素地A種とも	5.1	m			
	UC	二液性B種 下地調整RB種とも	0.5	m2			
	EP-G	一般 モルタル面 下地調整RB種とも	3.3	m2			
	樹脂モルタル金ゴテ薄塗	壁面 5mm	37.9	m2			
	樹脂モルタル金ゴテ薄塗	天井面 5mm	8.7	m2			
	EV揚重梁	H-150×75×5×7 L=2.11m B.PL、HTB 錆止塗装とも	2.0	か所			
	あと施工アンカー	M16 横向き 有効埋込長7d	16.0	本			
	無収縮モルタル充填	200×180 t30	4.0	か所			
	計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
3	撤去工事						
	床カッター入れ		3.0	m			
	壁カッター入れ	両面	11.2	m			
	塩ビシート撤去		0.9	m2			
	床モルタル撤去		0.9	m2			
	建具周囲ハツリ		11.2	m			
	腰壁 羽目板撤去	t12	0.5	m2			
	見切り縁撤去	木製	4.3	m			
	巾木撤去	木製	0.8	m			
	壁 グラスウール撤去	t50	37.9	m2			
	天井 グラスウール撤去	t50	8.7	m2			

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
4	発生材処分						
	発生材積込み	コンクリート、モルタル類 人力	0.1	m3			
	発生材積込み	ボード、木材類 人力	2.4	m3			
	発生材運搬費	ダンプトラック2t積 人力 無筋コンクリート 11.0 km以下 DID無し	0.1	m3			
	発生材運搬費	ダンプトラック2t積 人力 木材類 11.0 km以下 DID無し	2.4	m3			
	発生材処分費	コンクリート	0.2	t			
	発生材処分費	木くず	0.1	m3			
	発生材処分費	混合廃棄物	2.3	m3			
	計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	单 位	单 価	金 額	備 考
II	電気設備工事						
	1) 1号機						
1	幹線・動力設備工事		1	式			
2	電灯・コンセント設備工事		1	式			
3	弱電・火報設備工事		1	式			
4	発生材処分		1	式			
	合 計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	幹線・動力設備工事						
	EM-電線	IE14 管内	9.0	m			
	EM-電線	IE14 サドル止	10.0	m			
	EM-電線	IE38 管内	28.0	m			
	EM-ケーブル	CE14-3C サドル止	10	m			
	電線管	E(51) 露出	3.0	m			
	プルボックス	300x300x200	1.0	個			
	開閉器盤	ELB3P100AFx1個入り 屋内	1.0	個			

()

()

	名 称	摘 要	数 量	单 位	单 価	金 額	備 考
	(撤去工事)						
	EM-電線	IV14 管内	7.0	m			
	EM-電線	IV30 管内	20.0	m			
	計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	電灯・コンセント設備工事						
	EM-ケーブル	EEF2.0-3C 天井内	11.0	m			
	EM-ケーブル	EEF2.0-3C サドル止	4.0	m			
	埋込コンセント	2P15Ax2	1.0	個			
	照明器具	(A) LSS9-2350LM	1.0	個			
	防火区画貫通処理施工	Φ100	1.0	箇所			
	撤去再取付 埋込スイッチ	1P15Ax1	1.0	個			
	撤去再取付 埋込コンセント	2P15Ax2	1.0	個			
	撤去再取付 温度スイッチ		2.0	個			
	(撤去工事)						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	单 位	单 価	金 額	備 考
	電線管	(19)	1.0	m			
	電線管	(25)	1.0	m			
	電線管	(39)	3.0	m			
	埋込コンセント	2P15Ax2	1.0	個			
	照明器具	A) 天井直付 FL40Wx1	1.0	個			
	計						

(_____)

(_____)

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
3	弱電・火報設備工事						
	EM-ケーブル	HP1.2-2C 天井内	22.0	m			
	EM-ケーブル	HP1.2-2C サドル止	4.0	m			
	EM-ケーブル	HP1.2-5P 天井内	22.0	m			
	EM-ケーブル	HP1.2-5P サドル止	4.0	m			
	EM-ケーブル	AE1.2-2C 天井内	22.0	m			
	EM-ケーブル	AE1.2-2C サドル止	4.0	m			
	EM-ケーブル	EBT0.5-2P 天井内	22.0	m			
	EM-ケーブル	EBT0.5-2P サドル止	4.0	m			
	煙式感知器	2種	1.0	個			
	ハツリ工事	壁貫通補修 Φ75	1.0	箇所			

()

()

名 称	摘 要	数 量	单 位	单 価	金 額	備 考
防火区画貫通処理施工	Φ 100	1.0	箇所			
撤去再取付 煙式感知器	2種	1.0	個			
立会検査	P-1	1.0	工事			
(撤去工事)						
ケーブル	AE1.2-2C 管内	5.0	m			
電線管	(19)	5.0	m			
煙式感知器	2種	1.0	個			
計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
4	発生材処分						
	発生材処分費	混合廃棄物	0.04	m3			
	同上収集運搬費	2tダンプ車 片道25km	1.0	回			
	照明器具処分	FL40wx1	1.0	個			
	計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	单 位	单 価	金 額	備 考
II	電気設備工事						
	2) 2号機						
1	幹線・動力設備工事		1	式			
2	電灯・コンセント設備工事		1	式			
3	弱電・火報設備工事		1	式			
4	発生材処分		1	式			
	合 計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	幹線・動力設備工事						
	EM-電線	IE14 管内	5.0	m			
	EM-電線	IE14 サドル止	20.0	m			
	EM-電線	IE38 管内	25.0	m			
	EM-ケーブル	CE14-3C サドル止	20	m			
	電線管	E(51) 露出	3.0	m			
	プルボックス	300x300x200	1.0	個			
	開閉器盤	ELB3P100AFx1個入り 屋内	1.0	個			

()

()

	名 称	摘 要	数 量	单 位	单 価	金 額	備 考
	(撤去工事)						
	EM-電線	IV22 管内	5.0	m			
	EM-電線	IV50 管内	16.0	m			
	計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	電灯・コンセント設備工事						
	EM-ケーブル	EEF2.0-3C 天井内	12.0	m			
	EM-ケーブル	EEF2.0-3C サドル止	4.0	m			
	埋込コンセント	2P15Ax2	1.0	個			
	照明器具	(A) LSS9-2350LM	1.0	個			
	防火区画貫通処理施工	Φ100	1.0	箇所			
	撤去再取付 埋込スイッチ	1P15Ax1	1.0	個			
	撤去再取付 埋込コンセント	2P15Ax2	1.0	個			
	(撤去工事)						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	单 位	单 価	金 額	備 考
	電線管	(19)	1.0	m			
	電線管	(25)	1.0	m			
	電線管	(39)	3.0	m			
	埋込コンセント	2P15A×2	1.0	個			
	照明器具	B) 天井直付 FL40W×2	1.0	個			
	計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
3	弱電・火報設備工事						
	EM-ケーブル	HP1.2-2C 天井内	69.0	m			
	EM-ケーブル	HP1.2-2C サドル止	4.0	m			
	EM-ケーブル	HP1.2-5P 天井内	69.0	m			
	EM-ケーブル	HP1.2-5P サドル止	4.0	m			
	EM-ケーブル	AE1.2-2C 天井内	69.0	m			
	EM-ケーブル	AE1.2-2C サドル止	4.0	m			
	EM-ケーブル	EBT0.5-2P 天井内	69.0	m			
	EM-ケーブル	EBT0.5-2P サドル止	4.0	m			
	煙式感知器	2種	1.0	個			
	ハツリ工事	壁貫通補修	1.0	箇所			

()

()

名 称	摘 要	数 量	单 位	单 価	金 額	備 考
防火区画貫通処理施工	Φ 100	1.0	箇所			
撤去再取付 煙式感知器	2種	1.0	個			
立会検査	P-1	1.0	工事			
(撤去工事)						
ケーブル	AE1.2-2C 管内	8.0	m			
電線管	(19)	8.0	m			
煙式感知器	2種	1.0	個			
計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
4	発生材処分						
	発生材処分費	混合廃棄物	0.04	m3			
	同上収集運搬費	2tダンプ車 片道25km	1.0	回			
	照明器具処分	FL40wx2	1.0	個			
	計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	单 位	单 価	金 額	備 考
Ⅲ	エレベーター更新工事						
	1) 1号機						
	エレベーター本体	乗用・積載荷重750kg・最大定員11名・45m/min・停止箇所3か所	1.0	台			
	乗場遮煙機能		3.0	台			
	既存撤去工事	廃油撤去・処分とも	1.0	式			
	諸官公署手続		1.0	式			
	合 計						

()

()

	名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
Ⅲ	エレベーター更新工事						
	2) 2号機						
	エレベーター本体	ピット底板強度調査費とも	1.0	台			
		乗用・積載荷重750kg・最大定員11名・45m/min・停止箇所2か所					
	乗場遮煙機能		2.0	台			
	既存撤去工事	廃油撤去・処分とも	1.0	式			
	諸官公署手続		1.0	式			
	合 計						

()

()

市立富士見特別支援学校エレベーター更新工事 設計図

図面リスト					
図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺
A-01	特記仕様書(改修その1)	Non Scale	E-01	電気設備工事特記仕様書	Non Scale
A-02	特記仕様書(改修その2)	Non Scale	E-02	(改修前・改修後) B1階平面図 強電設備	1/200
A-03	特記仕様書(改修その3)	Non Scale	E-03	(改修前・改修後) B1階平面図 弱電設備	1/200
A-04	特記仕様書(改修その4)	Non Scale	E-04	(改修前・改修後) 1階平面図 強電設備	1/200
A-05	特記仕様書(改修その5)	Non Scale	E-05	(改修前・改修後) 1・2・3階平面図 弱電設備	1/200
A-06	特記仕様書(改修その6)	Non Scale			
A-07	案内図・配置図	1/300			
A-08	1階平面図	1/200			
A-09	2階平面図	1/200			
A-10	3階平面図	1/200			
A-11	B1階、R1階平面図	1/200			
A-12	立面図	1/200			
A-13	1号機 仕上表、平面詳細図	1/50			
A-14	1号機 展開図	1/50			
A-15	2号機 仕上表、平面詳細図、展開図	1/50			
A-16	エレベータ仕様一覧表、工事区分表	Non Scale			
A-17	1号機 据付図	1/20			
A-18	2号機 据付図	1/20			
A-19	かご留意図、乗場留意図	1/2、3、15、20			
A-20	参考図 既存エレベータ詳細図1(1号機)	1/20、30			
A-21	参考図 既存エレベータ詳細図2(2号機)	1/20、30			
A-22	参考図 既存エレベータ詳細図3(カゴ内詳細)	1/10			
A-23	参考図 既存エレベータ詳細図4(機器室図)	Non Scale			

有限会社 桑子建築設計事務所

7	合成高分子系ルーフィングシート防水 [3.5.2~4] [表3.5.1~3]	防水層の種類	工法	種別	施工箇所	断熱材 [G]	仕上塗料	高日射率防水の適用	備考
		種別	種類	種類	高日射率防水の適用	備考			
8	塗膜防水 [3.6.2.3]	防水層の種類	種別	施工箇所	保護層	仕上塗料	高日射率防水の適用	備考	
		種別	種類	種類	高日射率防水の適用	備考			
9	シーリング [3.7.2.8]	防水層の種類	種別	施工箇所	保護層	仕上塗料	高日射率防水の適用	備考	
		種別	種類	種類	高日射率防水の適用	備考			
10	とい [3.8.2.3]	防水層の種類	種別	施工箇所	保護層	仕上塗料	高日射率防水の適用	備考	
		種別	種類	種類	高日射率防水の適用	備考			
11	アルミニウム製笠木 [3.9.2]	防水層の種類	種別	施工箇所	保護層	仕上塗料	高日射率防水の適用	備考	
		種別	種類	種類	高日射率防水の適用	備考			
12	防水工事施工 [2.1.2]	防水層の種類	種別	施工箇所	保護層	仕上塗料	高日射率防水の適用	備考	
		種別	種類	種類	高日射率防水の適用	備考			

4	外壁改修工事	1 施工数量調査 [1.5.2.3]	調査範囲 調査時期 調査方法	・外壁改修範囲 ・図示の範囲 ・外壁仕上げ等除去前 ・外壁仕上げ等除去後 ・ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆の流出の有無を調査する。 モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また、既存塗膜と新規塗料との適合性を確認する。 既存部分の破壊を行った場合の補修方法 調査報告書の部数 ・2部	
		2 ポリマーセメントスラリー [4.2.2]	広がり速度 (cm/s) 長さ変化率 (収縮) 引張接着性 (材齢28日) 曲げ性能 (材齢28日) 吸水性 (72時間) 耐久性	3 既製調合モルタル [4.2.2]	モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
4-1	コンクリート打放し仕上げ外壁	1 ひび割れ部改修工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.4~6]	・樹脂注入工法 工法の種類 ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ・手動式エポキシ樹脂注入工法 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 ※エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形	ひび割れ幅 (mm) 注入口間隔 (mm) 注入量 (ml/m)	ひび割れ幅 (mm) 注入口間隔 (mm) 注入量 (ml/m)
		2 欠損部改修工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.7]	・充填工法 ・エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル	欠損部の形状寸法	欠損部の形状寸法
4-2	モルタル塗り仕上げ外壁	1 既存モルタル塗りの撤去 [4.1.4][4.4.2.5~7]	・行う (※全面 ・図示の範囲)	・樹脂注入工法 工法の種類 ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ・手動式エポキシ樹脂注入工法 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 ※エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形	ひび割れ幅 (mm) 注入口間隔 (mm) 注入量 (ml/m)
		2 ひび割れ部改修工法 [4.1.4][4.4.2.5~7]	・行う (※全面 ・図示の範囲)	・樹脂注入工法 工法の種類 ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ・手動式エポキシ樹脂注入工法 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 ※エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形	ひび割れ幅 (mm) 注入口間隔 (mm) 注入量 (ml/m)
4	タイル張り仕上げ外壁	1 既存タイル張りの撤去 [4.1.4][4.2.2][4.5.5.6]	・既存タイル張りの撤去 ・ひび割れ部改修工法 ・欠損部改修工法 ・浮き部改修工法	・外壁タイル張り全面 ・図示の範囲 ・撤去範囲 ・張り付けモルタルまで ・タイルのみ ・改修箇所 ※既存タイル張り面 ・既存タイル撤去面 (・コンクリート面 ・モルタル面) ・樹脂注入工法 工法の種類 ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ・手動式エポキシ樹脂注入工法 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 ※エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 ・タイル張替え工法 接着剤の種類 ・ポリマーセメントモルタル ・JIS A 5557による一液反応硬化型変成シリコーン樹脂系 ・JIS A 5557による一液反応硬化型ウレタン樹脂系 ・タイル張替え工法 接着剤の種類 ・ポリマーセメントモルタル ・JIS A 5557による一液反応硬化型変成シリコーン樹脂系 ・JIS A 5557による一液反応硬化型ウレタン樹脂系 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 ※改修標準仕様書表4.5.1による タイル張り下地等の下地モルタルの接着剤試験 ・行う ・行わない セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り ・行う ・行わない 外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り ・改良積上げ張り ・外装ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り ・有機系接着剤による陶磁器質タイル張り シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系 ・伸縮調整目地その他の目地	
		2 目地改修工法 [4.5.16]	・目地のひび割れ部改修工法 ・伸縮調整目地改修工法 ・伸縮調整目地の位置及び寸法 ・図示	目地のひび割れ部改修工法 伸縮調整目地改修工法 伸縮調整目地の位置及び寸法 ・図示	目地のひび割れ部改修工法 伸縮調整目地改修工法 伸縮調整目地の位置及び寸法 ・図示

4-3	タイル張り仕上げ外壁	1 既存タイル張りの撤去 [4.1.4][4.2.2][4.5.5.6]	・既存タイル張りの撤去 ・ひび割れ部改修工法 ・欠損部改修工法 ・浮き部改修工法	・外壁タイル張り全面 ・図示の範囲 ・撤去範囲 ・張り付けモルタルまで ・タイルのみ ・改修箇所 ※既存タイル張り面 ・既存タイル撤去面 (・コンクリート面 ・モルタル面) ・樹脂注入工法 工法の種類 ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ・手動式エポキシ樹脂注入工法 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 ※エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 ・タイル張替え工法 接着剤の種類 ・ポリマーセメントモルタル ・JIS A 5557による一液反応硬化型変成シリコーン樹脂系 ・JIS A 5557による一液反応硬化型ウレタン樹脂系 ・タイル張替え工法 接着剤の種類 ・ポリマーセメントモルタル ・JIS A 5557による一液反応硬化型変成シリコーン樹脂系 ・JIS A 5557による一液反応硬化型ウレタン樹脂系 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 ※改修標準仕様書表4.5.1による タイル張り下地等の下地モルタルの接着剤試験 ・行う ・行わない セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り ・行う ・行わない 外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り ・改良積上げ張り ・外装ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り ・有機系接着剤による陶磁器質タイル張り シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系 ・伸縮調整目地その他の目地	
		2 目地改修工法 [4.5.16]	・目地のひび割れ部改修工法 ・伸縮調整目地改修工法 ・伸縮調整目地の位置及び寸法 ・図示	目地のひび割れ部改修工法 伸縮調整目地改修工法 伸縮調整目地の位置及び寸法 ・図示	目地のひび割れ部改修工法 伸縮調整目地改修工法 伸縮調整目地の位置及び寸法 ・図示
5	目地改修工法 [4.5.16]	1 目地改修工法 [4.5.16]	・目地のひび割れ部改修工法 ・伸縮調整目地改修工法 ・伸縮調整目地の位置及び寸法 ・図示	目地のひび割れ部改修工法 伸縮調整目地改修工法 伸縮調整目地の位置及び寸法 ・図示	目地のひび割れ部改修工法 伸縮調整目地改修工法 伸縮調整目地の位置及び寸法 ・図示
		2 タイルの形状寸法等 [4.2.2]	・タイルの形状寸法等 ・図示	・タイルの形状寸法等 ・図示	・タイルの形状寸法等 ・図示

4-4	塗り仕上げ外壁	1 所量量の確認 [4.6.2][表4.6.1]	・所量量の確認 [4.6.2][表4.6.1]	工程ごとの所要量の確認 ※改修標準仕様書表4.6.1による ・単位面積当たりの塗付け量 表7. . . による
		2 既存塗膜等の除去 ・下地処理及び 下地調整 [4.6.3]	・既存塗膜等の除去 ・下地処理及び 下地調整 [4.6.3]	・既存塗膜等の除去 ・下地処理及び 下地調整 [4.6.3]
5	マスチック塗材塗り [4.7.2][表4.7.1]	1 マスチック塗材塗り [4.7.2][表4.7.1]	・マスチック塗材塗り [4.7.2][表4.7.1]	マスチック塗材塗り [4.7.2][表4.7.1]
		2 マスチック塗材塗り [4.7.2][表4.7.1]	・マスチック塗材塗り [4.7.2][表4.7.1]	マスチック塗材塗り [4.7.2][表4.7.1]

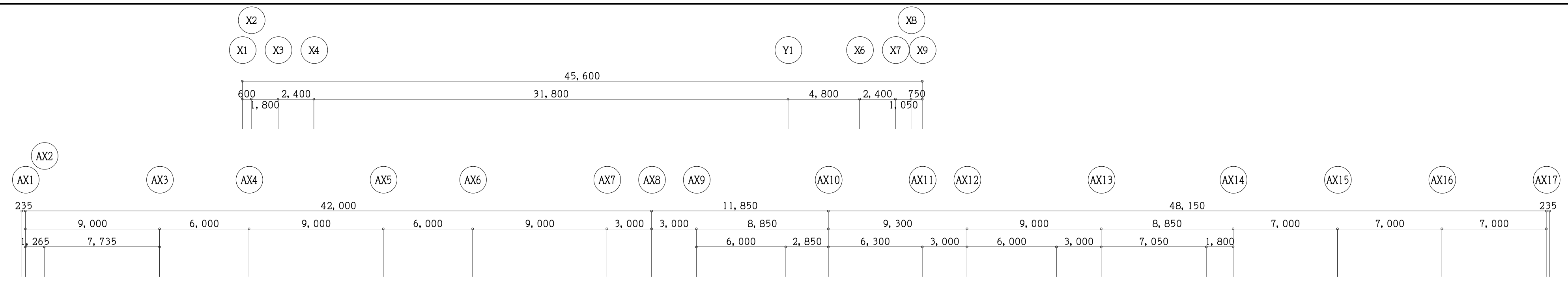
5	建具改修工事	1 改修工法 [5.1.3]	・改修工法 [5.1.3]	・改修工法 [5.1.3]
		2 防火戸 [5.1.4]	・防火戸 [5.1.4]	・防火戸 [5.1.4]
6	樹脂製建具 [5.2.2][5.3.2~5]	1 樹脂製建具 [5.2.2][5.3.2~5]	・樹脂製建具 [5.2.2][5.3.2~5]	・樹脂製建具 [5.2.2][5.3.2~5]
		2 樹脂製建具 [5.2.2][5.3.2~5]	・樹脂製建具 [5.2.2][5.3.2~5]	・樹脂製建具 [5.2.2][5.3.2~5]

7 鋼製建具 [5. 2. 2] [5. 4. 2~4] [表5. 4. 2]	性能等級 簡易気密型ドアセット ・適用する(建具符号:・建具表による) ・) ・適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 (建具符号:・建具表による) ・) ・S-5 (建具符号:・建具表による) ・) ・S-6 (建具符号:・建具表による) ・)
	防音ドアセット, 防音サッシ 遮音性の等級 () (建具符号:・建具表による) ・) 断熱ドアセット, 断熱サッシ [G] 断熱性の等級 () (建具符号:・建具表による) ・) 耐震ドアセット 面内変形追随性の等級 () (建具符号:・建具表による) ・) 鋼板 材料 めっき付着量 厚さ ・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板) ※Z12又はF12 ・標準仕様書表5. 4. 2による ・JIS G 3317 (溶融亜鉛5%アルミニウム合金めっき鋼板) ※Y08
8 鋼製軽量建具 [5. 2. 2] [5. 5. 2]	性能等級 簡易気密型ドアセット ・適用する(建具符号:・建具表による) ・) ・適用しない 防音ドアセット, 防音サッシ 遮音性の等級 () (建具符号:・建具表による) ・) 断熱ドアセット, 断熱サッシ [G] 断熱性の等級 () (建具符号:・建具表による) ・) 耐震ドアセット 面内変形追随性の等級 () (建具符号:・建具表による) ・) 鋼板 (屋外) ※SUS430J1L, SUS443J1, SUS304 鋼板 (屋内) ※SUS430, SUS430J1L, SUS443J1, SUS304 表面仕上げ ※H.L. ・鏡面 ステンレス鋼板の加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ
	性能等級 簡易気密型ドアセット ・適用する(建具符号:・建具表による) ・) ・適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 (建具符号:・建具表による) ・) ・S-5 (建具符号:・建具表による) ・) ・S-6 (建具符号:・建具表による) ・)
9 ステンレス製建具 [5. 2. 2] [5. 4. 2] [5. 6. 2]	性能等級 簡易気密型ドアセット ・適用する(建具符号:・建具表による) ・) ・適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 (建具符号:・建具表による) ・) ・S-5 (建具符号:・建具表による) ・) ・S-6 (建具符号:・建具表による) ・)
	防音ドアセット, 防音サッシ 遮音性の等級 () (建具符号:・建具表による) ・) 断熱ドアセット, 断熱サッシ [G] 断熱性の等級 () (建具符号:・建具表による) ・) 耐震ドアセット 面内変形追随性の等級 () (建具符号:・建具表による) ・) 鋼板 (屋外) ※SUS430J1L, SUS443J1, SUS304 鋼板 (屋内) ※SUS430, SUS430J1L, SUS443J1, SUS304 表面仕上げ ※H.L. ・鏡面 ステンレス鋼板の加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ
10 木製建具 [11. 7. 2~4]	建具材の加工, 組立時の含水率 ※B種 建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・フラッシュ戸 表面材の合板の種類 ・合板の種類 規格等 ・普通合板 [G] 表面の樹種 生地, 透明塗料塗り (※ラワン程度) ・) 不透明塗料塗り (※シナ程度) ・) 板面の品質 () 樹種名 () 接合の程度 (・1類 ・2類) ・天然木 化粧合板 [G] 樹種名 () 接合の程度 (・1類 ・2類) ・特殊加工 化粧合板 [G] 化粧加工の方法 (・オーバー・アリ) ・塗装) 表面性能 () タイプ 接合の程度 (・1類 ・2類)
	表面板の厚さ ※表16. 7. 6による ・かま戸 かま戸 () 鏡板樹種 () 見込み寸法 ※36mm ・建具表による ・ふすま 張りの種別 (・I型 ・II型) 上張り ・角の子 ・新鳥の子又はビニル紙程度 押入等の裏側は雲花紙程度 縁仕上 ・塗り縁 ・生地縁 (素地) 生地縁 (ウレタンリヤー塗装) 見込み寸法 ※19. 5mm ・建具表による ・戸ばり 見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・紙張り障子 見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・枠, くつずりの材料 ・建具表による
11 建具用金物 [5. 7. 2]	金物の種類及び見え掛り部の材質等 ※改修標準仕様書表5. 7. 11による 樹脂製建具に使用する丁番 ※改修標準仕様書表5. 7. 3による 握り玉, レバーハンドル, 押板類, プレゼントの取付位置 ・建具表による マスターキー ・製作する(・新規 ・既存マスター合わせ) ・製作しない その他の鍵 ※各室3本1組 鍵箱 ・無 ・有
12 鍵 [5. 7. 4]	
13 自動ドア開閉装置 [5. 8. 3]	自動ドア 性能 ・SSLD-1 ※改修標準仕様書表5. 8. 11による ・SSLD-2 ・DSDL-1 性能 ・適用する ・適用しない ・DSDL-2 ※改修標準仕様書表5. 8. 21による ・SMD-1 ・SMD-2 ・図示
14 自閉式上吊り引戸装置 [5. 9. 3]	性能 ※改修標準仕様書表5. 9. 11による シャッターの種類 ・一般重量シャッター 耐風圧強度 () N/m ² ・外壁用防火シャッター 耐風圧強度 () N/m ² ・屋内用防火シャッター ・屋内用防煙シャッター 開閉機能による種類 ※上部電動式(手動併用) ・上部手動式 屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構 ※改修標準仕様書5. 10. 2(d)(4) []かつ [] 管理用シャッターのシャッターケース ・設ける ・設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板) ・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板) めっきの付着量 ※Z12又はF12
15 重量シャッター [5. 10. 2, 3]	シャッターの種類 ・一般重量シャッター 耐風圧強度 () N/m ² ・外壁用防火シャッター 耐風圧強度 () N/m ² ・屋内用防火シャッター ・屋内用防煙シャッター 開閉機能による種類 ※上部電動式(手動併用) ・上部手動式 屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構 ※改修標準仕様書5. 10. 2(d)(4) []かつ [] 管理用シャッターのシャッターケース ・設ける ・設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板) ・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板) めっきの付着量 ※Z12又はF12
16 軽量シャッター [5. 11. 2~4]	開閉方式 ※手動式 ・上部電動式(手動併用) 耐風圧強度 () N/m ² スラットの材質 ・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼板) めっき付着量 (※Z12又はF12) ・JIS G 3312 (塗装溶融5%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼板) めっき付着量 (※AZ90) スラットの形状 ・インダーロックンギン形 ・オーバーラッピング形

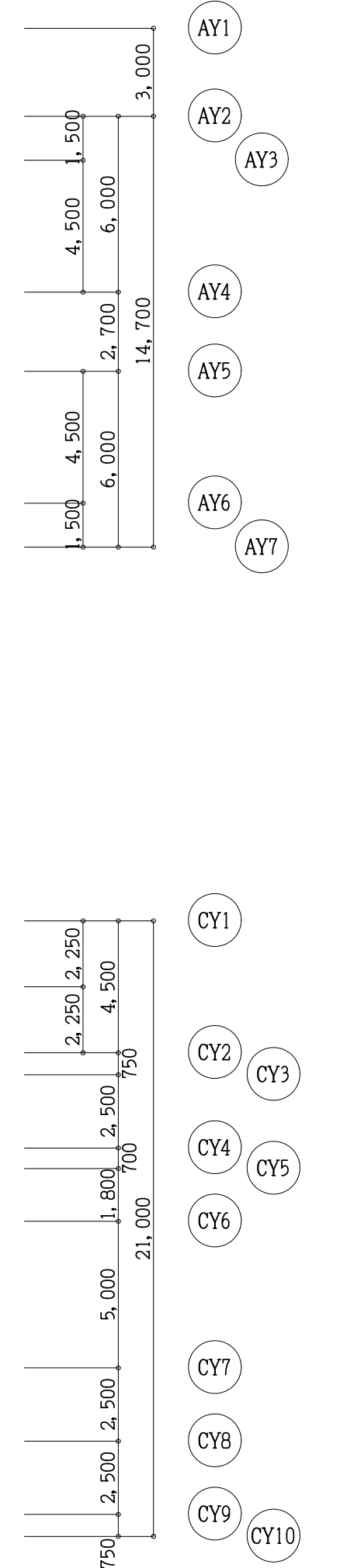
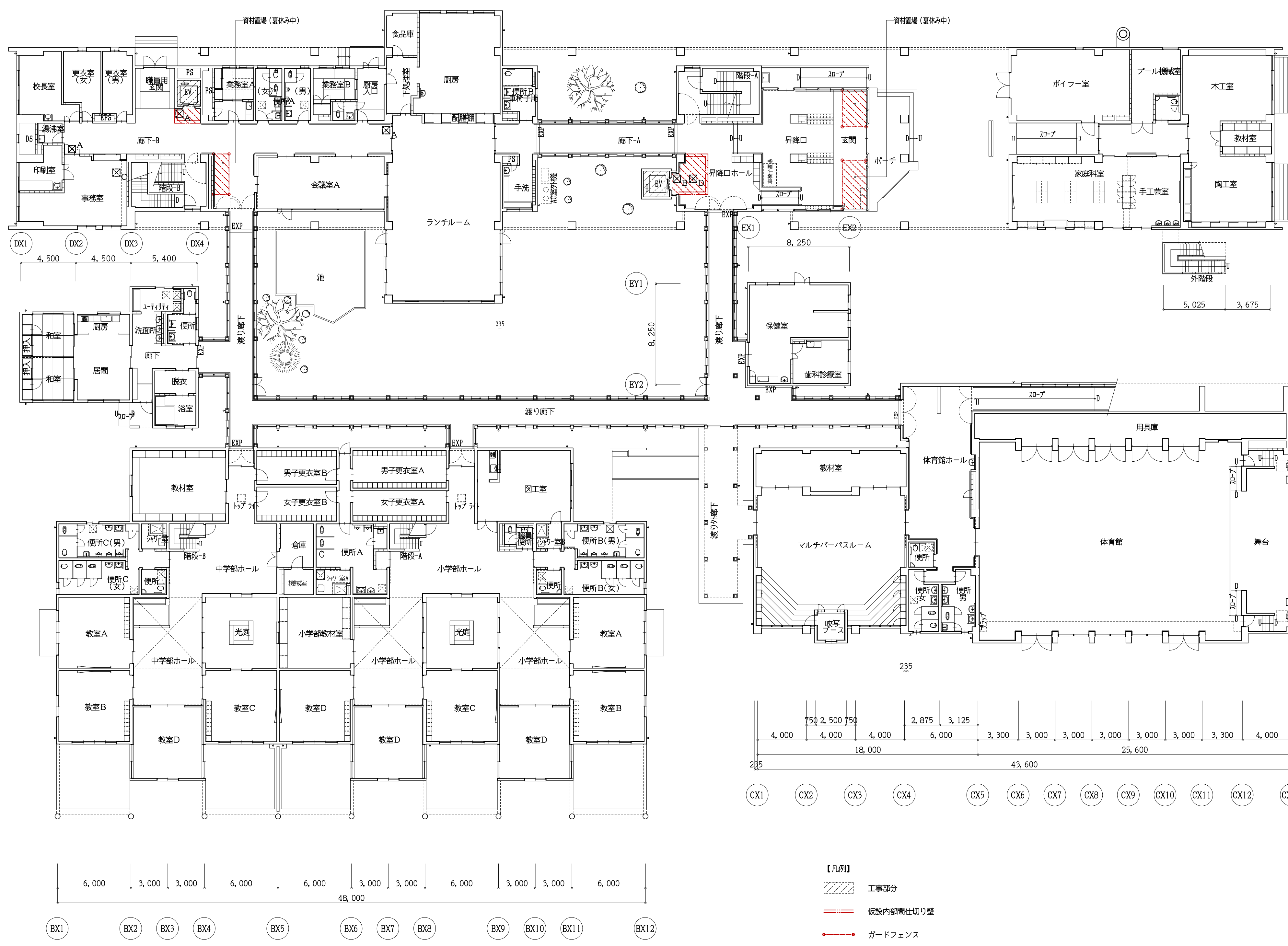
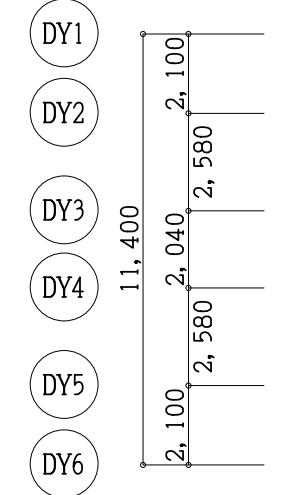
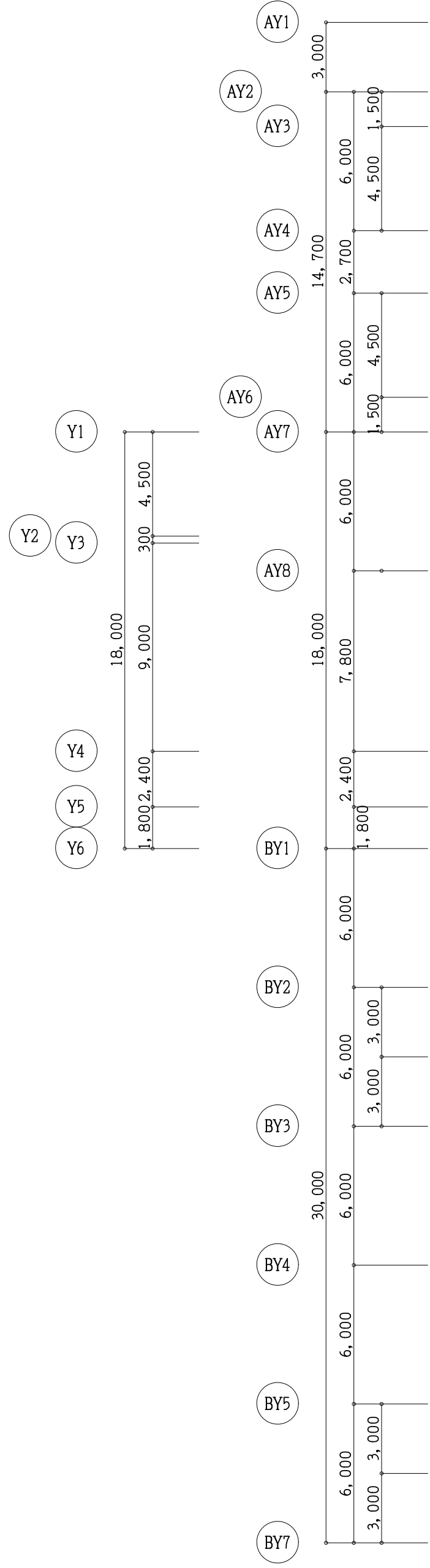
17 オーバーヘッドドア [5. 12. 2, 3]	セクション材料による区分 ※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ 耐風圧区分(Pa) ・125 ・100 ・75 ・50 開閉方式による区分 ※バランス式 ・チェーン式 ・電動式 収納形式による区分 ・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・パーチカル形 ガイドレールの材質 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板
18 ガラス [3. 7] [5. 13. 2~4] [表5. 13. 1]	適用は以下によるほか, ガラスの種類・厚さは建具表及び図面による。 合わせガラス 品 種 構成種類 性能 ・フロート合わせガラス ・フロート板合わせガラス ・熱線吸収フロート板合わせガラス ・熱線吸収フロート板合わせガラス ・網入磨き合わせガラス ・網入磨き・フロート板合わせガラス ・網入磨き・熱線吸収板合わせガラス 強化ガラス 材料板ガラスによる種類 種類 性能 ・フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス ・型板強化ガラス 性能 ・I類 ・II-1類・II-2類 ・III類 熱線吸収板ガラス 品 種 性能 色調 ・熱線吸収フロート板ガラス ・熱線吸収網入磨き板ガラス 1種 2種 ブルー グレー ブロンズ 複層ガラス 品 種 断熱性 日射熱遮へい性 ・断熱複層ガラス ・1種 U1 ・2種 U2 ・3種 U-3-1 ・U-3-2 ・4種 E4 ・5種 E5 日射熱遮へい複層ガラス 品 種 断熱性 日射熱遮へい性 ・1種 A種 ・2種 B種 ・3種 B種
19 ガラスブロック [5. 13. 5]	ガラスの留め材 アルミニウム製 ・シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形 鋼製及び鋼製軽量 ・シーリング材 ステンレス製 ・シーリング材 表面形状 呼び寸法 厚さ 色調 目地幅(mm) 平積み 曲面積み 伸縮調整 目地(mm) 防火性能 ・125×125 80 ※8~15 外側 ※15以下 ※6以下 ※無し ・160×160 95 ※8~15 内側 ※6以上 ※10~25 ※有り ・200×200 95 ・320×320 95 ・250×125 80 ・320×160 95 曲面積みは曲率半径は, ガラスブロックの幅寸法の1.0倍以上とする。 壁用金属枠及び補修材 ・設ける(形状 ※図示) ・) ・設けない 骨 材質 ※ステンレス鋼(SUS304) 寸法 ※径5. 5mm 形状 ※はしご形状補筋及び単筋 化粧目地モルタルの色 () 金属製化粧カバー 材質 ※ステンレス製 ・アルミニウム製 寸法 形状 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法 目地部の骨の補修方法 ※ガラスブロック製造所の仕様による ※図示 ※施工箇所は建具表による 種類 日射遮断性能 名称 ・SC-1 ・SC-2 ・A ・B ・C ・D ・E ・ガラス飛散防止フィルム ・GI-1 ・GI-2 ・GD-1 ・GD-2 品質 JIS A 5759 : 2016 による
20 ガラス用フィルム [5. 13. 5]	性能 ・日射調整フィルム [G] ・SC-1 ・SC-2 ・A ・B ・C ・D ・E ・ガラス飛散防止フィルム ・GI-1 ・GI-2 ・GD-1 ・GD-2 品質 JIS A 5759 : 2016 による

⑥ 内装改修工事	1 改修範囲 [6. 1. 3]	既存開仕壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井, 壁及び床の改修範囲 ※壁厚程度とし, 既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 ※壁厚より高約60mm程度とし, 既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示 天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修 ※既存のまま ・図示
	2 既存床の撤去及び下地補修 [6. 2. 2]	ビニルシート等の除去 ※仕上げ材のみ(接着剤とも) 成層樹脂塗床材の除去工法 ・機械的除去工法 ・目元工法 コンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは, 4章外壁改修工事による。 改修後の床の耐荷重 ※改修箇所の室内
3 既存壁の撤去及び下地補修 [6. 3. 2]	間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 ※改修標準仕様書4. 4. 9によるモルタル塗り (塗り厚25mmを超える場合の補修 ・行う ・行わない) ・図示	表面仕上げの種類 適用箇所 ・A種 ・B種 ・C種
	4 木下地等の表面仕上げ [6. 5. 1]	・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材 施工箇所 樹種 寸法(mm) 等級 形状 含水率 間伐材等の適用 ※2級 ※2級 ※2級 ※2級
⑤ 製材 [G]	6. 5. 2	・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材 施工箇所 樹種 寸法(mm) 等級 形状 含水率 間伐材等の適用 見え掛り面 杉 12.0 ※上小節 節羽目板 絞張 ※A種・B種 見え掛り面以外 ※小節以上 ※A種・B種 ・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材 施工箇所 樹種 寸法(mm) 等級 形状 含水率 間伐材等の適用 ※1等 ※1等 ・「製材の日本農林規格」以外の製材 施工箇所 樹種 寸法(mm) 材面の品質 防虫処理 難燃処理 含水率 間伐材等の適用 () 造作材の場合 (※A種・B種) ・代用樹種を使用できない箇所 () ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・「集材材の日本農林規格」による造作用集材材 施工箇所 樹種 寸法(mm) 見付け材面の品質 間伐材等の適用 ※1等・2等 ※1等・2等 ※1等・2等 ・「集材材の日本農林規格」による化粧びり造作用集材材 施工箇所 化粧薄板の樹種 芯材の樹種 寸法(mm) 化粧薄板の厚さ(mm) 見付け材面の品質 間伐材等の適用 ※1等・2等 ※1等・2等 ※1等・2等 ・「集材材の日本農林規格」による化粧びり構造用集材材 施工箇所 化粧薄板の樹種 芯材の樹種 寸法(mm) 化粧薄板の厚さ(mm) 見付け材面の品質 間伐材等の適用 ※15%以下 ・「集材材の日本農林規格」以外の化粧びり造作用集材材 施工箇所 化粧薄板の樹種 寸法(mm) 化粧薄板の厚さ(mm) 見付け材面の品質 含水率 間伐材等の適用 ※15%以下 ・「集材材の日本農林規格」以外の化粧びり構造用集材材 施工箇所 化粧薄板の樹種 寸法(mm) 化粧薄板の厚さ(mm) 見付け材面の品質 含水率 間伐材等の適用 ※15%以下 ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・「単板種材の日本農林規格」による造作用単板種材 施工箇所 厚さ(mm) 表面の化粧加工 防虫処理 間伐材等の適用 ・有り(加工・天然木加工・塗装加工) ・無し(等級) ・「単板種材の日本農林規格」以外の造作用単板種材 施工箇所 厚さ(mm) 表面の品質 防虫処理 含水率 間伐材等の適用 ・有り(加工・天然木加工・塗装加工) ・無し() ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 普通合板 [G] 施工箇所 厚さ(mm) 表板の樹種名 接合の程度 板面の品質 防虫処理 間伐材等の適用 ※5. 5 ※1類 広葉樹 ※2等以上 ・1等 ※5. 5 ※2類 針葉樹 ※C-D以上 ※5. 5 ※1類 広葉樹 ※2等以上 ・1等 ※2類 針葉樹 ※C-D以上 構造用合板 [G] 施工箇所 厚さ(mm) 等級 表板の樹種名 接合の程度 板面の品質 有効断面係数比 防虫処理 強度等級 間伐材等の適用 ※12 ※A級以上 ・1級 ※1類 ※C-D以上 ※1類 ※C-D以上 パーティクルボード [G] 施工箇所 厚さ(mm) 表裏面の状態による区分 曲り強さによる区分 接着剤による区分 難燃性による区分 ※15 ※13タイプ ※P又はM 構造用パネル 施工箇所 厚さ(mm) 等級 ・1級 ・2級 ・3級 ・4級
	6 造作用集材材 [G] [6. 5. 2]	・「集材材の日本農林規格」による化粧びり造作用集材材 施工箇所 化粧薄板の樹種 寸法(mm) 化粧薄板の厚さ(mm) 見付け材面の品質 間伐材等の適用 ※15%以下 ・「集材材の日本農林規格」以外の化粧びり構造用集材材 施工箇所 化粧薄板の樹種 寸法(mm) 化粧薄板の厚さ(mm) 見付け材面の品質 含水率 間伐材等の適用 ※15%以下 ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・「単板種材の日本農林規格」による造作用単板種材 施工箇所 厚さ(mm) 表面の化粧加工 防虫処理 間伐材等の適用 ・有り(加工・天然木加工・塗装加工) ・無し(等級) ・「単板種材の日本農林規格」以外の造作用単板種材 施工箇所 厚さ(mm) 表面の品質 防虫処理 含水率 間伐材等の適用 ・有り(加工・天然木加工・塗装加工) ・無し() ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 普通合板 [G] 施工箇所 厚さ(mm) 表板の樹種名 接合の程度 板面の品質 防虫処理 間伐材等の適用 ※5. 5 ※1類 広葉樹 ※2等以上 ・1等 ※5. 5 ※2類 針葉樹 ※C-D以上 ※5. 5 ※1類 広葉樹 ※2等以上 ・1等 ※2類 針葉樹 ※C-D以上 構造用合板 [G] 施工箇所 厚さ(mm) 等級 表板の樹種名 接合の程度 板面の品質 有効断面係数比 防虫処理 強度等級 間伐材等の適用 ※12 ※A級以上 ・1級 ※1類 ※C-D以上 ※1類 ※C-D以上 パーティクルボード [G] 施工箇所 厚さ(mm) 表裏面の状態による区分 曲り強さによる区分 接着剤による区分 難燃性による区分 ※15 ※13タイプ ※P又はM 構造用パネル 施工箇所 厚さ(mm) 等級 ・1級 ・2級 ・3級 ・4級
⑦ 接着剤 [6. 5. 3] [6. 8. 2] [6. 9. 3] [6. 11. 4. 5]	6. 5. 3	接着剤は可塑性(難燃性の可塑性を除く)が確保されていないものとする。 ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類 ・図示
	6. 8. 2	

10 防塵・防蟻・防虫処理 [6. 5. 5]	防塵, 防蟻処理が必要な樹種による製材及び集材材 適用部位: () ・薬剤の加工注入による防塵・防蟻処理 適用部位 ・K2 ・K3 ・K4 ・K2 ・K3 ・K4 ・K2 ・K3 ・K4 ・薬剤の塗布等による防塵・防蟻処理 適用部位 ・K2 ・K3 ・K4 ・K2 ・K3 ・K4 ・K2 ・K3 ・K4 処理の方法 適用部位 ※改修標準仕様書6. 5. 5(a) []の7~11による ※改修標準仕様書6. 5. 5(a) []の7~11による ※改修標準仕様書6. 5. 5(a) []の7~11による ・ボード原料接着剤への薬剤注入による防塵・防蟻処理 適用部位: () 防虫処理 ・適用する ・適用しない
	BC造等の内部開仕切軸組 ※杉又は松 床組 窓, 出入口その他 吊元枠, 木掛りの下枠及び敷居 ※ひのき ※松又は杉 縁甲及び上がりがまら ※ひのき ※松又は杉 壁及び天井下地 ※杉又は松
11 内部開仕切, 窓, 床等の木材 [6. 5. 6~9]	② 軽量鉄骨天井下地 野縁等の種類 屋外 (※25形 ・19形) 屋内 (※19形 ・25形) [6. 6. 2] 屋外の軒天井, ヒロロイ天井等 建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法 野縁受, 吊りボルト及びインサートの間隔 ・図示 固定部の端からの間隔 ・図示 野縁の間隔 ・図示 ・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材 施工箇所 樹種 寸法(mm) 等級 形状 含水率 間伐材等の適用 ※2級 ※2級 ※2級 ・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材 施工箇所 樹種 寸法(mm) 等級 形状 含水率 間伐材等の適用 見え掛り面 杉 12.0 ※上小節 節羽目板 絞張 ※A種・B種 見え掛り面以外 ※小節以上 ※A種・B種 ・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材 施工箇所 樹種 寸法(mm) 等級 形状 含水率 間伐材等の適用 ※1等 ※1等 ・「製材の日本農林規格」以外の製材 施工箇所 樹種 寸法(mm) 材面の品質 防虫処理 難燃処理 含水率 間伐材等の適用 () 造作材の場合 (※A種・B種) ・代用樹種を使用できない箇所 () ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・「集材材の日本農林規格」による造作用集材材 施工箇所 樹種 寸法(mm) 見付け材面の品質 間伐材等の適用 ※1等・2等 ※1等・2等 ※1等・2等 ・「集材材の日本農林規格」による化粧びり造作用集材材 施工箇所 化粧薄板の樹種 芯材の樹種 寸法(mm) 化粧薄板の厚さ(mm) 見付け材面の品質 間伐材等の適用 ※15%以下 ・「集材材の日本農林規格」以外の化粧びり構造用集材材 施工箇所 化粧薄板の樹種 寸法(mm) 化粧薄板の厚さ(mm) 見付け材面の品質 含水率 間伐材等の適用 ※15%以下 ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・「単板種材の日本農林規格」による造作用単板種材 施工箇所 厚さ(mm) 表面の化粧加工 防虫処理 間伐材等の適用 ・有り(加工・天然木加工・塗装加工) ・無し(等級) ・「単板種材の日本農林規格」以外の造作用単板種材 施工箇所 厚さ(mm) 表面の品質 防虫処理 含水率 間伐材等の適用 ・有り(加工・天然木加工・塗装加工) ・無し() ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 普通合板 [G] 施工箇所 厚さ(mm) 表板の樹種名 接合の程度 板面の品質 防虫処理 間伐材等の適用 ※5. 5 ※1類 広葉樹 ※2等以上 ・1等 ※5. 5 ※2類 針葉樹 ※C-D以上 ※5. 5 ※1類 広葉樹 ※2等以上 ・1等 ※2類 針葉樹 ※C-D以上 構造用合板 [G] 施工箇所 厚さ(mm) 等級 表板の樹種名 接合の程度 板面の品質 有効断面係数比 防虫処理 強度等級 間伐材等の適用 ※12 ※A級以上 ・1級 ※1類 ※C-D以上 ※1類 ※C-D以上 パーティクルボード [G] 施工箇所 厚さ(mm) 表裏面の状態による区分 曲り強さによる区分 接着剤による区分 難燃性による区分 ※15 ※13タイプ ※P又はM 構造用パネル 施工箇所 厚さ(mm) 等級 ・1級 ・2級 ・3級 ・4級
13 軽量鉄骨天井下地 [6. 7. 3] [表6. 7. 1]	スタッド, ランナーの種類 ※改修標準仕様書6. 7. 3によるスタッドの高さによる区分に応じた種類 スタッドの高さが9mを超える場合 ※図示
14 ビニル床シート [G] [6. 8. 2, 3]	種類 JIS 記号 施工箇所 色柄 特殊機能 厚さ(mm) 備考 ・溶出物のないもの ・溶出物のあるもの ※PS(複層)ニル床シート ・無地 ・マフア柄 ・防汚性 ・耐薬品性 ※2.0 ・F T (複層)ニル床シート ・無地 ・柄物 ・帯電防止 ・防汚性 ・耐薬品性 ※2.5 ・3.0 ・3.0 ・K T (コア)ゾツツニル床シート ・無地 ・柄物 ・帯電防止 ・防汚性 ・耐薬品性 ※2.0 ・3.0 ・F O A (重数ビニル床シート) ・無地 ・柄物 ・帯電防止 ・防汚性 ・耐薬品性 ※2.0 ・3.0 特殊機能 帯電防止 ・JIS A 1455 1.2以上~3.2未満 又は JIS A 1454 1×10 ⁴ ~1×10 ⁶ Ω程度 防汚性 視覚障害者専用 前荷重 防汚
15 ビニル床タイル [G] [6. 8. 2]	JIS 記号 施工箇所 色柄 寸法 特殊機能 厚さ(mm) 備考 ・F T (複層)ニル床シート ・無地 ・柄物 ・帯電防止 ・防汚性 ・耐薬品性 ※2.5 ・3.0 ・3.0 ・K T (コア)ゾツツニル床シート ・無地 ・柄物 ・帯電防止 ・防汚性 ・耐薬品性 ※2.0 ・3.0 ・F O A (重数ビニル床シート) ・無地 ・柄物 ・帯電防止 ・防汚性 ・耐薬品性 ※2.0 ・3.0 特殊機能 帯電防止 ・JIS A 1455 1.2以上~3.2未満 又は JIS A 1454 1×10 ⁴ ~1×10 ⁶ Ω程度 防汚性 視覚障害者専用 前荷重 防汚
16 ビニル幅木 [6. 8. 2]	材質 ・軟質 ・硬質 高さ(mm) ※60 ・75 ・100 厚さ(mm) ※1.5以上
17 ゴム床タイル [6. 8. 2]	色柄 () 厚さ(mm) ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0 寸法(mm) ()
18 カーペット敷き [6. 9. 3~4] [表6. 9. 1]	織じょうたん 種別 バイル形状 織り方 色柄等 帯電性 備考 ・A種 ・カババ 形 ・タイルカーペット ・無地 (性能: ※人体帯電圧 3kV以下) ・B種 ・レアババ 形 ・タイルカーペット ・柄物 (標準品) (性能: ※人体帯電圧 3kV以下) ・C種 ・カト, レアババ 併用 ・タイルカーペット ・適用しない 下敷き材 ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ 8mm タフテッドカーペット バイル形状 バイル長さ(mm) 工法 帯電性 備考 ・カトババ 形 ・5~7 ・ ※全面接着工法 ・適用する ・レアババ 形 ・4~6 ・ (性能: ※人体帯電圧 3kV以下) ・バババババ 形 ・4 ・ グリッパ - 工法 ・) ・カト, レアババ 併用 ・適用しない 下敷き材 (グリッパー工法の場合) ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ 8mm ニードルパンチカーペット 厚さ(mm) () 帯電性 ・適用する(性能: ※人体帯電圧3kV以下) ・) ・適用しない 備考() タイルカーペット バイル形状 種別 施工箇所 寸法 総厚さ(mm) 備考 ※レアババ 形 第一種 施工箇所 寸法 総厚さ(mm) ※6.5 ※レアババ 形 第二種 施工箇所 寸法 総厚さ(mm) ※6.5 ※カババ 形 第一種 施工箇所 寸法 総厚さ(mm) ※6.5 ※カト, レアババ 併用 第一種 施工箇所 寸法 総厚さ(mm) ※6.5 第二種 施工箇所 寸法 総厚さ(mm) ※6.5 タイルカーペットの敷き方 平 場 ※市松敷き ・模様流し 階段部分 ※模様流し ・市松敷き 見切り, 押え金物 ・適用する(材質, 形状等 ※図示) ・適用しない



連絡境界線

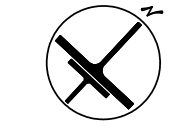


【凡例】

- 工事部分
- 仮設内部仕切り壁
- ガードフェンス
- 工事使用範囲

- 天井点検口 (A) : 内外枠額縁アルミ製 600×600 新設
- 天井点検口 (B) : 内外枠目地アルミ製 600×600 新設
- 天井点検口 (C) : 内外枠額縁アルミ製 450×450 新設
- 天井点検口 (D) : 内外枠目地アルミ製 450×450 新設

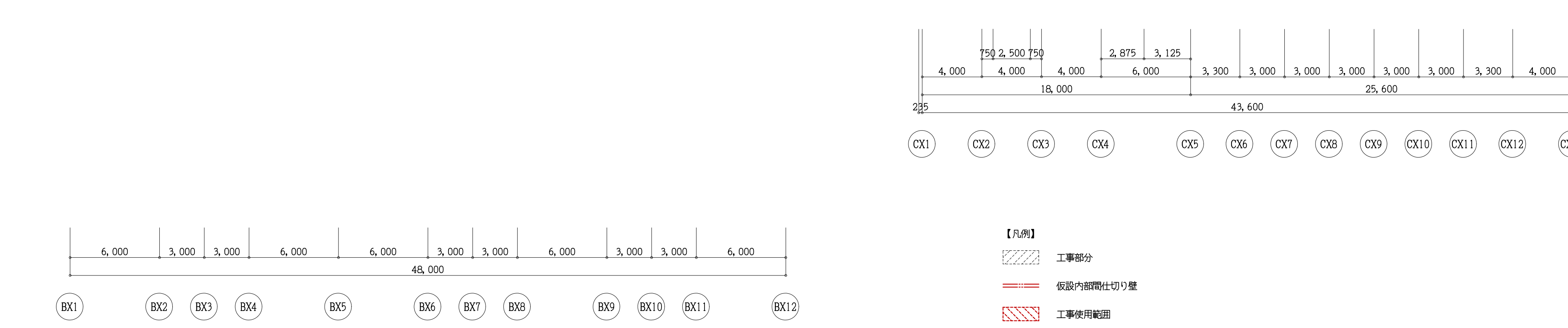
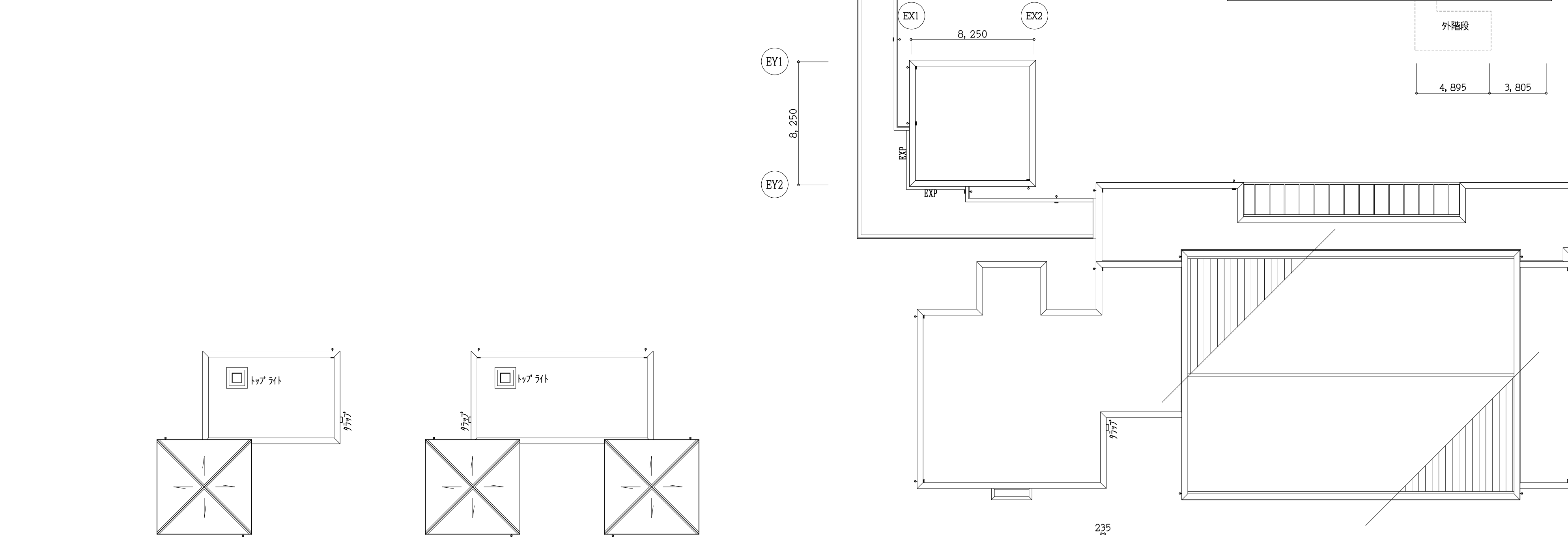
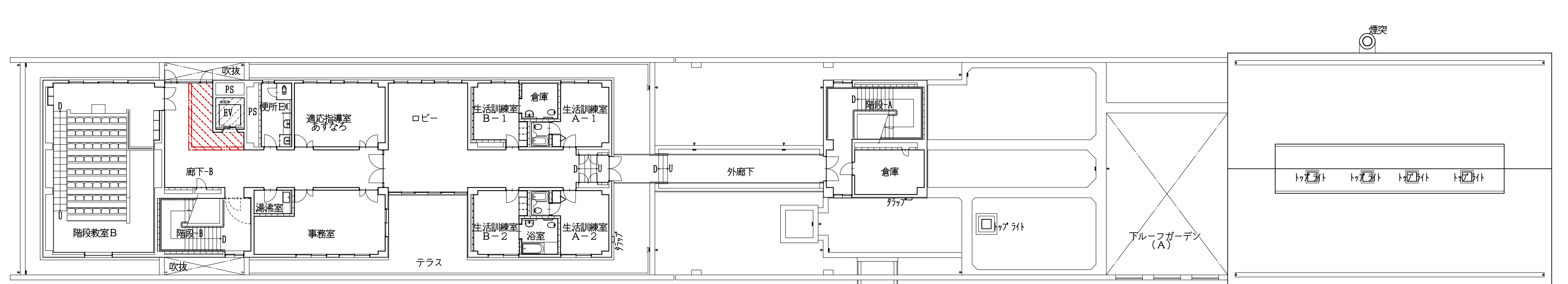
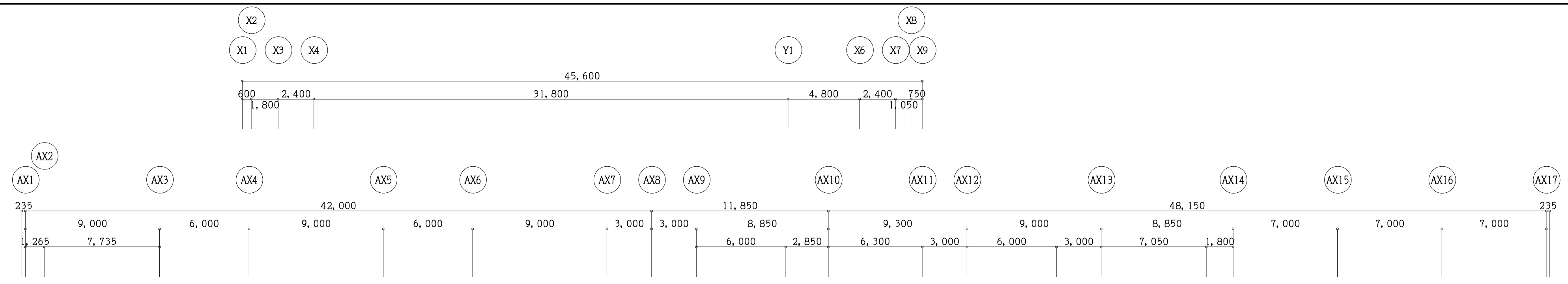
1階平面図 S=1/200



(有) 桑子建築設計事務所
さいたま市大宮区榑町1-330-4
TEL 048-783-5566
一級建築士登録第67048号 桑子 喬

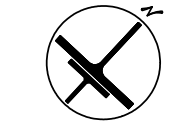
承認 設計 担当
縮尺 A1:1/200
A3:1/400
設計年月日
2019.11.29

工事名称 市立富士見特別支援学校エレベーター更新工事
図面名称 1階平面図



- 【凡例】
- 工事部分
 - 仮設内部間仕切り壁
 - 工事使用範囲

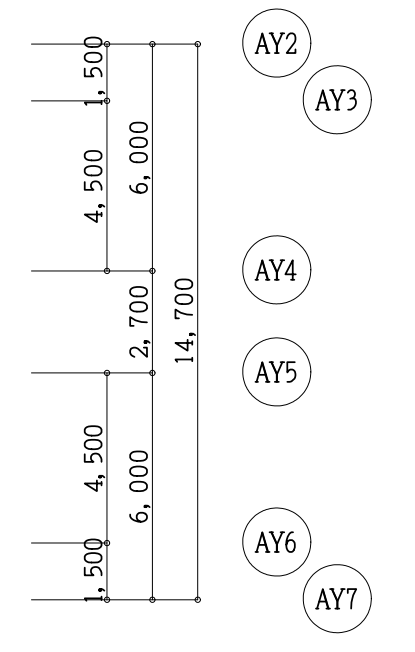
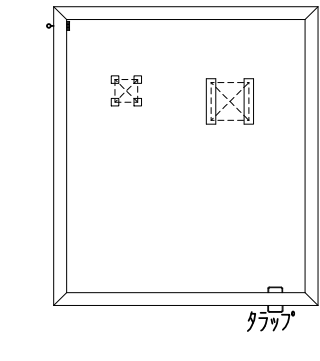
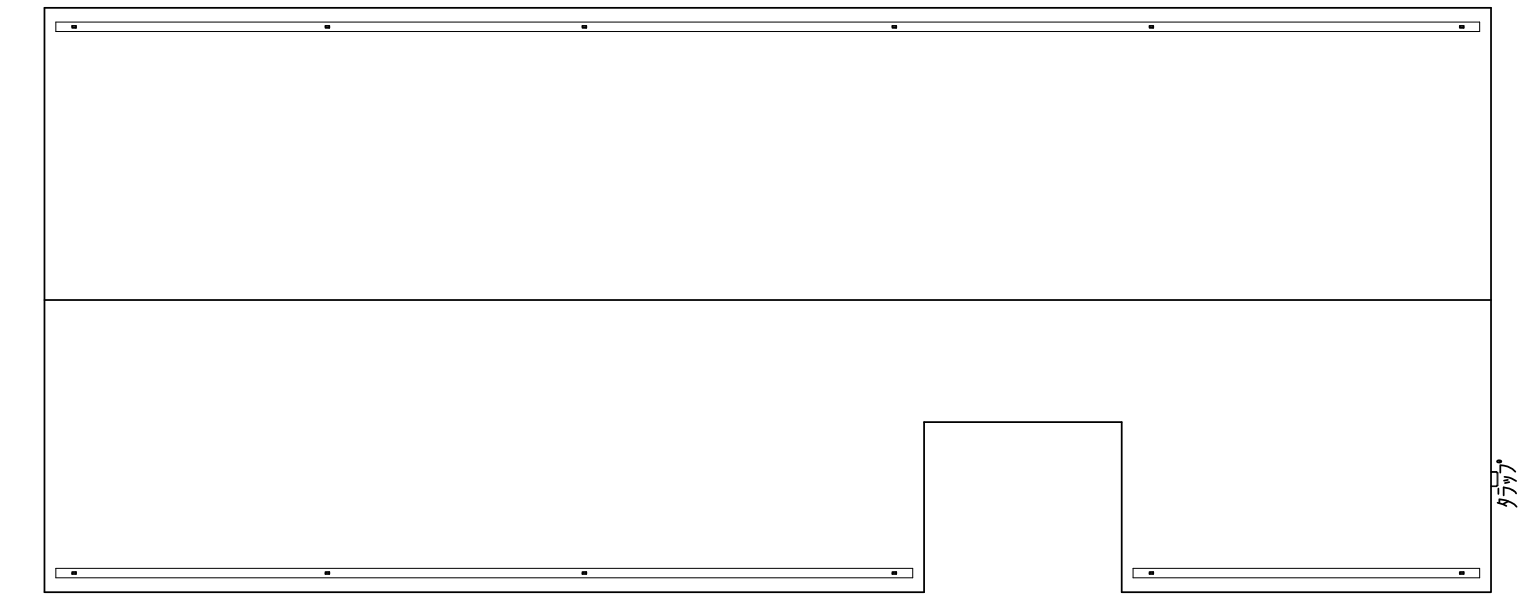
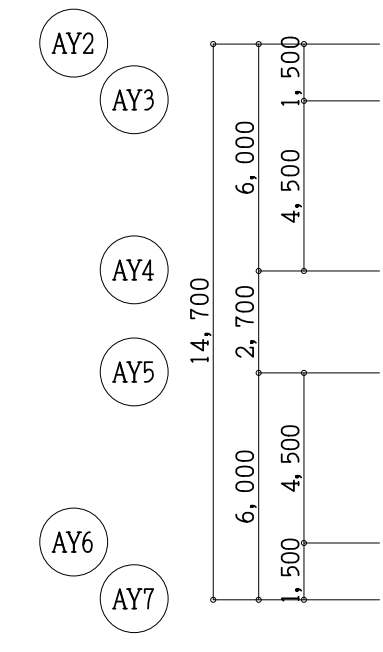
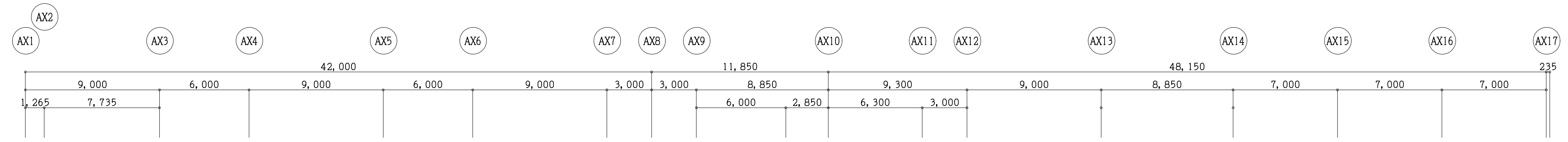
3階平面図 S=1/200



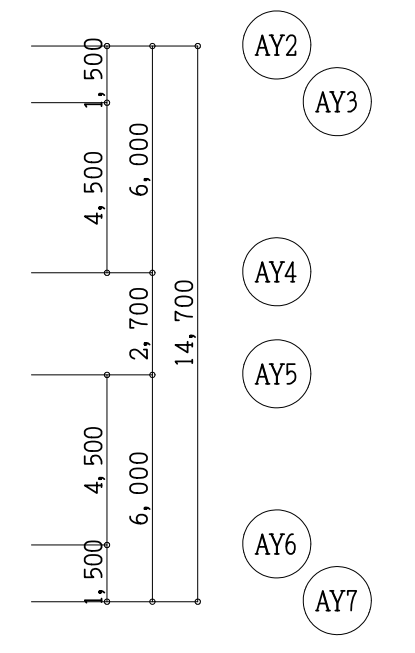
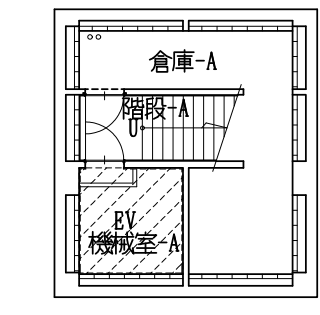
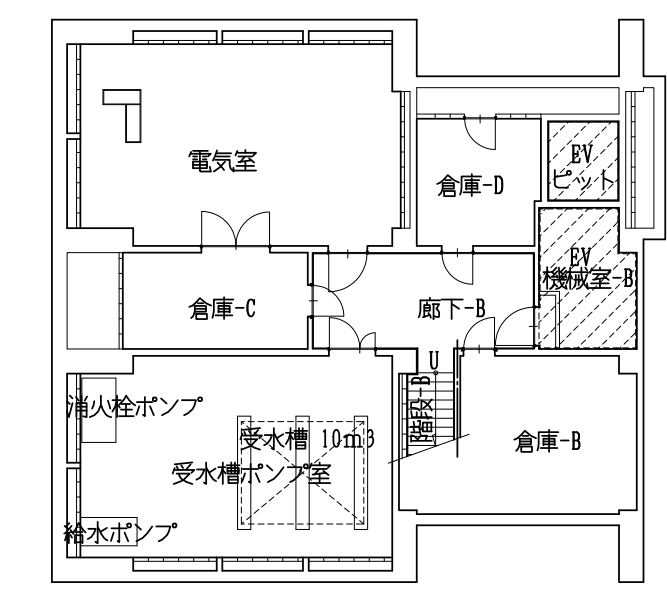
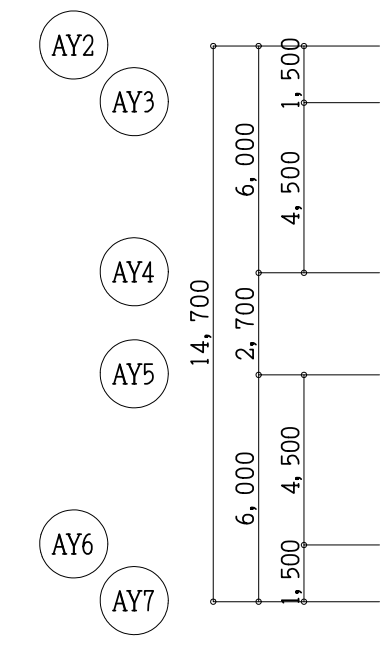
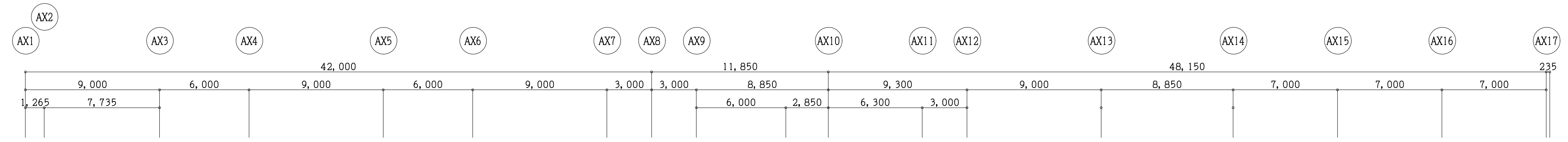
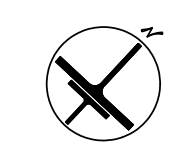
(有) 桑子建築設計事務所
 さいたま市大宮区榑町1-330-4
 TEL 048-783-5566
 一級建築士登録第67048号 桑子 喬

承認 設計 担当
 縮尺 A1:1/200
 A3:1/400
 設計年月日
 2019.11.29

工事名称 市立富士見特別支援学校エレベーター更新工事
 図面名称 3階平面図

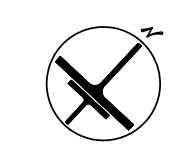


R階平面図 S=1/200



【凡例】
 工事部分

B1階平面図 S=1/200

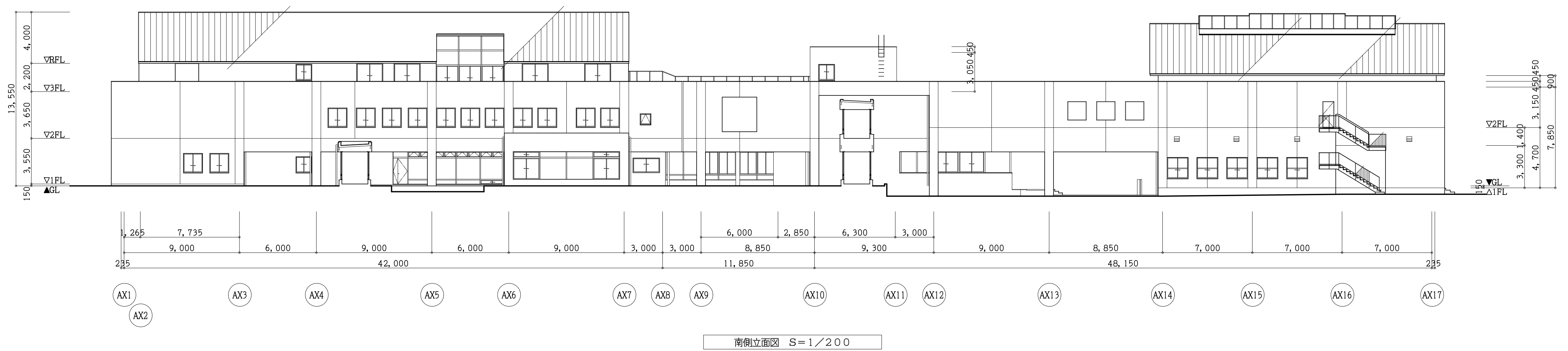


(有) 桑子建築設計事務所
 さいたま市大宮区榑町1-330-4
 TEL 048-783-5566
 一級建築士登録第67048号 桑子 喬

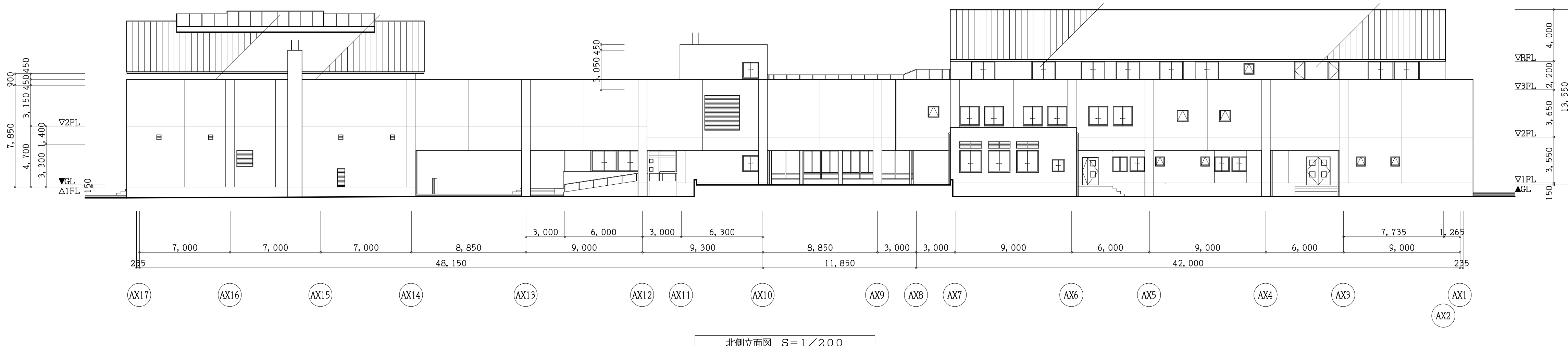
承認 設計 担当

縮尺 A1:1/200
 A3:1/400
 設計年月日
 2019.11.29

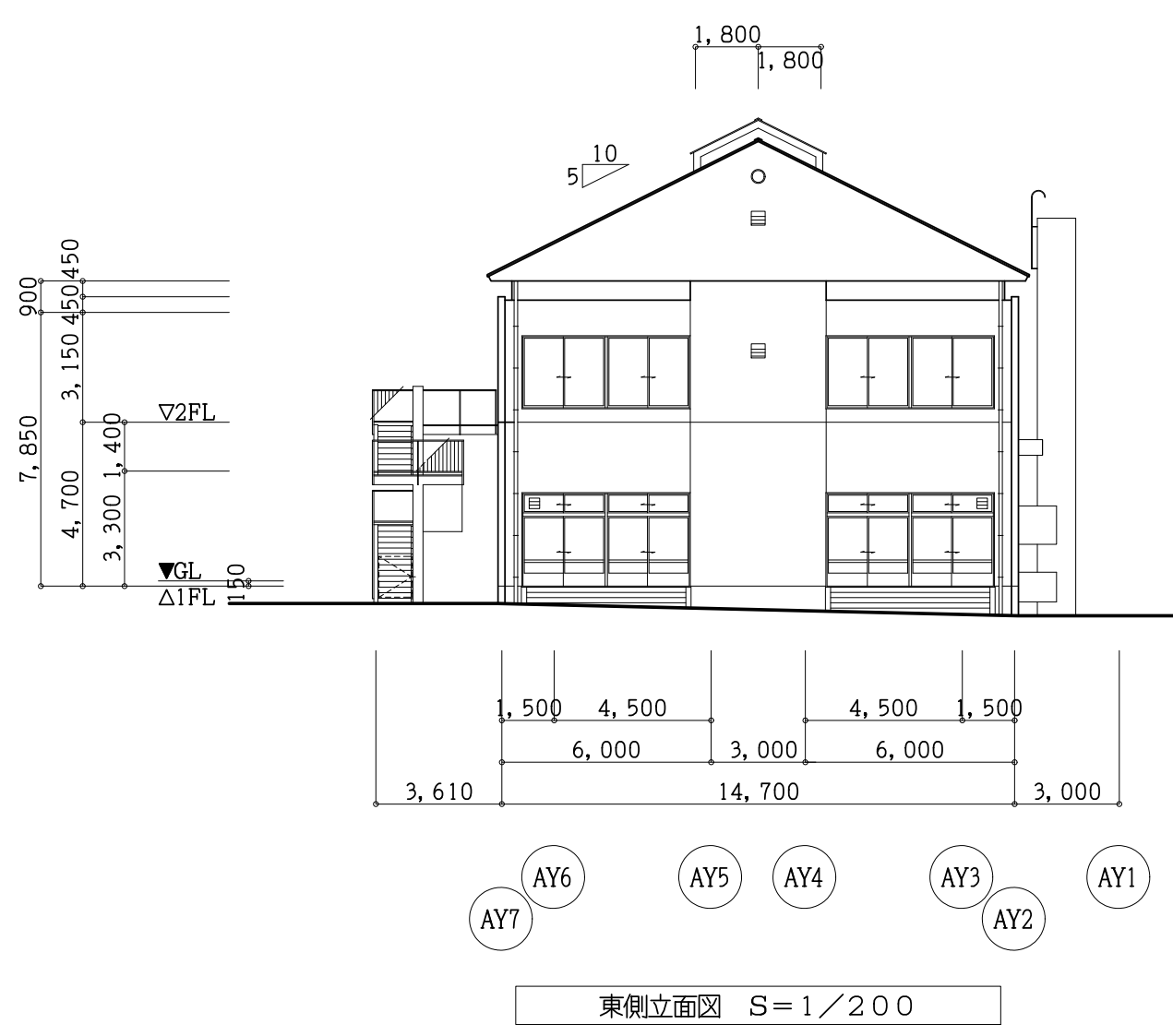
工事名称 市立富士見特別支援学校エレベーター更新工事
 図面名称 B1階、R階平面図



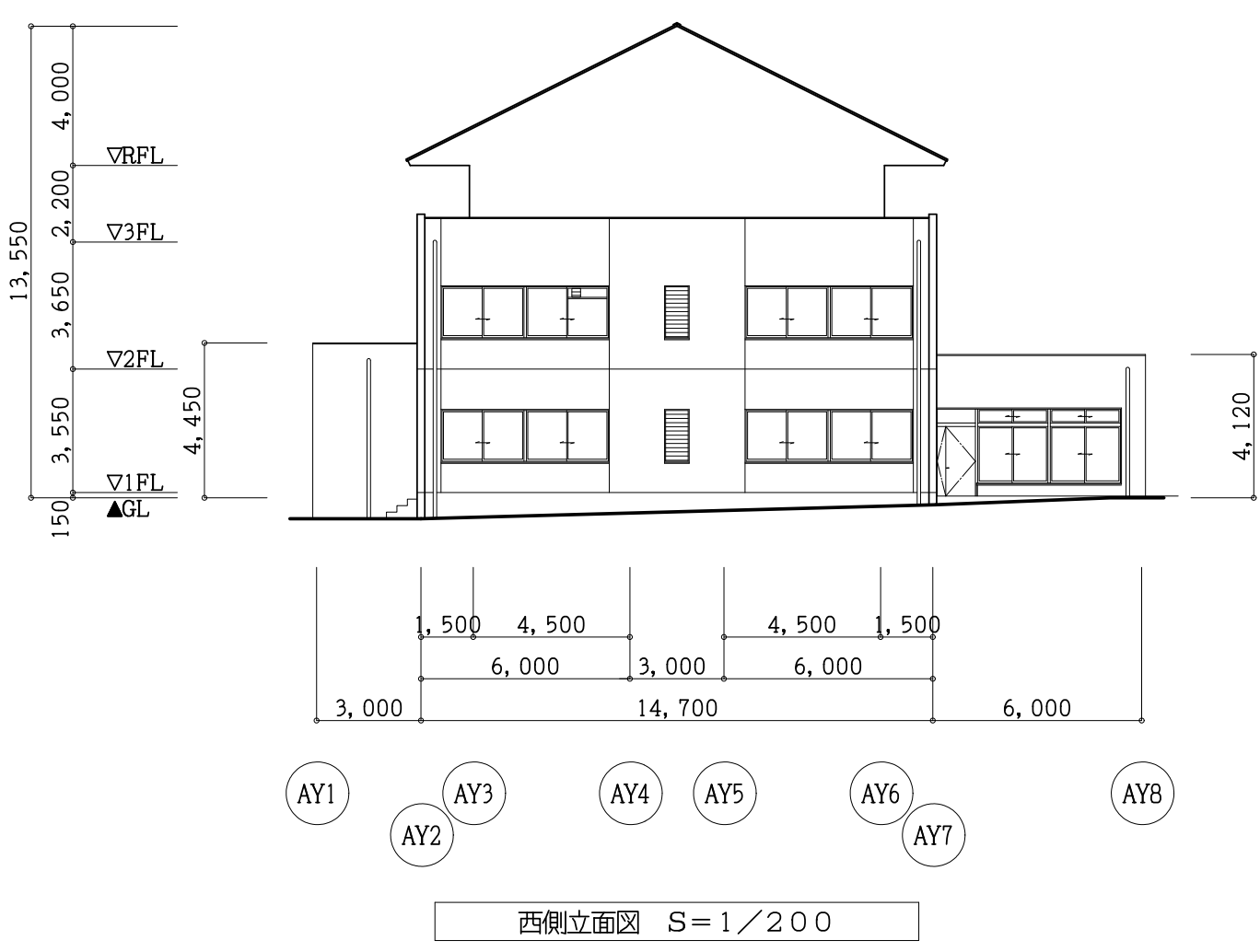
南側立面図 S=1/200



北側立面図 S=1/200



東側立面図 S=1/200



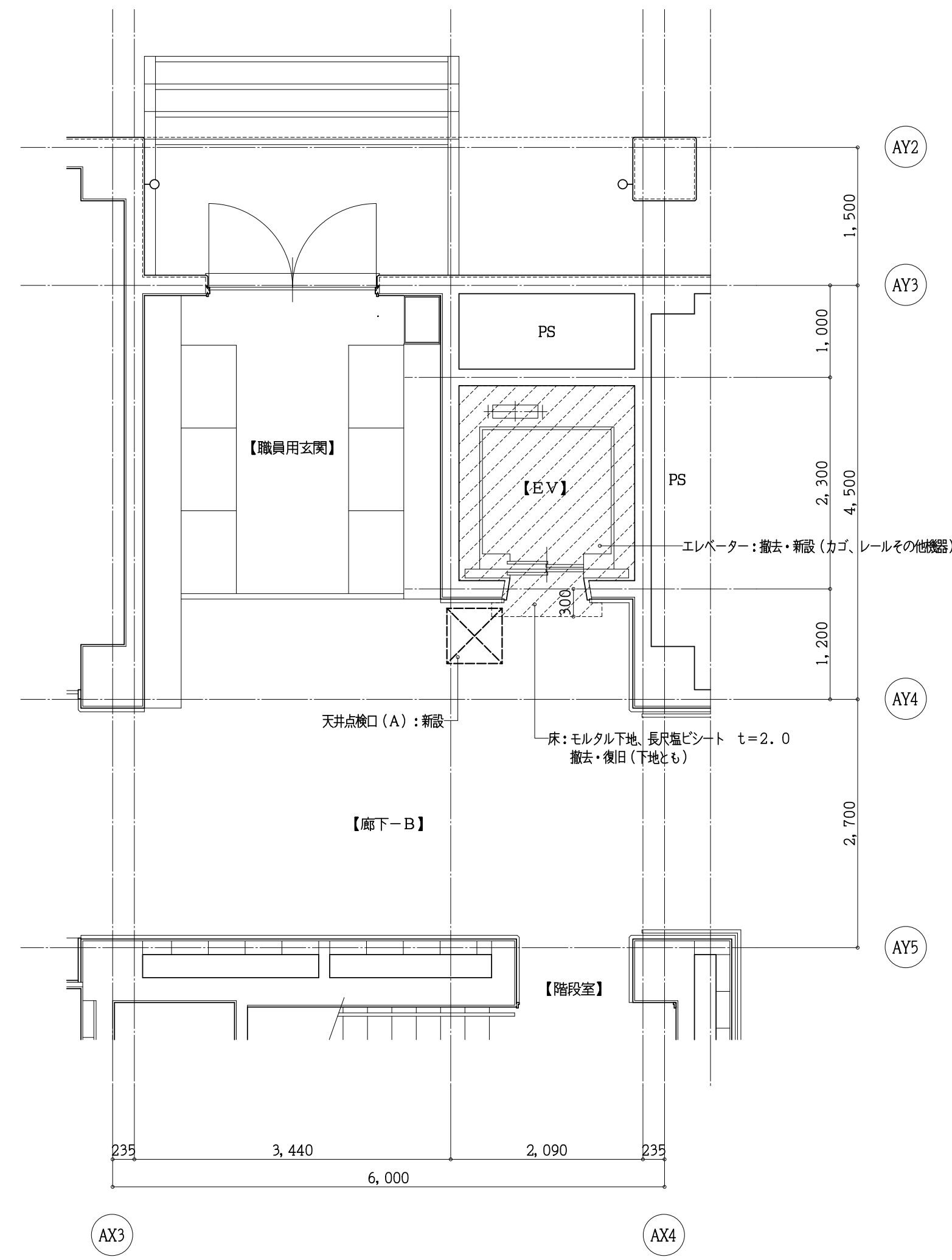
西側立面図 S=1/200

(有) 桑子建築設計事務所
さいたま市大宮区榑町1-330-4
TEL 048-783-5566
一級建築士登録第67048号 桑子 喬

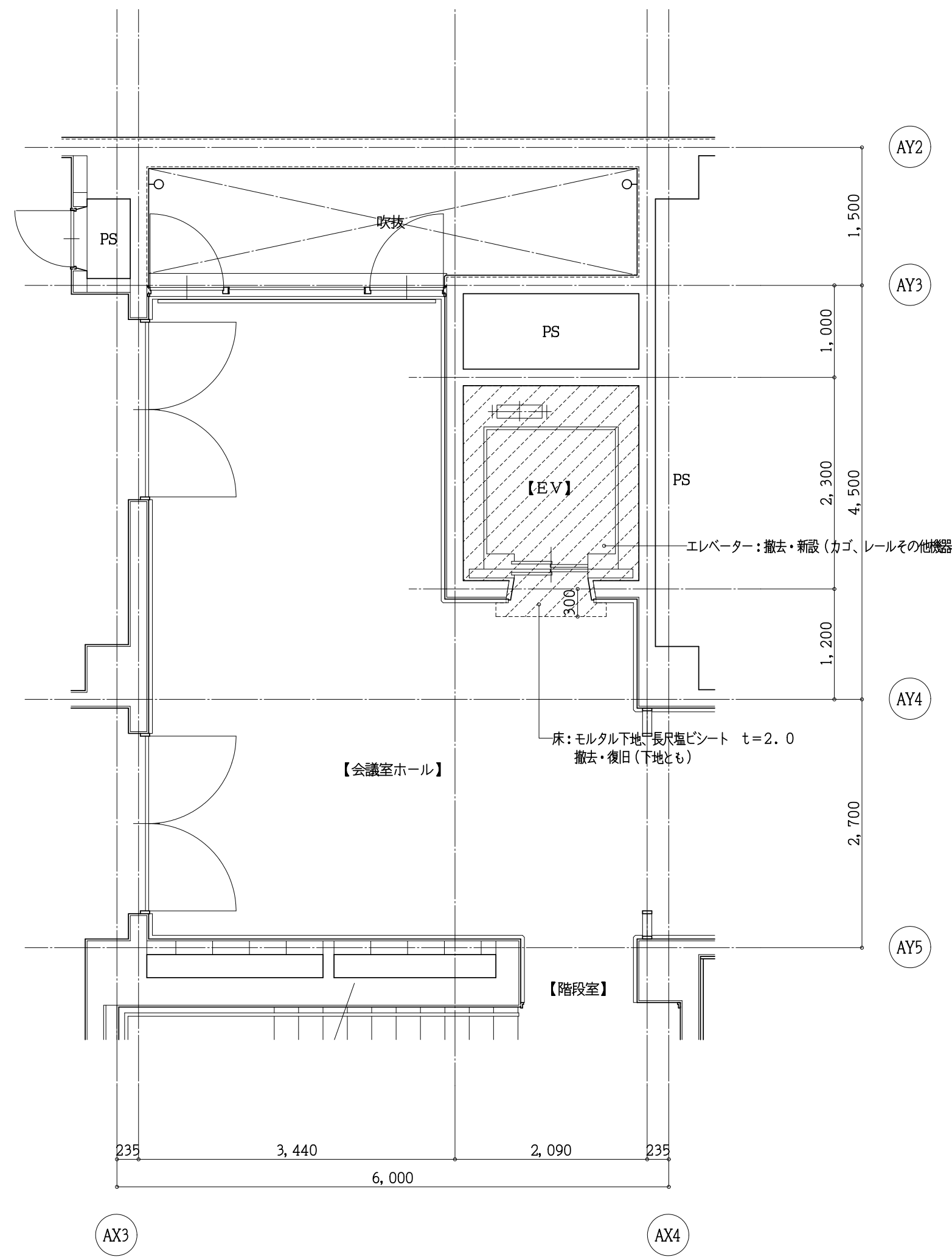
承認 設計 担当

縮尺 A1:1/200
A3:1/400
設計年月日
2019.11.29

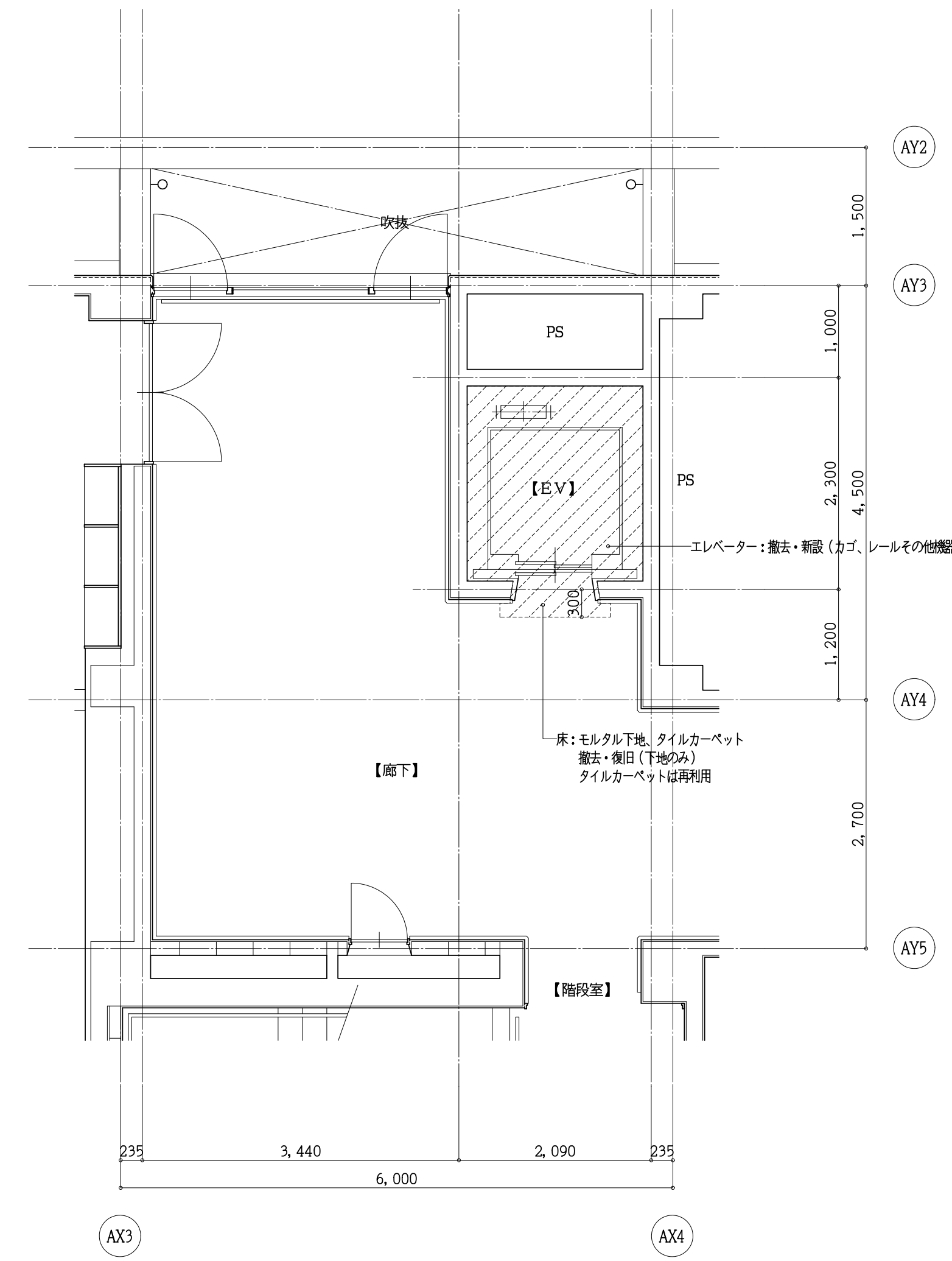
工事名称 市立富士見特別支援学校エレベーター更新工事
図面名称 立面図



1階平面詳細図 S=1/50



2階平面詳細図 S=1/50



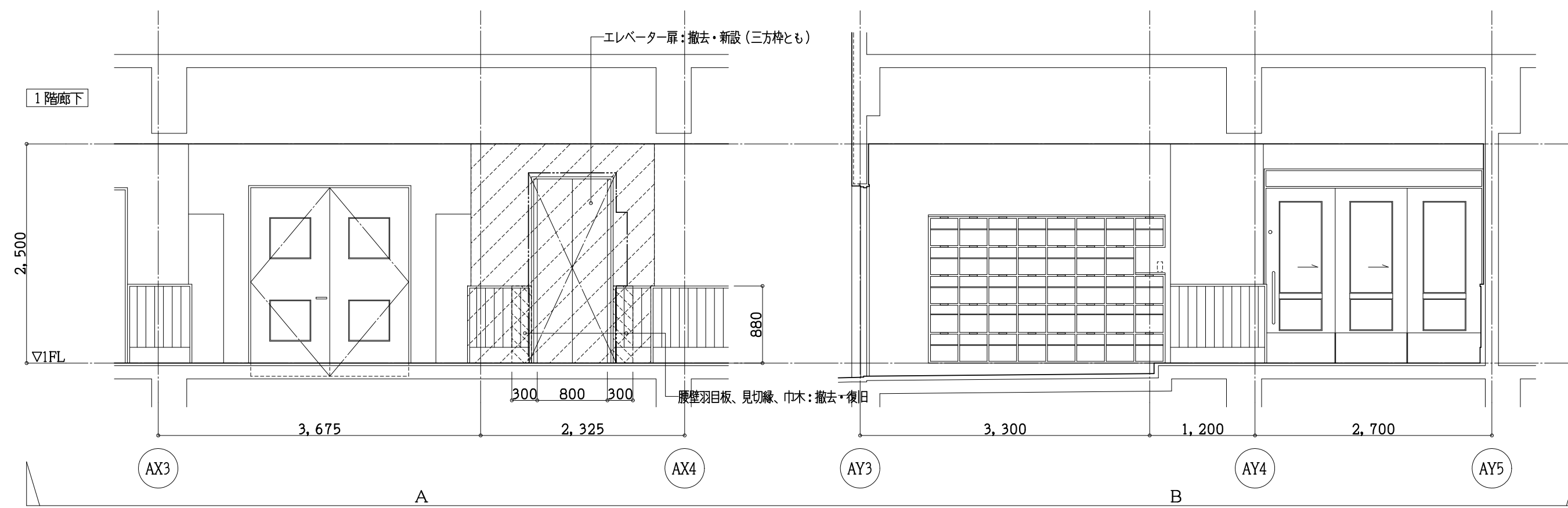
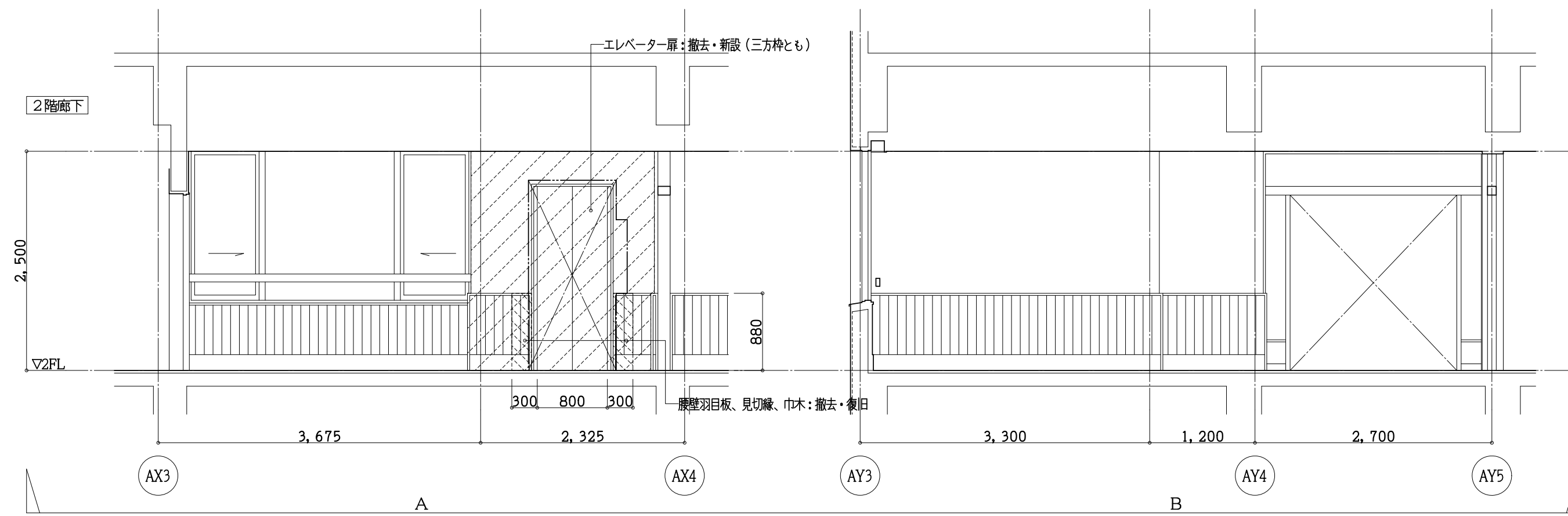
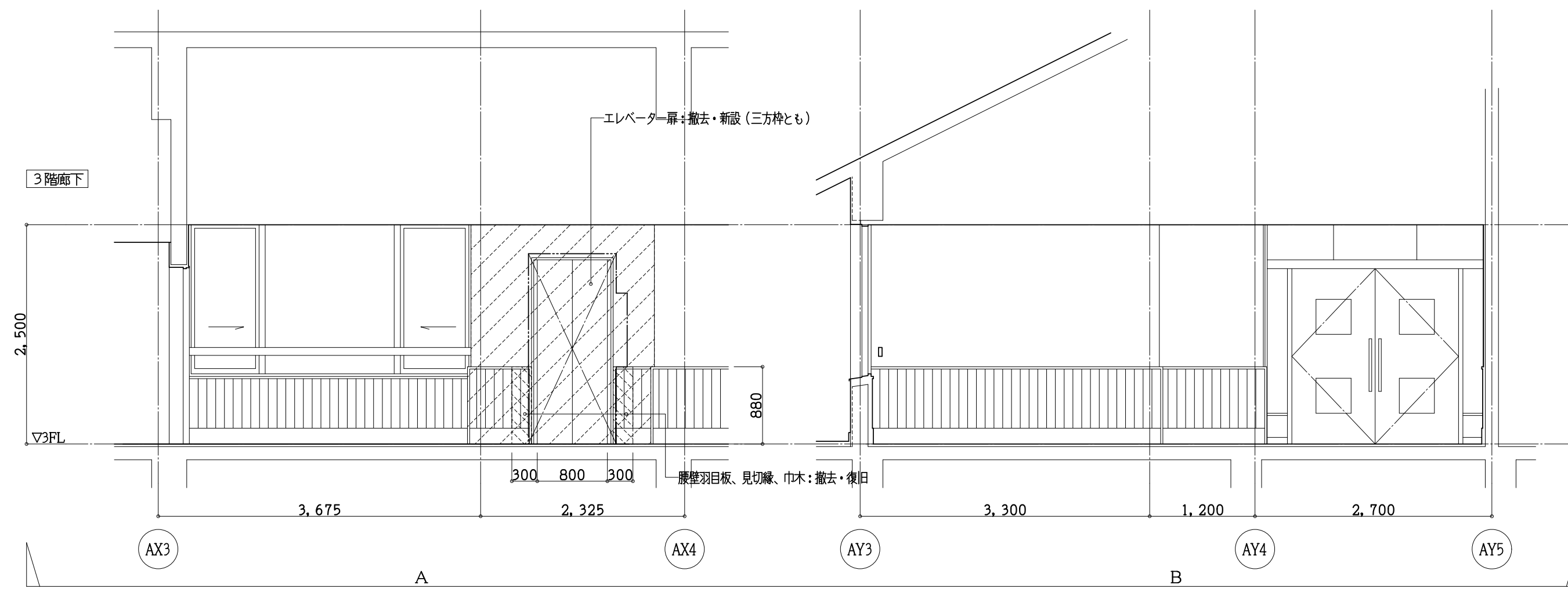
3階平面詳細図 S=1/50

- 改修範囲
- 天井点検口 (A): 内外枠額縁アルミ製 600×600 新設

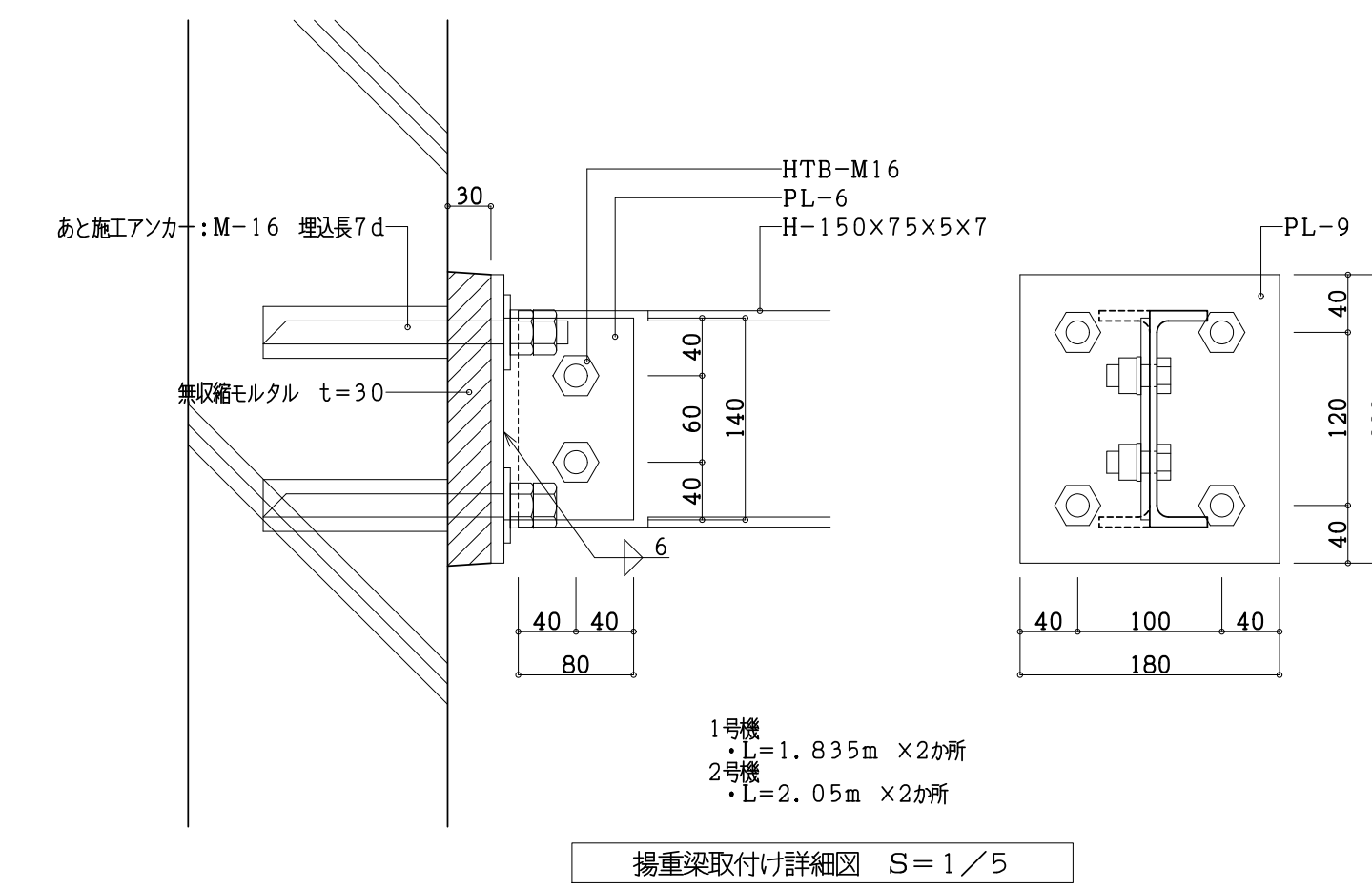
A
D
C
B

階		室名	床	床仕上げ	巾木	壁	天井	廻縁	天井高	備考
1階	廊下-B	改修前	モルタル下地、長尺塩ビシート t=2.0	FL±0	桧上小節 180×25、UC	モルタル金ゴテの上、EP-G (柱型共) 腰壁: 杉上小節羽目板 t=12.0 (縦張)の上、UC	LGS下地、GB-R t=9.5 (継目処理)の上、EP	塩ビ製	2,500	手摺: タモ積層 40×90 UC
		改修後	モルタル下地、長尺塩ビシート t=2.0	同上	桧上小節 180×25、UC	モルタル金ゴテの上、EP-G (柱型共) 腰壁: 杉上小節羽目板 t=12.0 (縦張)の上、UC	既存のまま	既存のまま	同上	手摺: 既存のまま 天井点検口 (A): 内外枠額縁アルミ製 600×600 新設 ×3カ所
1階	事務室	改修前	モルタル下地、長尺塩ビシート t=2.0	FL±0	ソフト作木 h=75	モルタル金ゴテの上、EP-G (柱型共)	LGS下地、GB-R t=9.5+DR t=12.0	塩ビ製	2,500	天井点検口 (C): 内外枠額縁アルミ製 450×450 新設 ×1カ所
		改修後	既存のまま	同上	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	同上	
2階	会議室ホール	改修前	モルタル下地、長尺塩ビシート t=2.0	FL±0	桧上小節 180×25、UC	モルタル金ゴテの上、EP-G (柱型共) 腰壁: 杉上小節羽目板 t=12.0 (縦張)の上、UC	LGS下地、GB-R t=9.5 (継目処理)の上、EP	塩ビ製	2,500	手摺: タモ積層 40×90 UC
		改修後	モルタル下地、長尺塩ビシート t=2.0	同上	桧上小節 180×25、UC	モルタル金ゴテの上、EP-G (柱型共) 腰壁: 杉上小節羽目板 t=12.0 (縦張)の上、UC	既存のまま	既存のまま	同上	手摺: 既存のまま
3階	廊下-B	改修前	モルタル下地、タイルカーペット	FL±0	桧上小節 180×25、UC	モルタル金ゴテの上、EP-G (柱型共) 腰壁: 杉上小節羽目板 t=12.0 (縦張)の上、UC	LGS下地、GB-R t=9.5+DR t=12.0	塩ビ製	2,500	手摺: タモ積層 40×90 UC
		改修後	モルタル下地、タイルカーペット	同上	桧上小節 180×25、UC	モルタル金ゴテの上、EP-G (柱型共) 腰壁: 杉上小節羽目板 t=12.0 (縦張)の上、UC	既存のまま	既存のまま	同上	手摺: 既存のまま
B1階	EV機械室-B	改修前	シンダーコンクリート (t100) 箇所仕上げ	FL+100	-	硬質グラスウール t50 (ピン止)	硬質グラスウール t50 (ピン止)	-	直天	床面EV機器基礎 (鉄骨部材)の切断及び撤去 ※切断面の防錆塗装とも
		改修後	既存のまま	同上	-	樹脂モルタル金ゴテ薄塗り仕上げ	樹脂モルタル金ゴテ薄塗り仕上げ	-	同上	

特記事項		共通事項		凡例		認定番号		参考	
				LGS: 建築用鋼製下地材 JIS A 6517			EP: 合成樹脂エマルジョンペイント塗り	メーカー	
				GB-R: せつこうボード			EP-G: つや有り合成樹脂エマルジョンペイント塗り		
				DR: 岩綿吸音板			UC: ウレタン樹脂ワニス塗り		



- 改修範囲
- 腰壁羽目板、見切縁、巾木:撤去・復旧範囲
- 壁カッター入れ位置

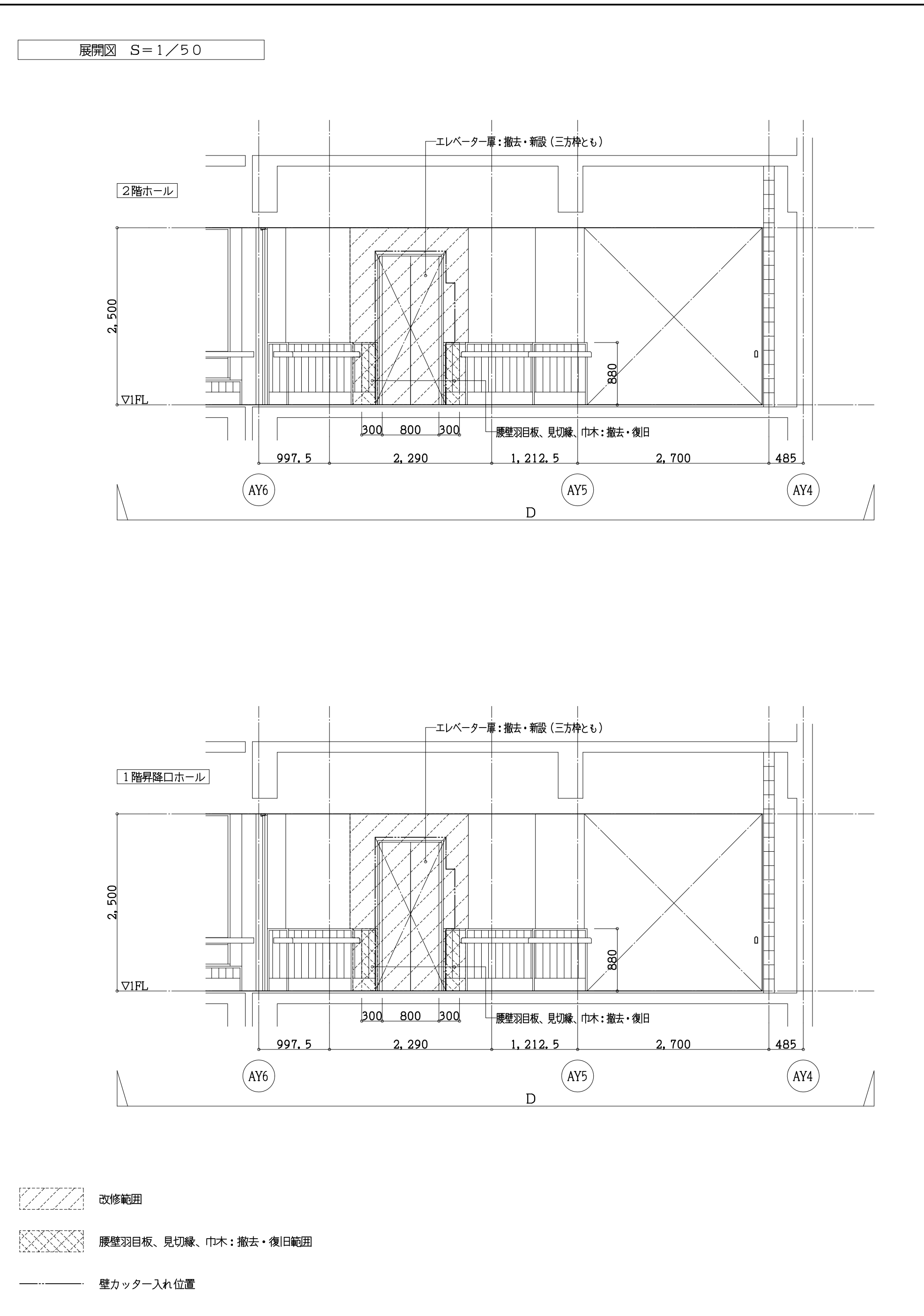
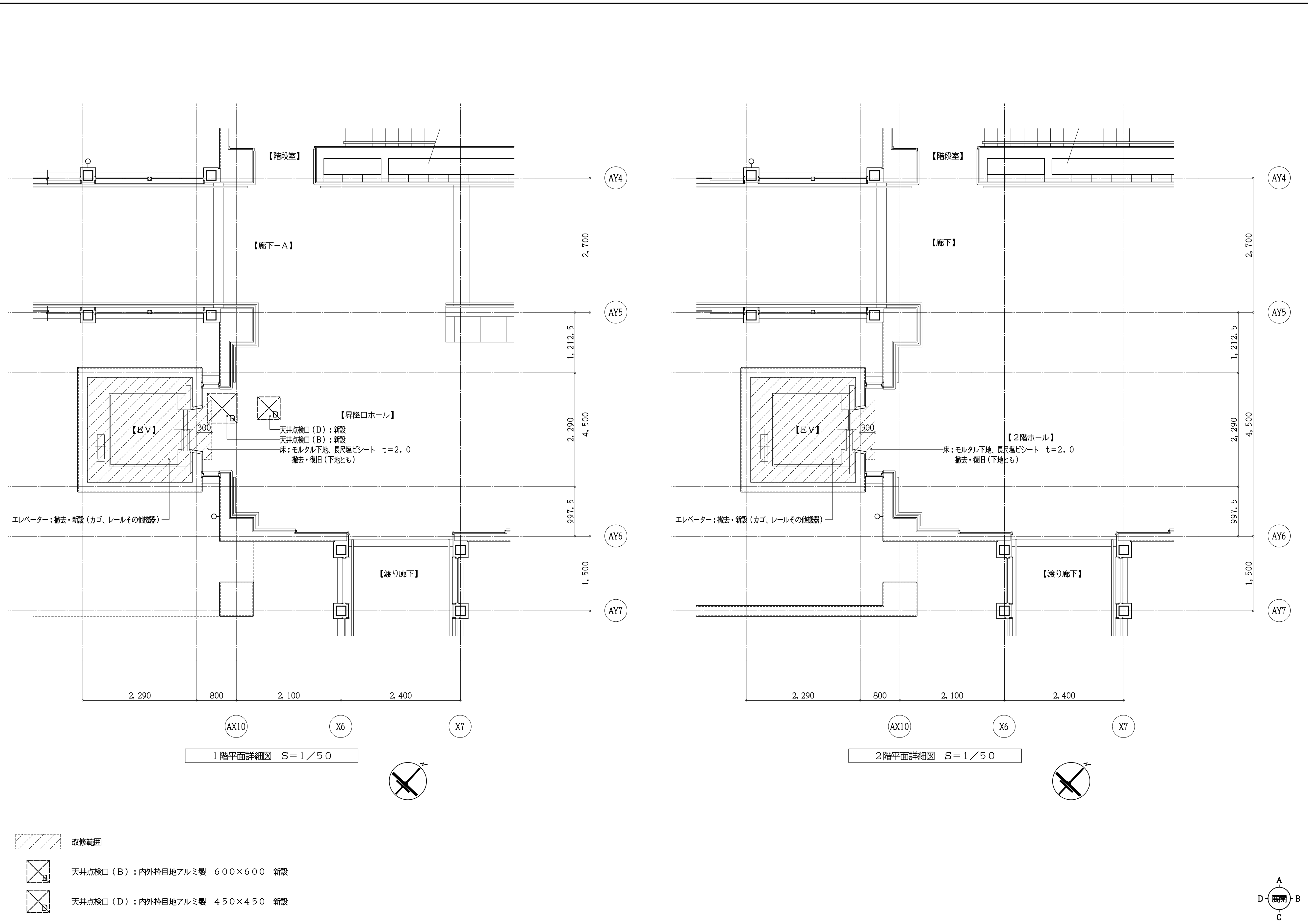


(有) 桑子建築設計事務所
 さいたま市大宮区榑町1-330-4
 TEL 048-783-5566
 一級建築士登録第67048号 桑子 喬

承認 設計 担当

縮尺 A1:1/5, 50
 A3:1/10, 100
 設計年月日
 2019.11.29

工事名称 市立富士見特別支援学校エレベーター更新工事
 図面名称 1号機 展開図



- 改修範囲
- 天井点検口 (B) : 内外枠目地アルミ製 600×600 新設
- 天井点検口 (D) : 内外枠目地アルミ製 450×450 新設

- 改修範囲
- 腰壁羽目板、見切縁、巾木: 撤去・復旧範囲
- 壁カッター入れ位置

内部仕上げ											
階	室名	改修前	改修後	床	床仕上げレベル	巾木	壁	天井	廻縁	天井高	備考
1階	昇降口ホール	改修前	モルタル下地、長尺塩ビシート t=2.0	FL±0	桧上小節 180×25、UC	モルタル金ゴテの上、EP-G (柱型共)	LGS下地、GB-R t=9.5 (継目処理)の上、EP	塩ビ製	2,500	手摺: タモ積層 40×90 UC	
		改修後	モルタル下地、長尺塩ビシート t=2.0	同上	桧上小節 180×25、UC	モルタル金ゴテの上、EP-G (柱型共)	既存のまま	塩ビ製	同上	手摺: 既存のまま	
2階	2階ホール	改修前	モルタル下地、長尺塩ビシート t=2.0	FL±0	桧上小節 180×25、UC	モルタル金ゴテの上、EP-G (柱型共)	LGS下地、GB-R t=9.5 (継目処理)の上、EP	塩ビ製	2,500	手摺: タモ積層 40×90 UC	
		改修後	モルタル下地、長尺塩ビシート t=2.0	同上	桧上小節 180×25、UC	モルタル金ゴテの上、EP-G (柱型共)	既存のまま	塩ビ製	同上	手摺: 既存のまま	
B1階	EV機室-A	改修前	シンダーコンクリート (t100) 直均し仕上げ	FL+100	-	硬質グラスワール t50 (ピン止)	硬質グラスワール t50 (ピン止)	-	遮天		
		改修後	既存のまま	同上	-	樹脂モルタル金ゴテ薄塗り仕上げ	樹脂モルタル金ゴテ薄塗り仕上げ	-	同上	床面EV機器基礎 (鉄骨部材)の切断及び撤去 ※切断面の防錆塗装とも	

特記事項											
共通事項	凡例	LGS: 建築用鋼製下地材 JIS A 6517					EP: 合成樹脂エマルジョンペイント塗り			認定番号	参考
		GB-R: せつこうボード					EP-G: つや有り合成樹脂エマルジョンペイント塗り				メーカー
		DR: 岩綿吸音板					UC: ウレタン樹脂ワニス塗り				

エレベーター 改修仕様

項目		改修後		
基本仕様	号機名	No. 1		
	用途	乗用		
	制御方式	可変電圧可変周波数制御（回生なし）		
	操作方式	乗合全自動方式（2BC）		
	積載質量	750 kg 最大定員 11名		
	定格速度	45 m/min		
	電源	動力用	三相交流 200V 50Hz	
		照明用	単相交流 100V 50Hz	
	巻上機	PMF011S-J 形		
	電動機容量	3.8 kW		
つな車	（径）410mm			
ロープ	10mm × 3本 2:1ローピング			
停止箇所	かご側	1〜3階（計3箇所）		
	おもり側	189-B		
レール	189-B			
かご内法	閉口：1400mm × 奥行：1350mm			
出入口	幅：800mm × 高さ：2100mm			
戸形式	一枚戸開き式			
管制運転	P波センサ付地震管制運転（EER-P） 火災管制運転（FER）（火報信号連動式） 停電時自動着床装置（MELD） 戸開走行保護装置（UCMP） 耐震クラスA14 遮煙機能（ファイブフェンスタ） 垂直仕掛 垂直間隔10mm 視覚障がい者対応仕様 マルチビームドアセンサ（2D） 気配りドア ホールモーションセンサ（3D） 戸開延長ボタン かご呼び取消機能 乗場休止スイッチ（取付階：1階） かご内合成アラウンス インターホン呼び出し応答灯 かご室スピーカ			
乗場仕様	三方枠	鋼板塗装仕上		
	乗場の戸	鋼板塗装仕上		
	敷居	複質アルミ製		
	乗場ボタン	押ボタン	φ33：丸型ステンレスクリックボタン	
かご室仕様	車いす用	押ボタン	φ33：丸型ステンレスクリックボタン	
	乗場ボタン	フェースプレート	ステンレスヘアライン仕上（樹脂フレーム付）	
	位置表示器	表示方式	LEDセグメント式；押しボタン型	
	鏡	鏡	鋼板塗装仕上	
かご室仕様	天井	鋼板塗装仕上		
	照明	乳白色樹脂照明板 白色LED		
	停電灯	6V-10W×1灯		
	出入口上板・壁	化粧鋼板		
	かご室戸	化粧鋼板		
	出入柱	ステンレスヘアライン仕上		
	袖壁	ステンレスヘアライン仕上		
	巾木	アルミ製		
	敷居	複質アルミ製		
	床	樹脂タイル t2 ライツフロアファン		
換気	換気	ボタン		
	かご操作盤	インジケータ	φ33：丸型ステンレスクリックボタン	
		フェースプレート	液晶インジケータ	
	車いす用	インジケータ	φ33：丸型ステンレスクリックボタン	
フェースプレート		LEDセグメント式		
手すり	手すり	ステンレス製パイプ、ヘアライン仕上（φ38）		
	鏡	ブラケット：アルミダイカスト（銀色塗装） ステンレス鏡面仕上 t2.5		

※エレベーターの選定について

エレベーターメーカーは、三菱電機ビルテクノサービス（株）、（株）日立ビルシステム、東芝エレベーター（株）、フジテック（株）、日本オーチス・エレベーター（株）の5社の中から選定すること。

※エレベーターの自主点検は、令和2年12月までおこなうこと。

1. 建築工事関係		施工範囲の確認			備考	
工事内容		建築	昇降機	電気		
施 工 関 係	1 ビット下部の使用 ※有の場合の用途	有・無	-	-	法的には使用禁止 ※建物側の対策も必要；	
	2 煙道ドア（防煙対策） 設置階 全階	無・流用・新規	-	○	当社煙道ドアの場合 ・停電時自動着床装置もしくは戸閉め保証用バッテリー盤、 火災時管制運転（自動方式）が必要となります。 ・建物に自火報設備が無い場合、エレベーターホール全フロアーに煙感知器を設置下さい。 施工範囲が昇降機の場合、自火報接点要。2-11項参照。	
	3 ビット段違いの場合の保護柵工事	無・流用・新規	-	-	-	ビット底面より、H=1800mm以上
	4 昇降路隣接居室対策	有・無	-	-	-	返し扉防振
	5 ビット深さ有効寸法の確保（1250mm）	流用・新規	○	-	-	増し打ち 有・無（増し打ち - mm）
	6 オーバーヘッド有効寸法の確保（3400mm）	流用・新規	-	-	-	-
	7 耐震クラス	A14・S14	-	○	-	建築高さ60m超の場合フロアレスポンス・固有周期・層間変形角を提供願います。
	8 ビット内機器撤去に伴うビット床面ハツリ工事	有・無	○	-	-	-
	9 ビット内機器設置後の防水仕上工事	有・無	○	-	-	モルタル・樹脂防水・ウレタン・止水工事
	10 ビット床強度の対策工事	有・無	○	-	-	エレベーター荷重に耐えること ※平面図に表示
	11 昇降路内ジャンカー・セパルト補修工事	有・無	○	-	-	-
	12 乗場機器撤去に伴う壁ハツリ及び補修工事 （各階出入口の穴あけ工事）	有・無	○	-	-	-
	13 乗場機器設置後の壁仕上げ工事	有・無	○	-	-	注意 幕板付の場合、天井解体後
	14 各階三方枠周囲の躯体ハツリ出し工事	有・無	○	-	-	-
	15 各階三方枠周囲のモルタル詰め工事	有・無	○	-	-	S造で必要な場合はロックウール詰め
	16 幕板部天井解体・仕上工事	有・無	-	-	-	-
	17 各階敷居取付用受台の設置工事	流用・新規 ※新規右記入	-	-	-	RC躯体持出し（ ） EV手配（稲電製）シキイ受材（ ）階 鉄骨鋼材（ ）
施 工 関 係	18 通過階の救出口扉設置工事 有効幅750mm高さ1200mm以上で外開き	無・流用・新規	-	-	停止階床間隔が1.0mを超える場合に必要 （自閉、自動旋錠、ドアスイッチ付で、扉裏面〜カゴ敷居先端まで30mm以上12.5mm以下）	
	19 鉄骨構造での支持鋼材の取付工事	無・流用・新規	-	-	①レール支持用（ファスナー） ②三方枠・ハンガーケース取付用鋼材 ③中間ビーム・立柱	
	20 揚重ビーム取付工事	無・流用・新規	○	-	-	据付後（撤去・残置）
	21 梁・壁と機器との干渉	有・無	-	-	-	※干渉の有る場合の対策： U
	22 機械室内機器撤去に伴う床面ハツリ工事	有・無	○	-	-	-
	23 機械室内機器撤去後の仕上復旧工事	有・無	○	-	-	-
	24 機械室内壁面の吸音材撤去工事	有・無	○	-	-	-
	25 機械室内壁面の仕上工事	有・無	○	-	-	-
	26 機械室内床面の仕上工事	有・無	○	-	-	シンナー打ち・防塵塗装
	27 機械室内換気扇及びガラの撤去工事	有・無	-	-	-	ダクト（有・無）
28 昇降路内配管穴の塞ぎ工事（防火区画の処理工事）	有・無	○	-	○	既設配管穴（流用・残置・閉塞） 電源工事（既設延長等）がある場合、2-15項を参照のこと。	
そ の 他	29 昇降路油圧配管穴の塞ぎ工事	有・無	○	-	-	
	30 油圧パワーユニットの油抜き工事	有・無	-	○	-	
	31 昇降路・機械室内のEV関係外配管・配線の撤去又は、隠蔽工事	有・無	○	-	○	-
	1 乗場出入口付近の雨水吹き込み対策	無・流用・新規	-	-	-	吹込防止用のスクリーン及び雨水浸入防止用の溝、スロープ等が必要です。
	2 レール手配（2.5m）・4m・5m	流用・新規	-	○	-	トップ、調整、アンダーレール長さを確認のこと。（最長 5 m） 搬入経路より判断すること。
	3 2方向出入口のカゴドア点検口 （ドア点検口・ビット深さ対応）	無・流用・新規	-	-	-	寸法はエレベーター図面を参照願います。 [注] 点検口から450mm以内
	4 機器撤入に伴う通路養生	有・無	○	-	-	設置場所（ ）
5 ストックヤードの確保（共用部の養生含む）面積打要す	有・無	○	-	-	構成（鋼板・耐火ボード・垂幕・その他（ ））	
6 乗場仮囲いの設置工事	有・無	○	-	-	-	
7 作業員の詰所	有・無	○	-	-	-	
環 境	1 昇降路壁のガラス部	有・無	-	-	エレベーター機器からの発熱量を加味し、昇降路内温度が40度を 超える可能性がある場合、換気設備が必要となります。 総気量 W × H 有 無 有 無 温度 湿度 無一般 塩害 無 換気扇 φ 有 無 有 無 温度 湿度 無一般 塩害 無	
	2 乗場付近への日射対策	無・流用・新規	-	-	マルチビームドアセンサ、ホールモーションセンサ誤動作防止のため、直射光または強い反射光の当たらないよう対策を実施願います。	
	3 特殊環境対策	無・流用・新規	-	-	屋外・温泉・プール・塩害・冷凍庫（*）・その他（ ） （*）冷凍冷蔵庫内及び昇降路がそれらに面している場合	
一 般 事 項	1 労基適用	有・無	-	-	-	
	2 名義変更予定	有・無	-	-	-	
	3 建物計画変更予定	有・無	-	-	-	
	4 工事使用の有無	有・無	-	-	-	有りの場合は工事使用に伴う見積書を別途提出致します。 ・電源供給願います。 ・積載量1000kg以上の場合には労基の検査対象となります。

2. 電気工事関係		施工範囲の確認			備考	
工事内容		電気	昇降機	その他		
施 工 関 係	1 一次側動力用電源の引込み工事 （MR～昇降路内制御盤） （着着端子の手配及び接続を含む）	流用・新規	○	-	電源 200 V 新規エレ電源設備容量 4 KVA 既設客先側NF定格 60 AT（←注意 ①） 新規エレ側NF定格 60 AT 既設電線サイズ 30 mm ² 新規電線サイズ 22 mm ²	
	400Vの時（降圧処理（別途工事））	有・無	-	-	-	
	2 一次側動力用配線用遮断器又は漏電遮断器の設置	無・流用・新規	○	-	-	
	3 一次側照明用AC100V電源の引込み工事 （MR～昇降路内制御盤）	無・流用・新規	○	-	-	既設客先側NF定格 60 AT 既設電線サイズ 2 mm EV側トランス手配（有・無）
	4 複数台1回線時の分電盤または分岐箱の手配	無・流用・新規	-	-	-	
	5 アース線の引込み工事（MR～昇降路内制御盤）	流用・新規	○	-	-	新規接地線サイズ 5.5 mm ²
	6 インターホン線引込み工事 インターホン取付位置（ ）から最下階昇降路まで	流用・新規	○	-	-	6V/24V：（ 6 ）局 インターホン線は、エレベータにて新規手配 AC-100V 10A ※照明用AC100Vとは別系統として ください。
	7 ビット内コンセント取付工事	流用・新規	-	-	-	
	8 昇降路頂部の煙感知器点検口（←注意 ②） 点検口「有」の時 → スイッチ取付け（←注意 ③、④） [④A（EV昇降路専用品）・④B（必要寸法確保）・必要寸法確保不可] 点検口への注意名板（シール）貼付け	無・流用・新規	○	-	-	煙感知器は外部から保守点検が可能な構造とし、スイッチの取 付けはメンテナンス上、消防法の規定に抵触しない範囲で可能 な限り低い位置（かご上から手の届く範囲）に設置願います。 点検口には錠（工具を必要とするネジでも可）を取付け、スイ ッチが誤動作しないようふたのガタつき等がないものとして ください。 2台以上の場合は号機間の中央に設置せず、どちらかの号機 に寄せた位置に設置願います。 点検口設置号機（ - ）号機
	9 非常放送用又は、BGMスピーカーのかご取付け 放送設備配線	無・流用・新規	-	○	-	点検口「無」の時 → 行政庁、消防署へ確認
	10 かご内防犯カメラの取付 デジタルレコーダーの設置 モニターの設置 デジタルレコーダー/モニター設置位置から昇降路内制御盤までのケーブル施工 ケーブルの端末加工処理	無・流用・新規 無・流用・新規 無・流用・新規 無・流用・新規	-	-	-	デジタルレコーダー/モニター設置位置から昇降路までの配管、 制御盤までの配線（余長7m）、端末加工処理（BNC-Pコネク タ取付）、デジタルレコーダー/モニター用コンセント
	11 災害時のエレベーター管制運転 ①地震時管制運転 ②火災時管制運転 避難階（ 1 階） ③自家発時管制運転 揚着階（ - 階） ④停電時自動着床装置	流用・新規 無・流用・新規 無・流用・新規 無・新規	-	○	-	同軸ケーブル太さ（ - ） 恒長（ - m） ※回転ケーブル電源重畳方式は不可 [火報信号] 監視盤キー-SW・呼戻しSW] 火報信号接点は最下階昇降路までの配管配線が必要です。 （無電圧A接点 EV側からDC24加圧-0.2A 連続信号） 自家発時管制運転には以下の電源識別接点が必要です。 商用電源識別無電圧A接点 自家発電識別無電圧A接点（自家発テスト時、閉じない接点） キー-SW接続；有・無
	12 エレベーター監視盤の設置 昇降路内電線引込位置：（ - 階） 監視盤から昇降路内制御盤までの配管・配線工事	無・流用・新規	-	-	-	表示灯電源構成；制御盤・監視盤 キー-SW接続；有・無
	13 遠隔監視サービス機能用電話線の配管・配線工事 〔有線・PHS〕	無・流用・新規	○	-	-	配管19mm以上、配線 PVC（TIVF）0.65-2P 確保 ※最下階の制御盤から最寄の電話中継盤まで（余長 m）
	14 サービス階 切放し階 [- 階] ①切放し階（開戸内波動スイッチ式・開戸内キースイッチ式・暗証式・密着接点） ②切放し呼び（かご呼びのみ・乗場呼びのみ・両方）	無・流用・新規 無・流用・新規 有・無	-	-	-	切放し時「閉じる」無電圧接点はバンク毎に必要です。 切放しグループの数分（ 本、 P）を制御盤まで支給 （定格DC24V 0.2A以上）
	15 耐火構造等の防火区画を貫通するケーブルの処理 昇降路設計・施工指針（発行財団法人日本昇降機安全センター）参照	有・無	-	○	-	機器との干渉の恐れがあるため、昇降路内へのBOX設置はでき ません。
	16 エレベーター異常信号の外部出力 （制御盤より）	無・流用・新規	-	-	-	異常信号出力先：（ ） 制御盤より：（一括・異常・閉込・ インターホン錠5秒以上・防犯運転・冠水・S波 CPD・その他（ ））
注意 ① 電源側NFとして、漏電遮断器や漏電断電器を設置する場合は「インバーター用、又は高調波に対して不要動作しない製品」と指定して導入ください。 漏電遮断器の感度電流および動作時間は、右表以上として下さい。電源側NF容量をエレベーター側と同格容量とした場合、メーカーによる動作特性の違いにより電源側NFが先にトリップし復旧・救出の遅れに繋がる可能性がありますので、「電源側NF容量>エレベーター側NF容量」となるよう選定願います。						
注意 ② 煙感知器点検口にはスイッチを設置し、点検口を開けるとエレベーターを停止させる必要があります。不用意に点検口を開けると、エレベーターが急停止し、 利用者がケガをしたり閉じ込められるなどの恐れがあることから、点検時はエレベーターの運行管理者がエレベーターを停止させてから実施する必要があります。 このことを注意喚起するために、点検口に貼付ける注意名板（シール）を準備しております。エレベーター施工段階で工事担当からお渡ししますので、貼付けて頂きますようお願い致します。						
注意 ③ 煙感知器はかご投影面積（平面）にかららないよう設置してください。 その他						
注意 ④ 点検口は下記「A」または「B」のどちらかとしてください。 A：EV昇降路専用品（スイッチ取付台産付き）以下（1）～（4）のいずれか （1）ホーネキ KUS-1B、（2）能美防災 FXSJ001A-HU （3）パナソニック B95351（BOX）+B95331H（扉）、（4）ニッパン NID-T-6 NEXCUBE 1.00mA 2.00mA 0.2秒 2.00mA 5.00mA 0.2秒 B：以下（1）および（2）項を満足する点検口 （1）スイッチ取付スペースが200×90程度確保できる。（煙感知器本体のみが通るスリーブ穴等は不可です。） （2）錠付または工具を必要とするネジ付きの蓋で、1mm以上厚くないこと。 ※「B」または必要寸法が確保できない場合はスイッチ固定方法の検討が必要となりますので、 点検口（扉を含む）の詳細を早めにお知らせください。						

(有) 桑子建築設計事務所

さいたま市大宮区南引町1-330-4
TEL 048-783-5566
一級建築士登録第67048号 桑子 喬

承認

設計

担当

縮尺

Non Scale

設計年月日

2019.11.29

工事名称

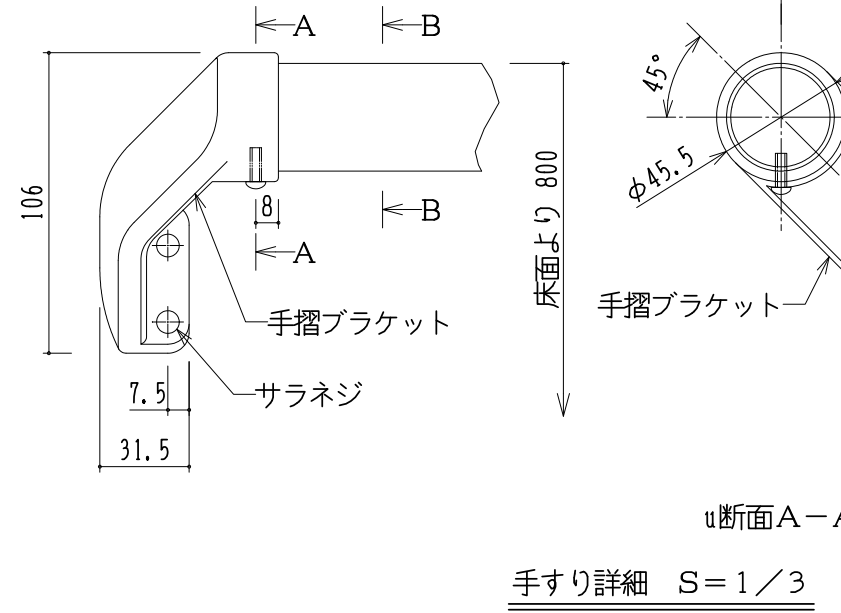
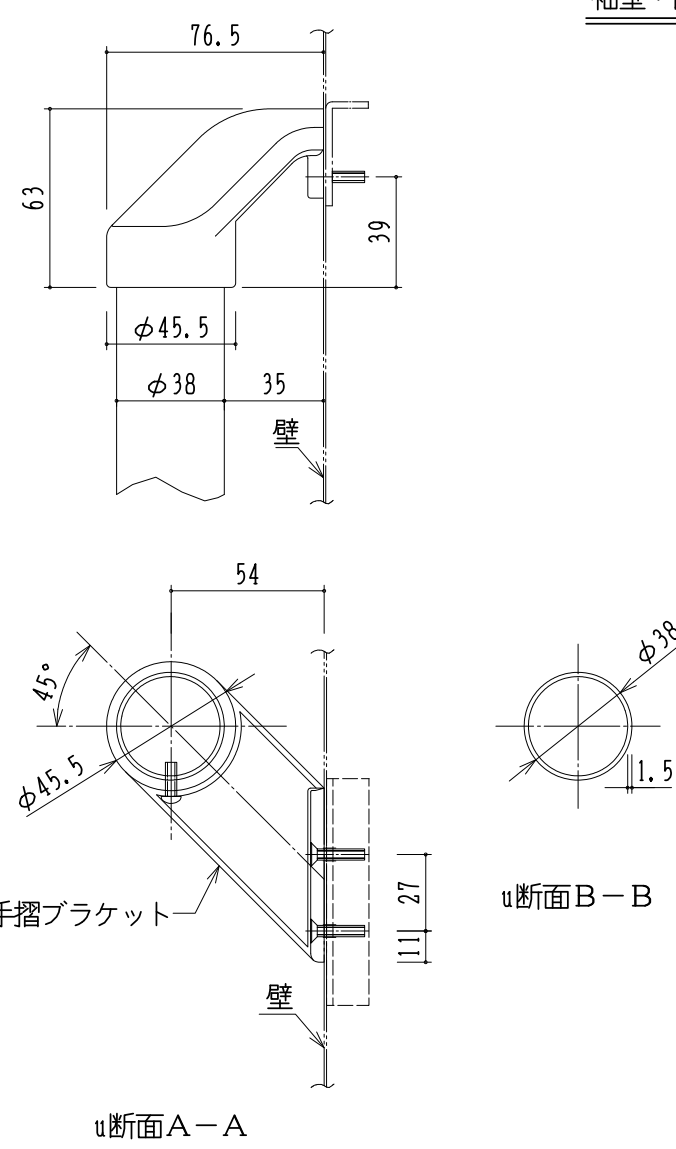
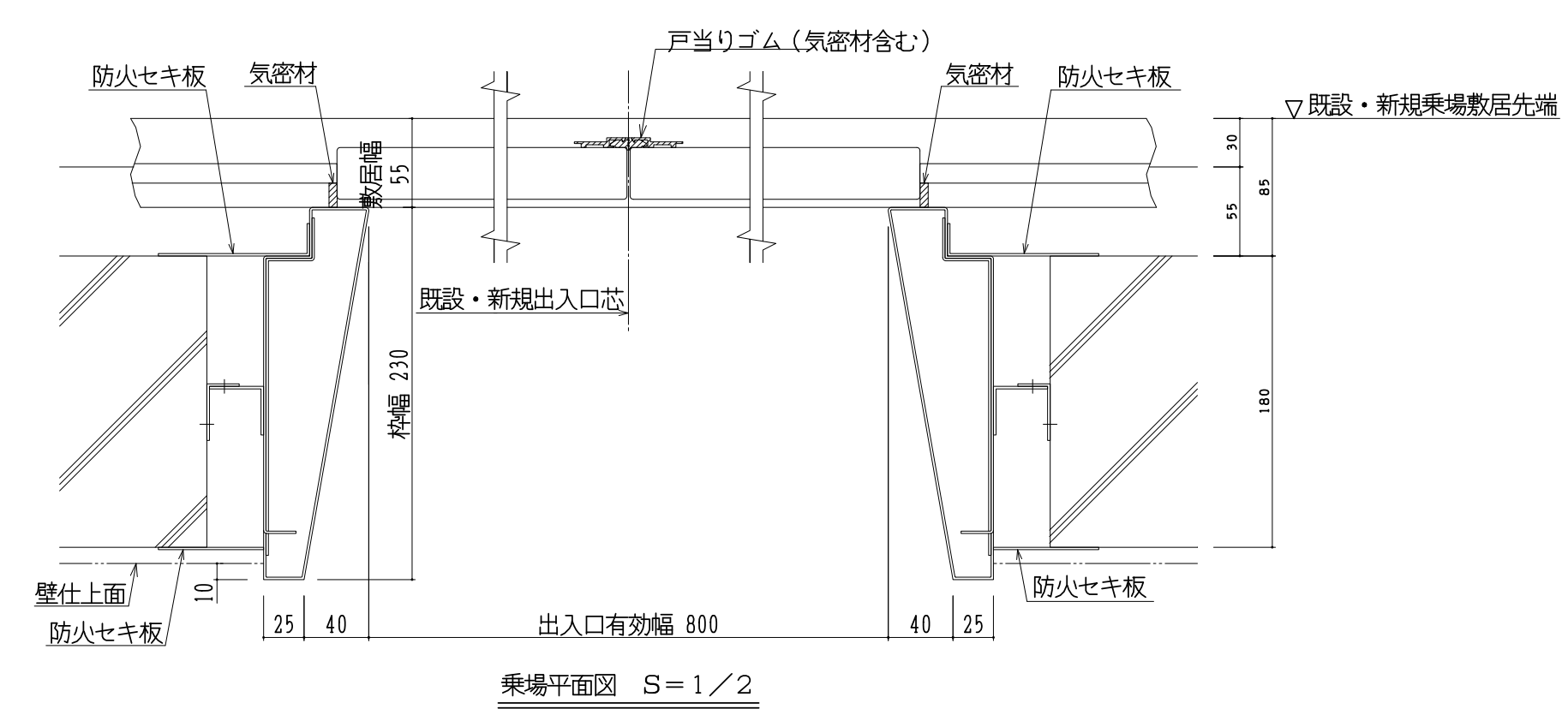
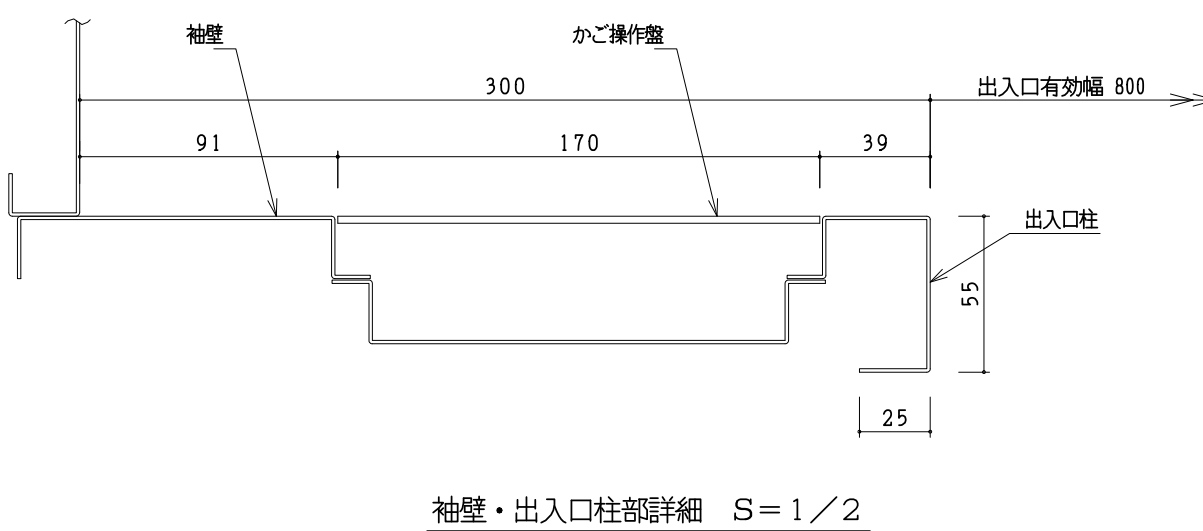
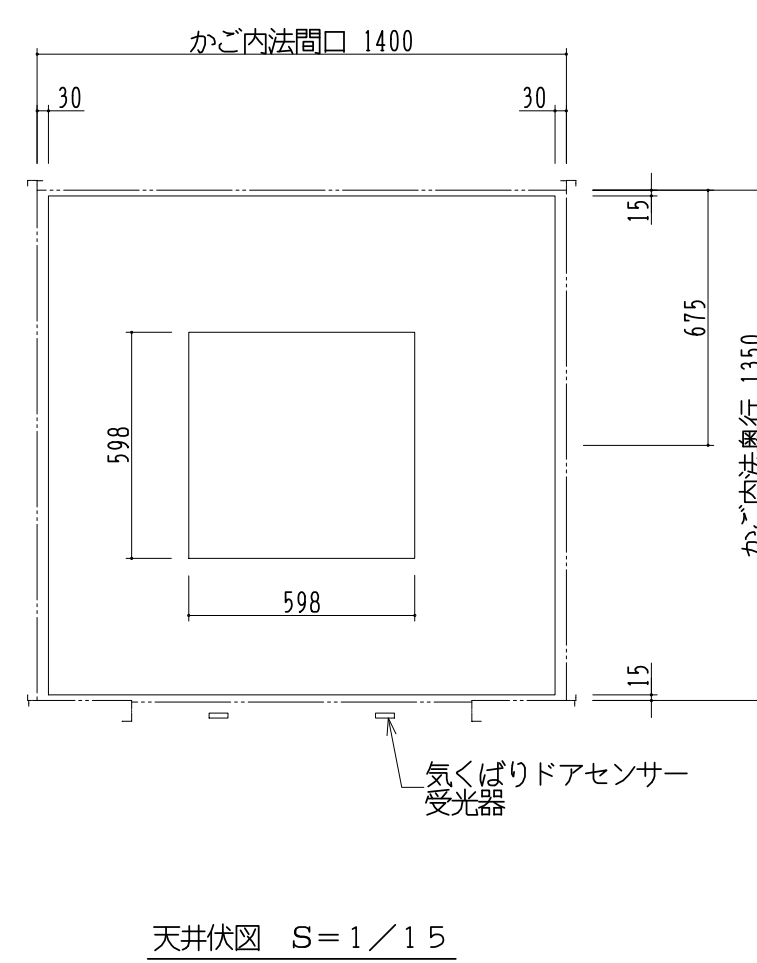
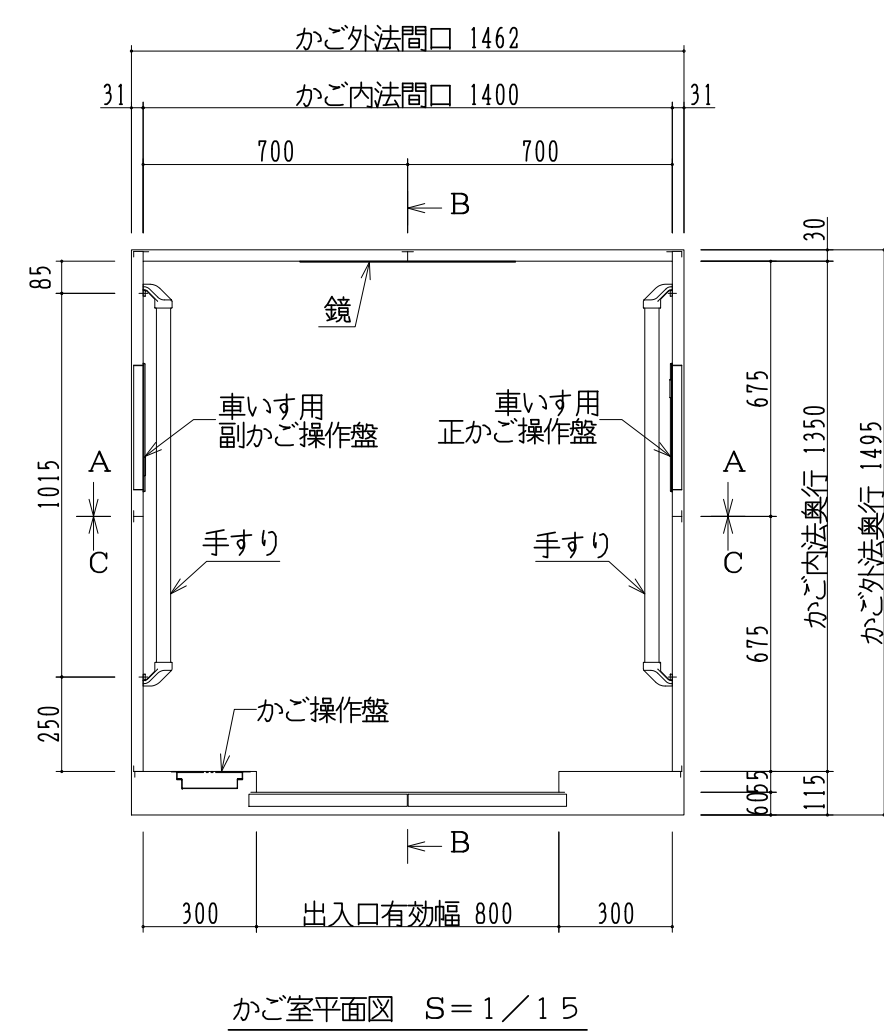
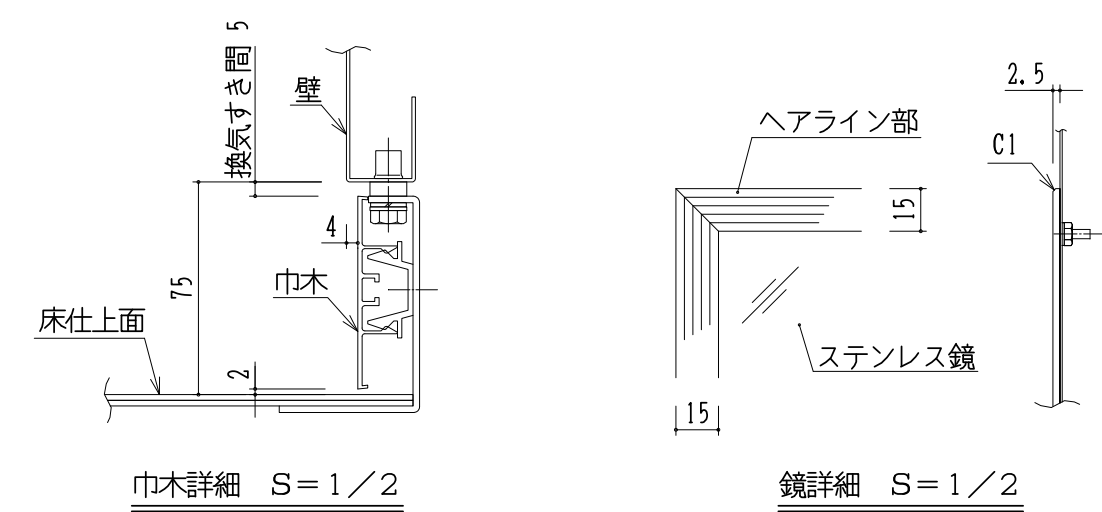
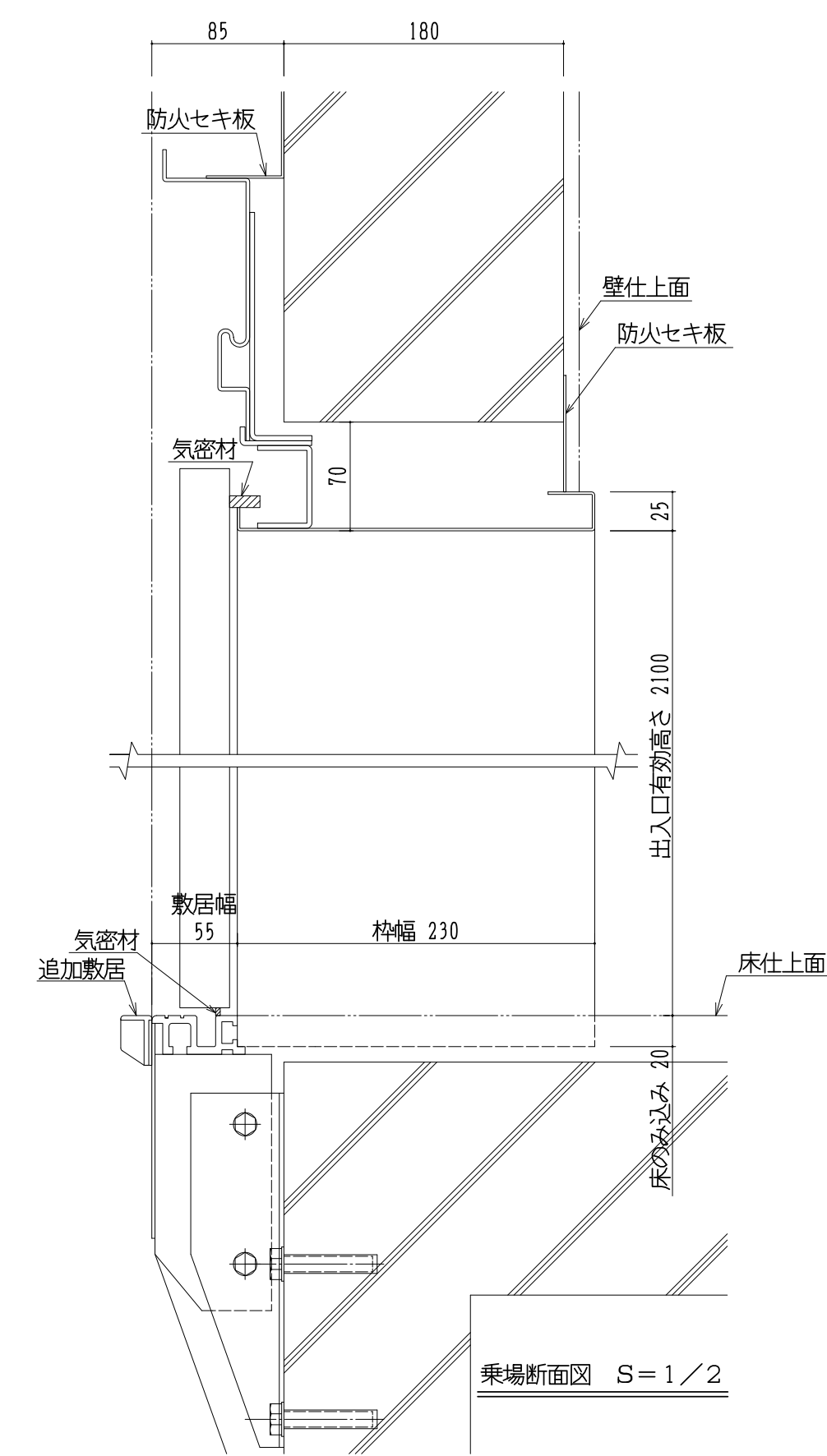
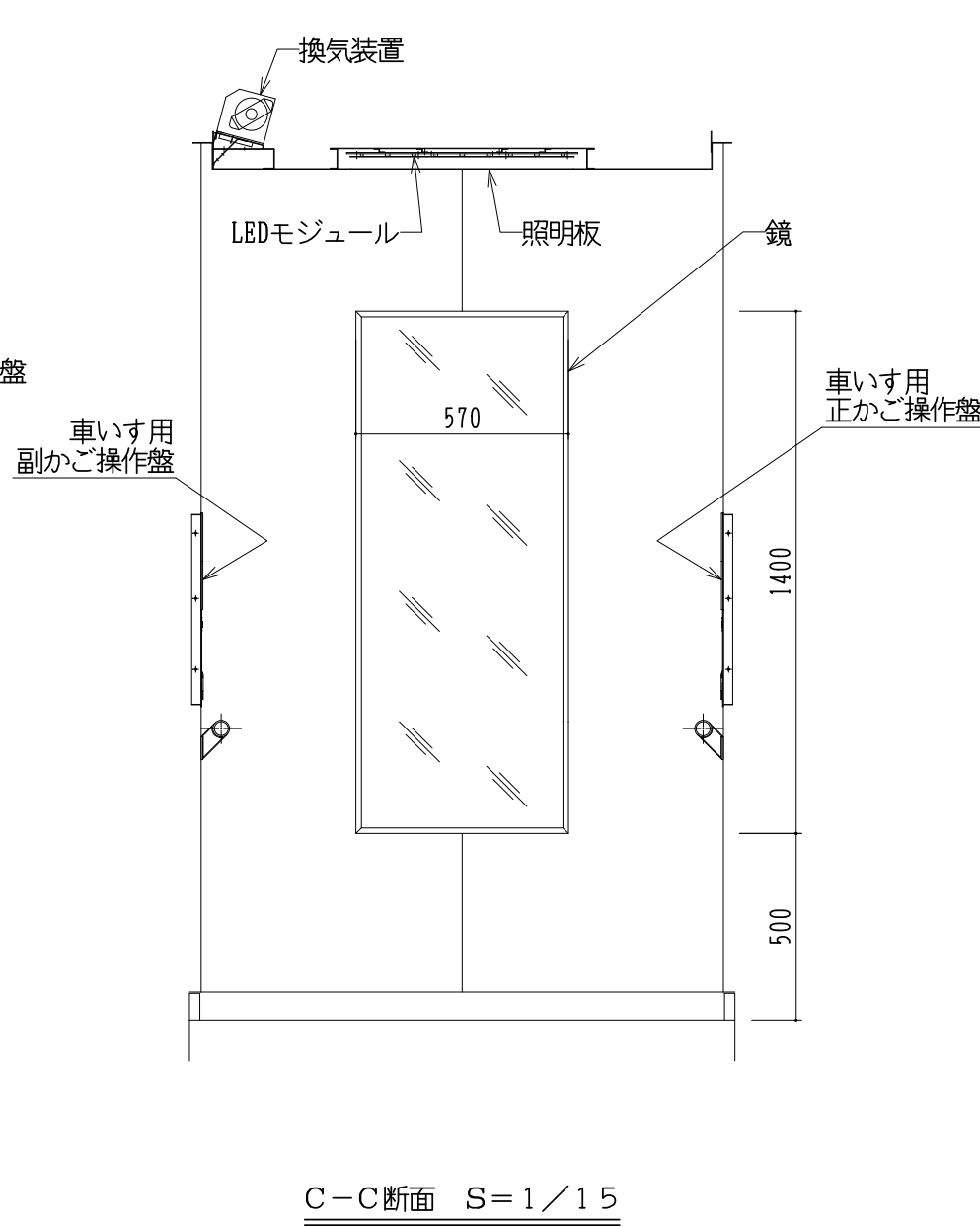
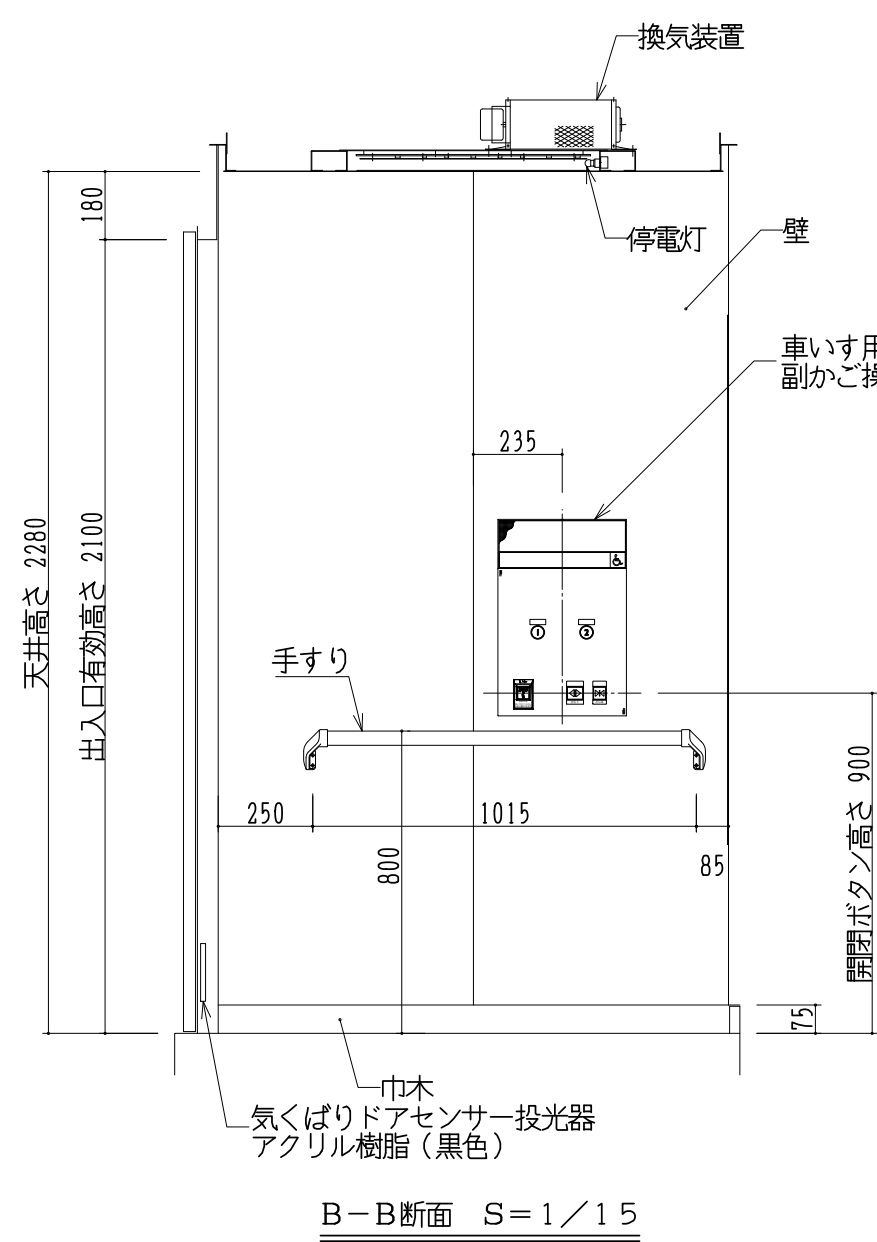
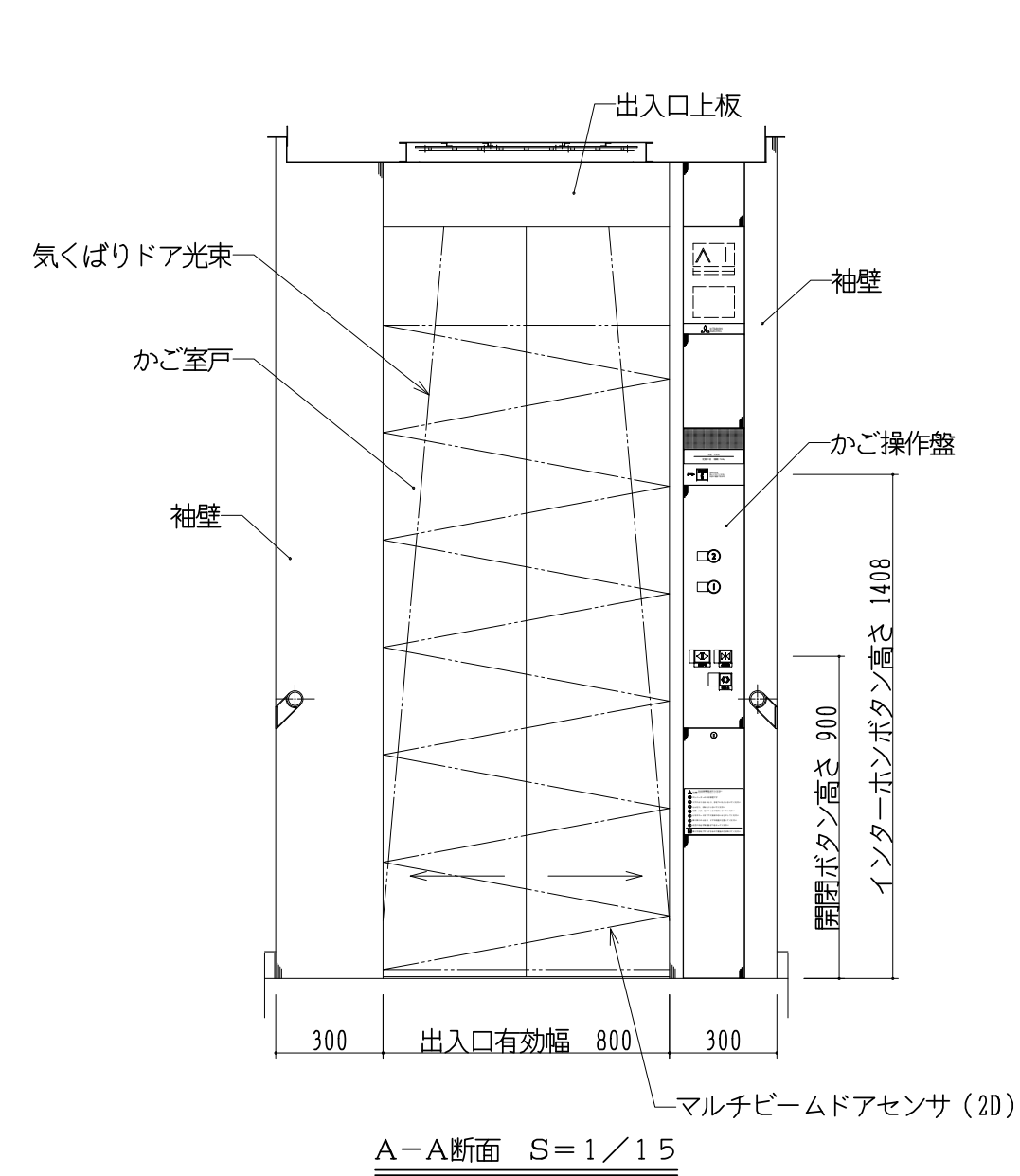
市立富士見特別支援学校エレベーター更新工事

図面名称

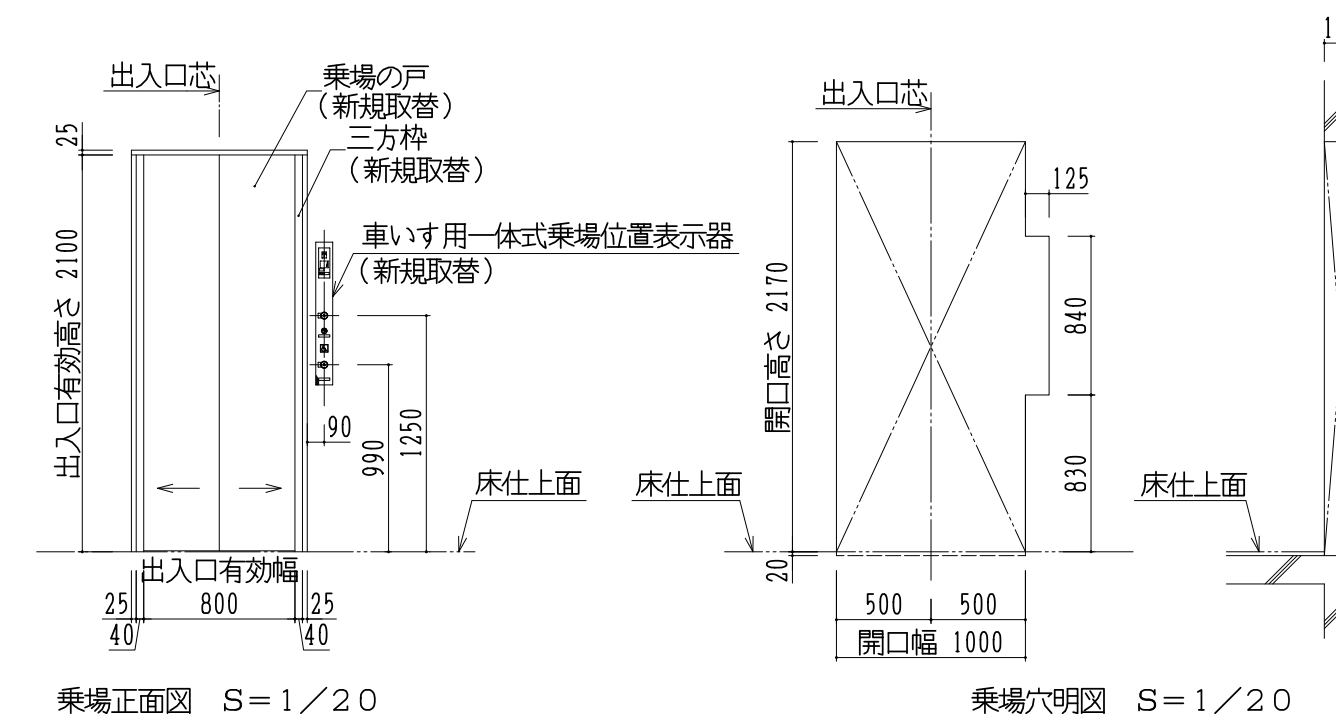
エレベーター仕様一覧表、工事区分表

No.

A-16



意匠仕様	
天井	鋼板塗装仕上
照明	乳白色樹脂照明板 LED照明モジュール 324灯 白色LED 照明ボックス: 溶融亜鉛メッキ鋼板
停電灯	6V 10W×1 灯
換気装置	ラインブローファン (FB-9E)
壁	化粧鋼板
出入口上板	化粧鋼板
かご室戸	化粧鋼板
袖壁	ステンレスヘアライン仕上
出入口柱	ステンレスヘアライン仕上
巾木	アルミ製
床仕上部	樹脂タイル t2
敷居	硬質アルミ製
鏡	ステンレス鏡面仕上 t2.5
手すり	ステンレス製パイプ: ヘアライン仕上 (φ38) ブラケット: アルミダイカスト (銀色塗装)

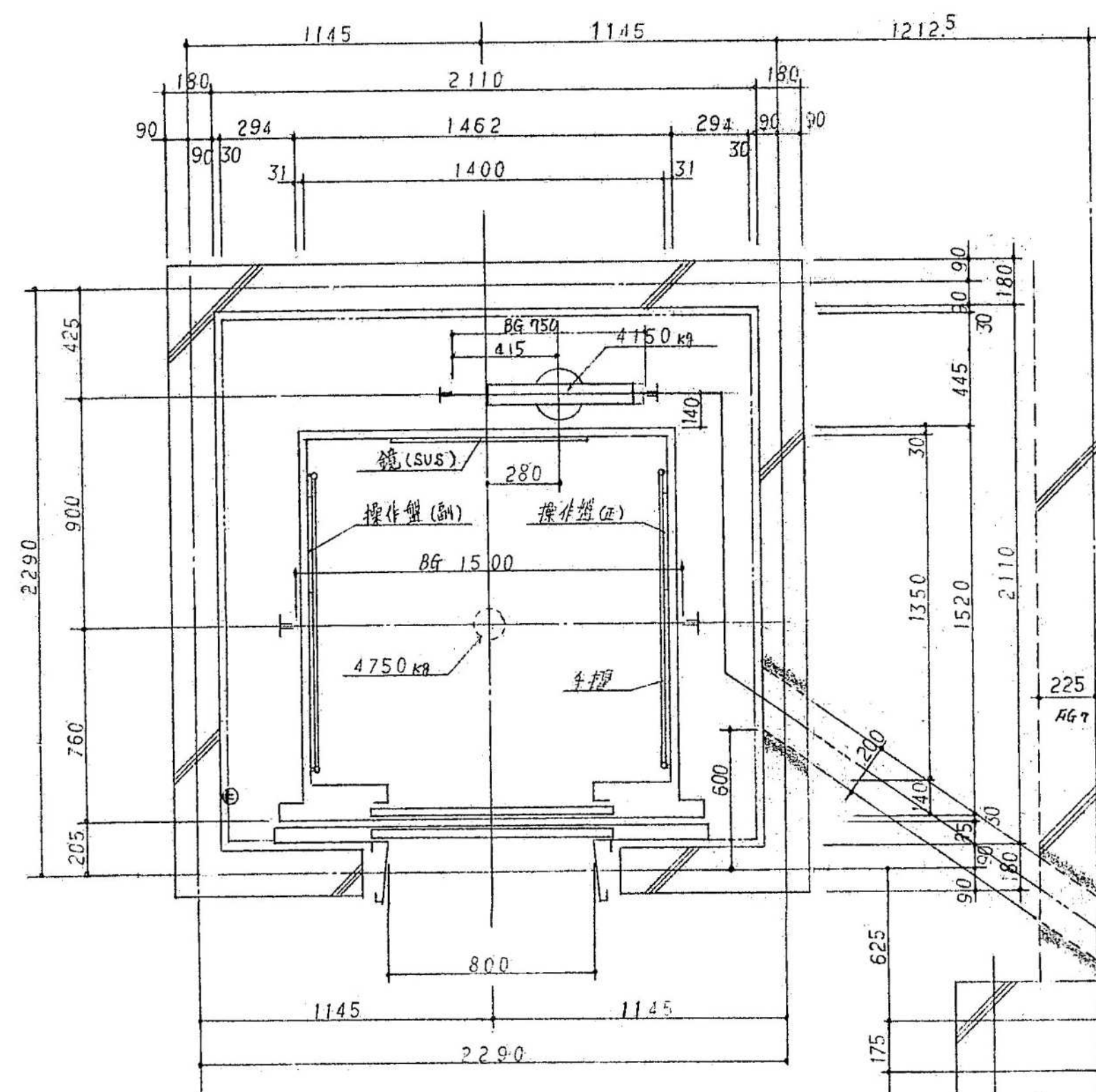


意匠仕様	
三方枠	大枠未広 鋼板塗装仕上 (新規取替)
乗場の戸	鋼板塗装仕上 (新規取替)
敷居	硬質アルミ製 (新規取替)
その他	遮煙機能付

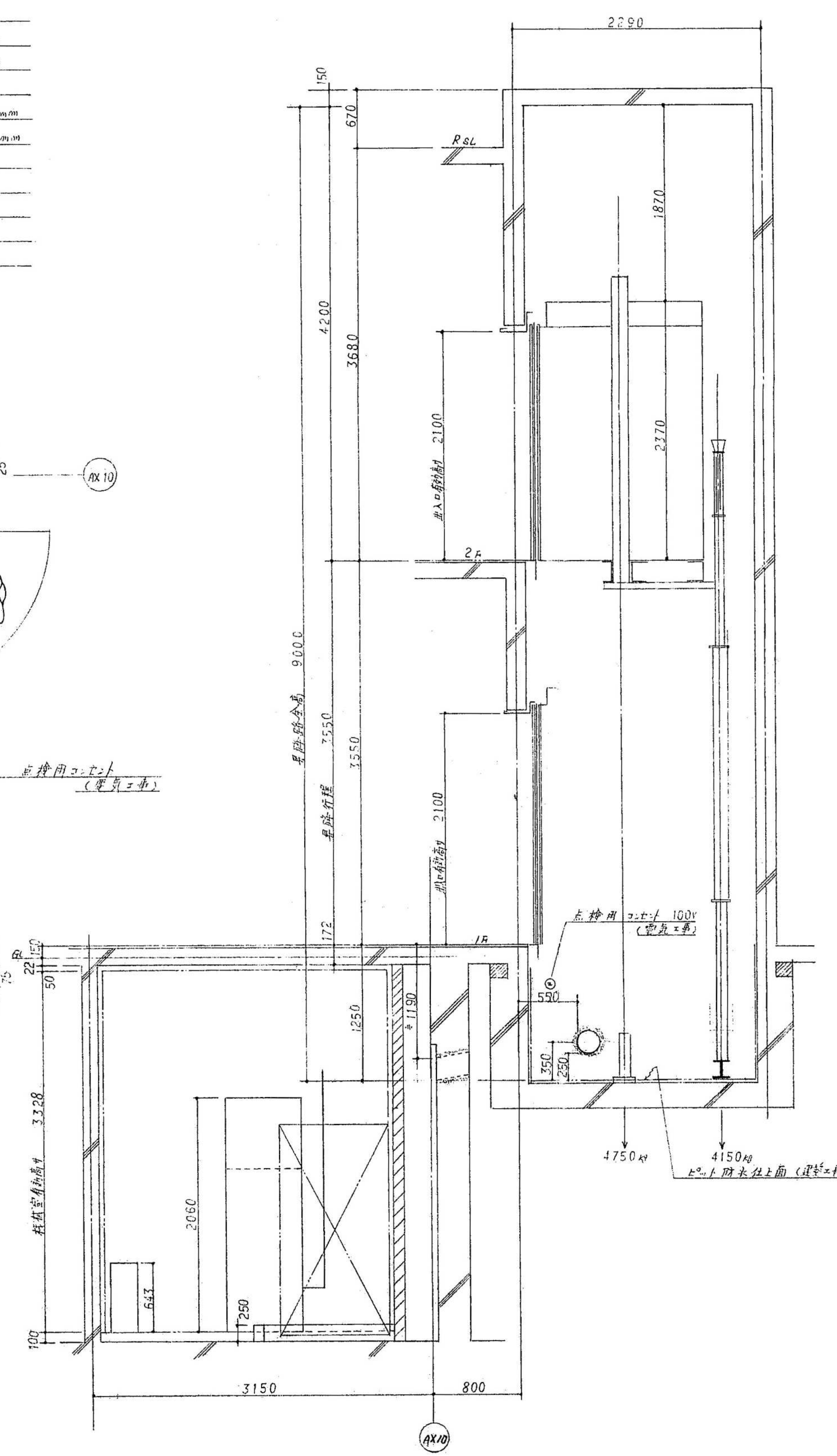
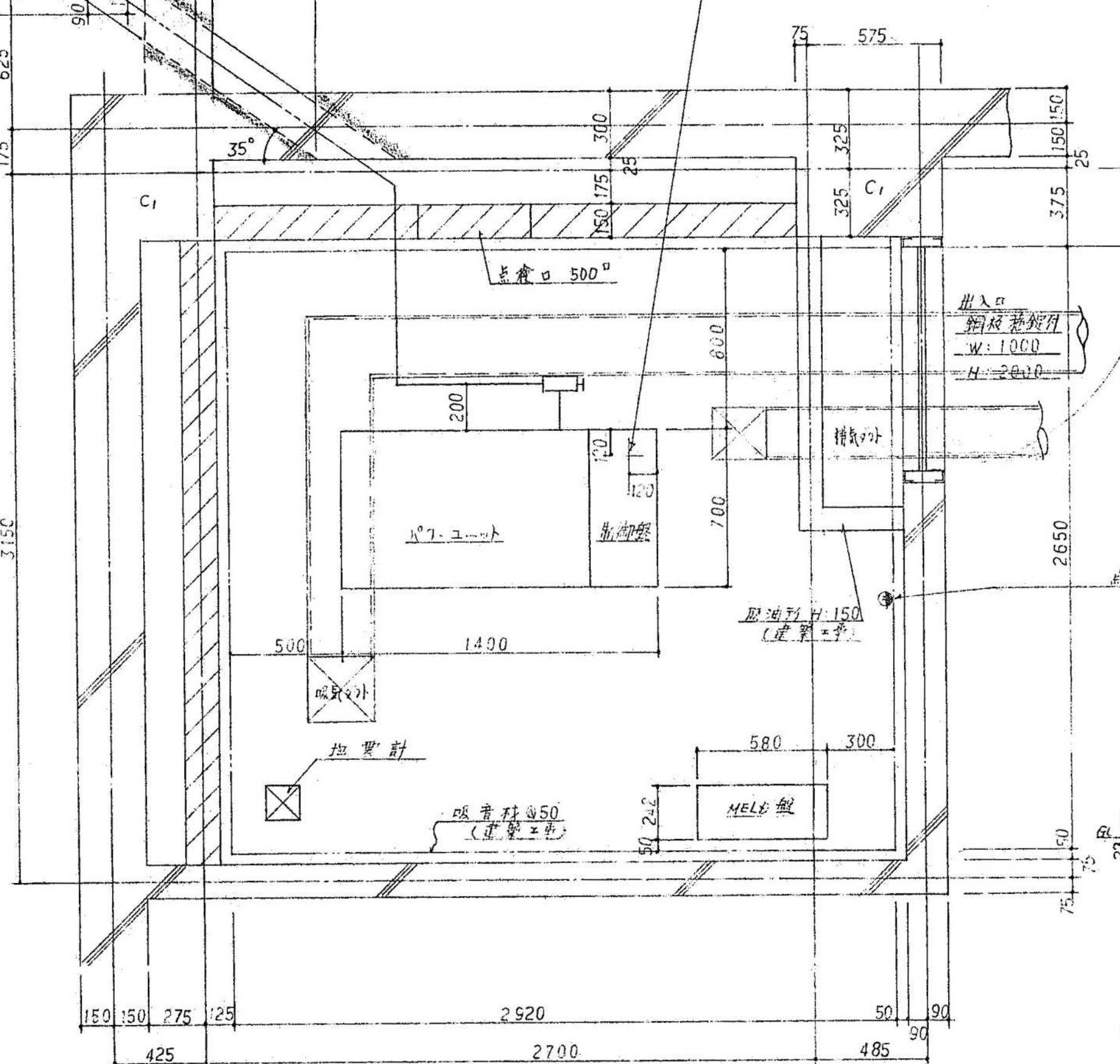
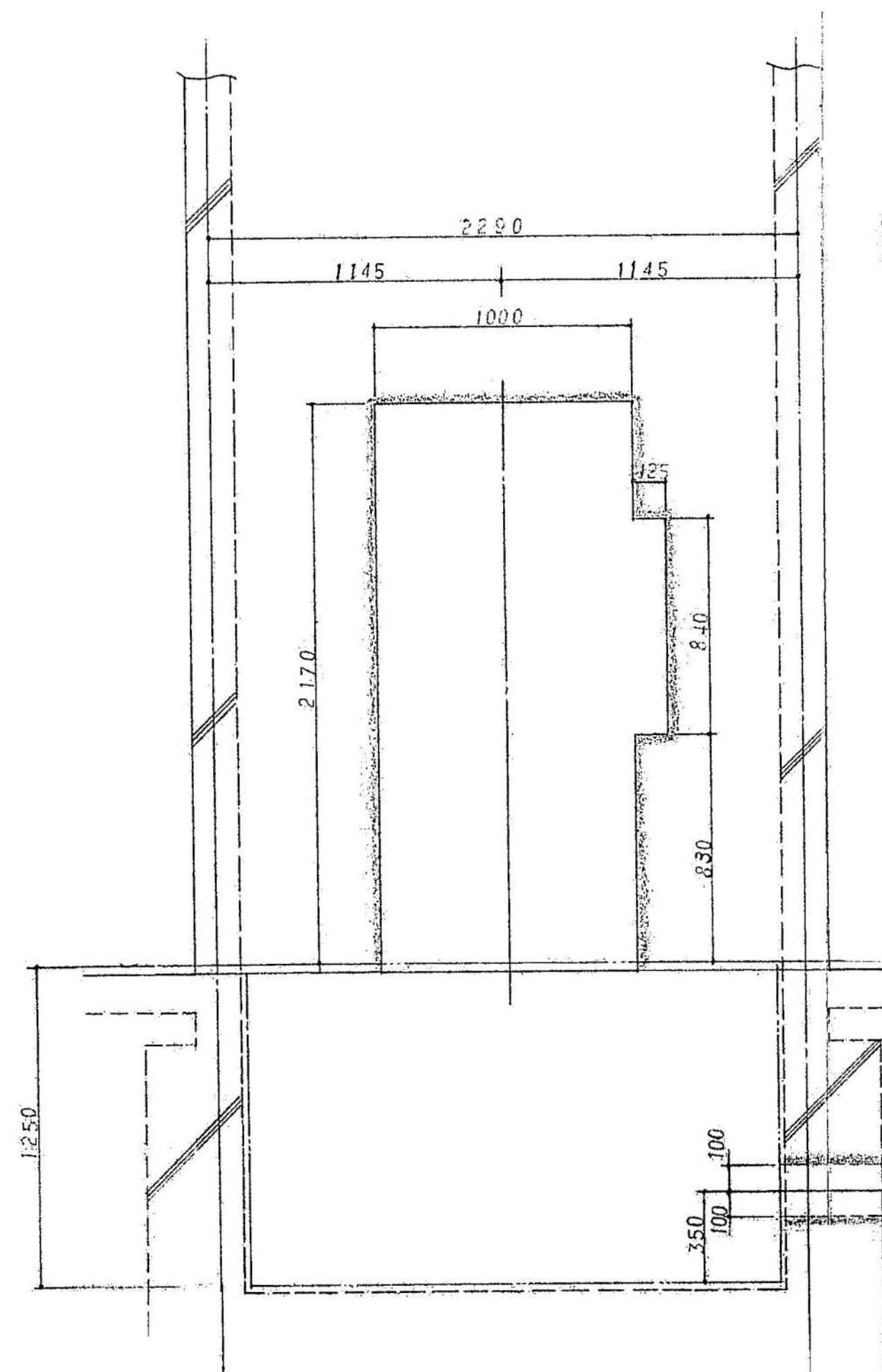
(有) 桑子建築設計事務所
さいたま市大宮区榎町1-330-4
TEL 048-783-5566
一級建築士登録第7048号 桑子 喬

承認 設計 担当
縮尺 A1:1/2, 3, 15, 20
A3:1/4, 6, 30, 40
設計年月日 2019.11.29

工事名称 市立富士見特別支援学校エレベーター更新工事
図面名称 かご室意匠図、乗場意匠図



電源引込位置
 動力用 AC-3φ 200V-50Hz
 照明用 AC-1φ 100V-50Hz
 単三種 F-I線
 天井上り 床面より 300mm
 電線引出シ長さ 1700mm
 (電気工事)



エレベーター仕様要項	
号機名	1号機
用途	乗用
制御方式	油圧ボックブランチャー式
操作方式	セレクトブ・コレクティブ (パネリング/階)
積載荷重	750 kg・最大定員 11名
速度	30 m/min
電源	三相交流 200 V 50 Hz
巻上機	円形 11 kW (連続時間定格)
ワイヤロープ	ワイヤロープ 560 mm・ソラセ車 (径)
ロープ	(径) 14 mm×2本・1:2ロビン
停止箇所	1, 2 2 停止
レール	カゴ側 13 kg/m・オモリ側 5 kg/m
カゴ内法	間口 1400 mm×奥行 1350 mm
出入口幅	800 mm×高さ 2100 mm
戸形式	二枚戸 中央開キ
戸閉方式	電動式
緩衝器	スプリング式

- 除外工事事項
- (1)建築工事関係
- 昇降路・機械室ノ築造工事及ビ各階出入口ノ敷居持出し工事
 - 機械室床及ビ各階出入口(乗場位置表示器・押釦ヲ含ム)ノ穴アケ工事
 - 乗場機器取付後ノ出入口廻リノ壁及ビ床仕上工事
 - 機械室配管後ノシンダーコンクリート(100mm)打工事
 - 機械室出入口設備及ビ機器搬入穴ソノ塞キ工事
 - 機械室天井ノフック設置工事 (1ton)
 - 機械室ノ換気設備 (換気扇及ビガラリ等) 工事
 - ビット防水工事
 - ビット下部使用ノ場合ノ建築躯体処理工事
 - ビット内保接工事及ビ機械室内ノ間仕切り又ハ保護欄工事
 - 機械室床ノ防塵性工事

- (2)電気工事関係
- 動力電源(接地線ヲ含ム)ノ機械室受電盤迄ノ引込工事
 - 照明用100V電源ノ機械室制御盤迄ノ引込工事
 - 機械室ノ照明設備及ビ点検用コンセント工事
 - 昇降路ヨリ外部ノインターホン用配管配線工事
 - ビット内点検用コンセント工事

- 注意事項
- 電源電圧ノ変動ハ+5%~-10%以内トシテクダサイ
 - 本エレベーター所定ノ性能維持ノため下記条件ガ必要デス
 - 11月平均湿度90%以下・日平均湿度95%以下トシテクダサイ
 - 2金属ノ損耗又ハ腐蝕シタリ接点ノ接触障害ノ原因トナルヨウナ塵埃及ビ化学的有害ガサガイユウニシテクダサイ
 - 3本エレベーター機械室内発熱量ハ ()Kcal/Hトナリマスノテ最高室温ヲ40°C以下ニ保ツヨウニ換気設備ヲ設置シテクダサイ
 - 4昇降路壁ニハ電気・水道等ノ配管・器具ヲ埋メ込マニテクダサイ

- 付加仕様
- 地震時自動停止 (P型ロープ)
 - 停電時自動停止装置
 - 車輪対策付

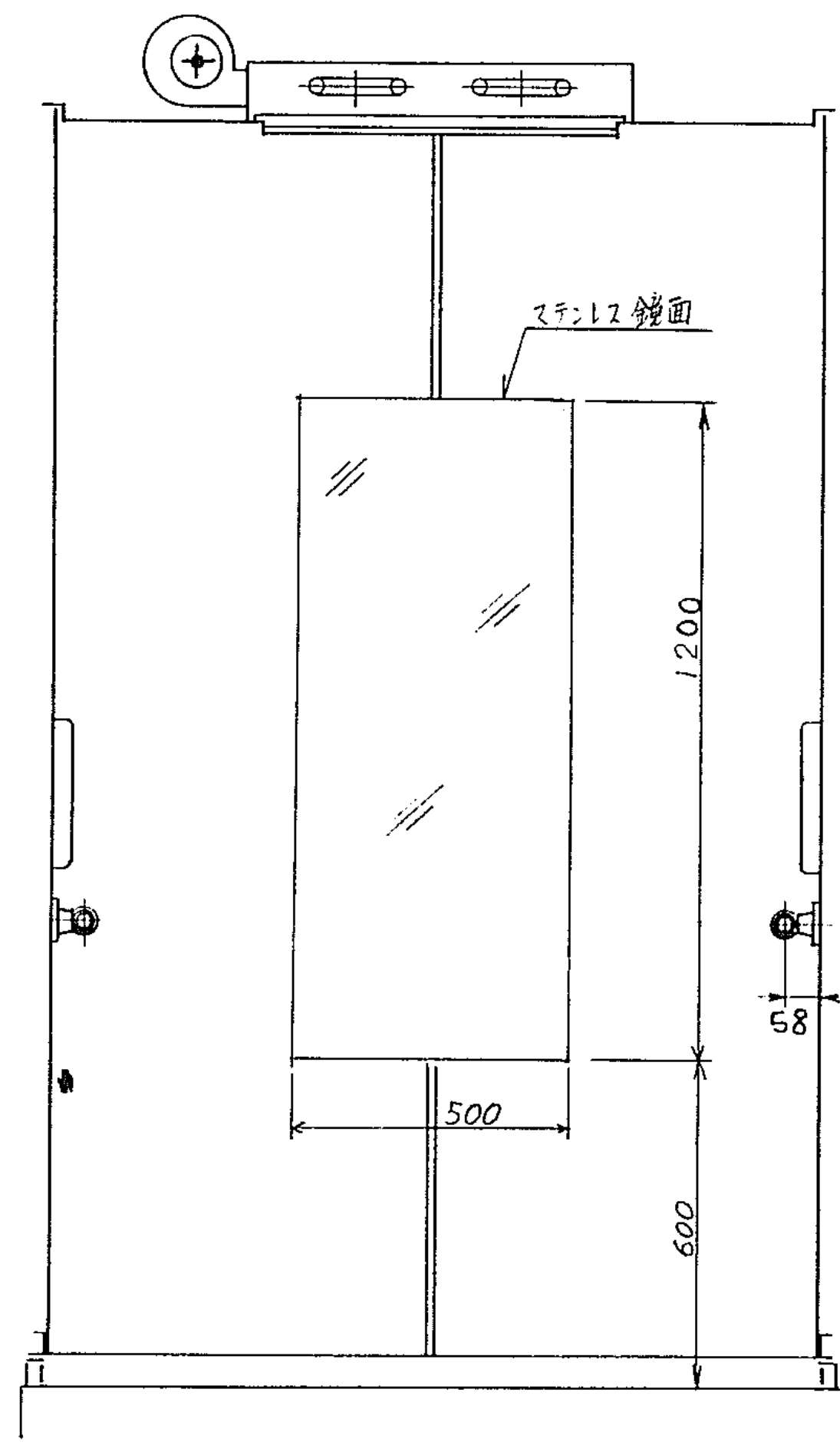
(2号機)

向先 宮上見市立宮上見養護学校
 既存：三菱電機ビルテクノサービス株式会社

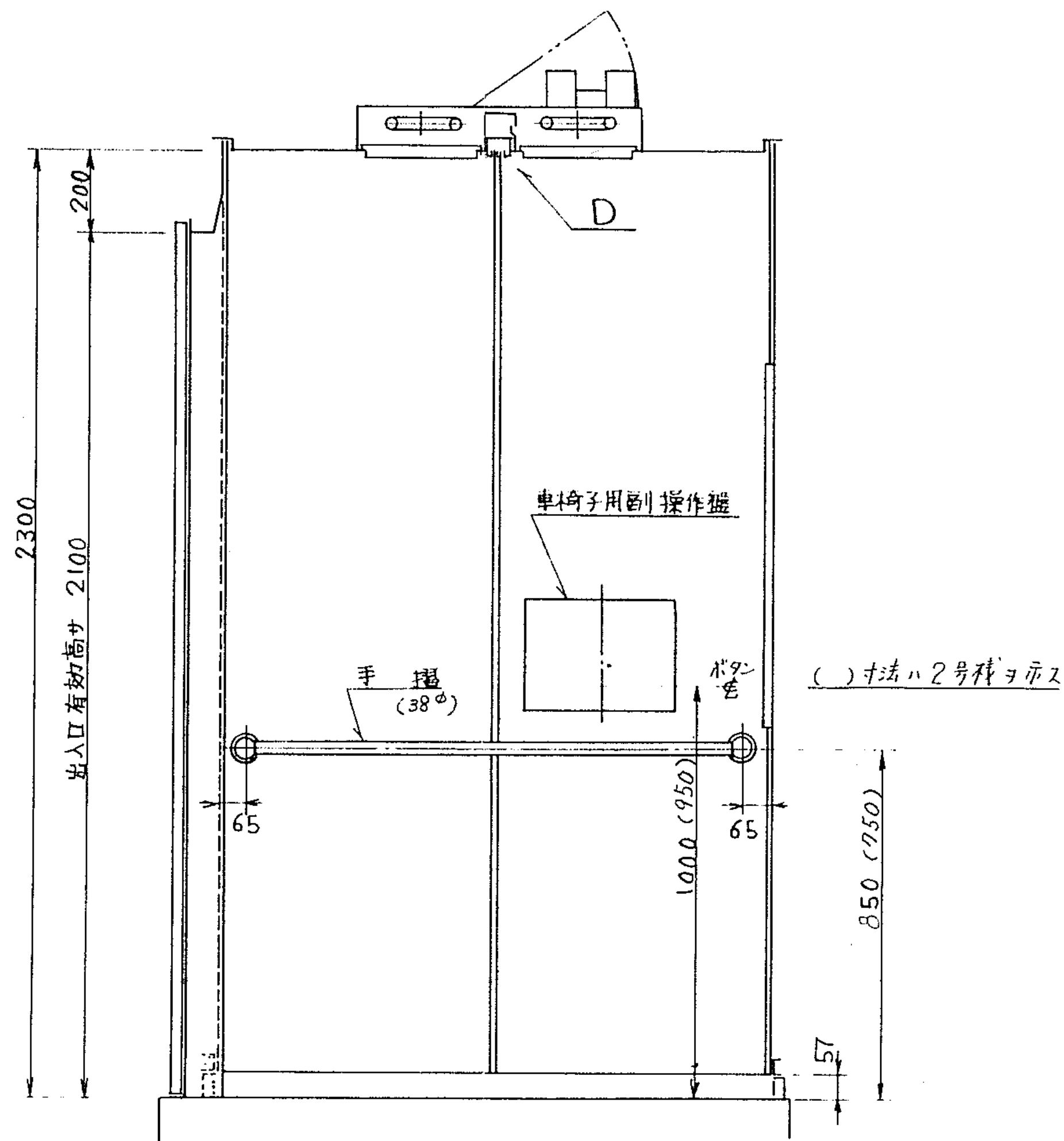
(有) 桑子建築設計事務所
 さいたま市大宮区藤町1-330-4
 TEL 048-783-5566
 一級建築士登録第67048号 桑子 喬

承認 設計 担当
 縮尺 A1:1/20, 30
 A3:1/40, 60
 設計年月日 2019.11.29

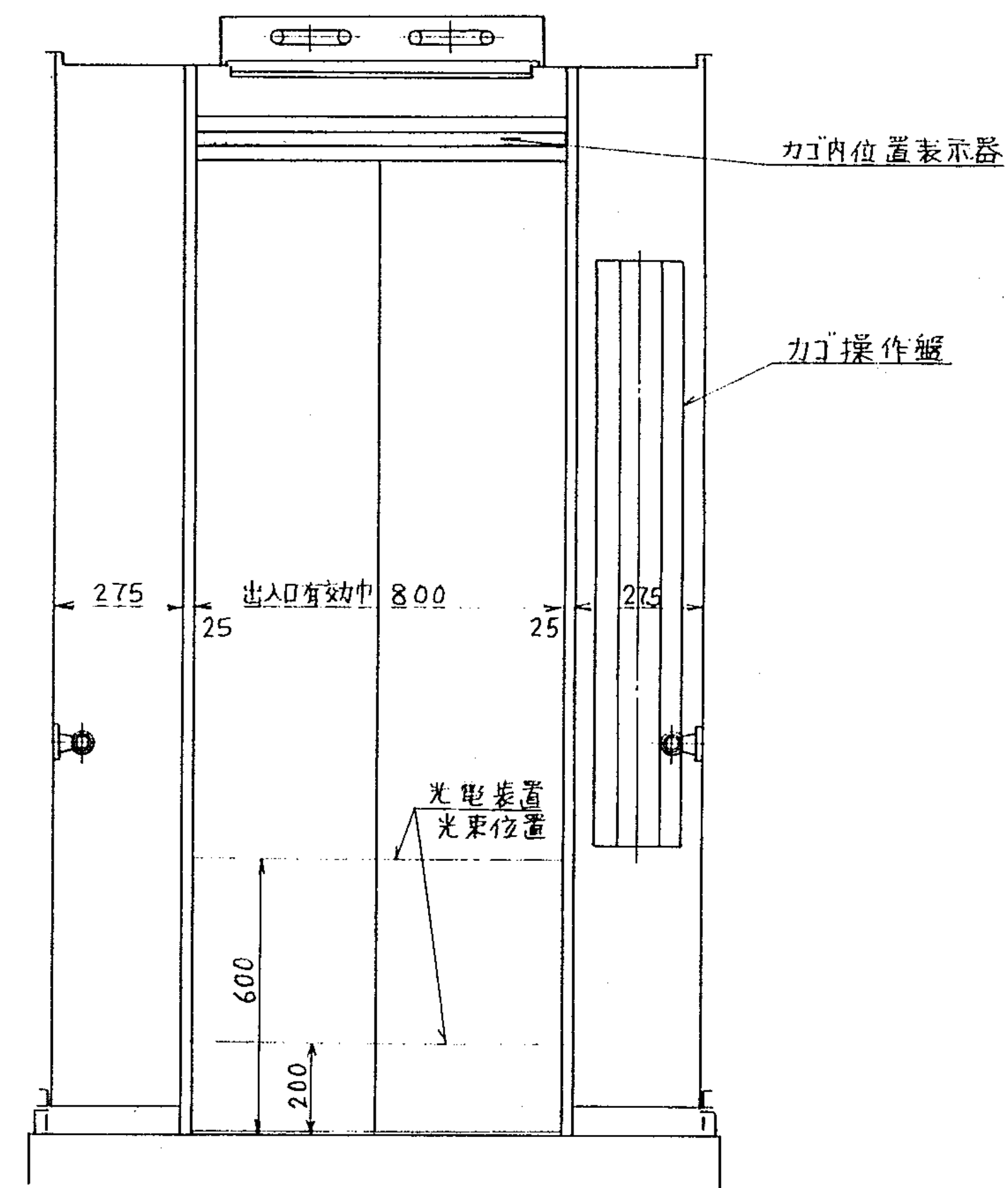
工事名称 市立宮上見特別支援学校エレベーター更新工事
 図面名称 参考図 既存エレベーター詳細図2 (2号機)
 No. A-21



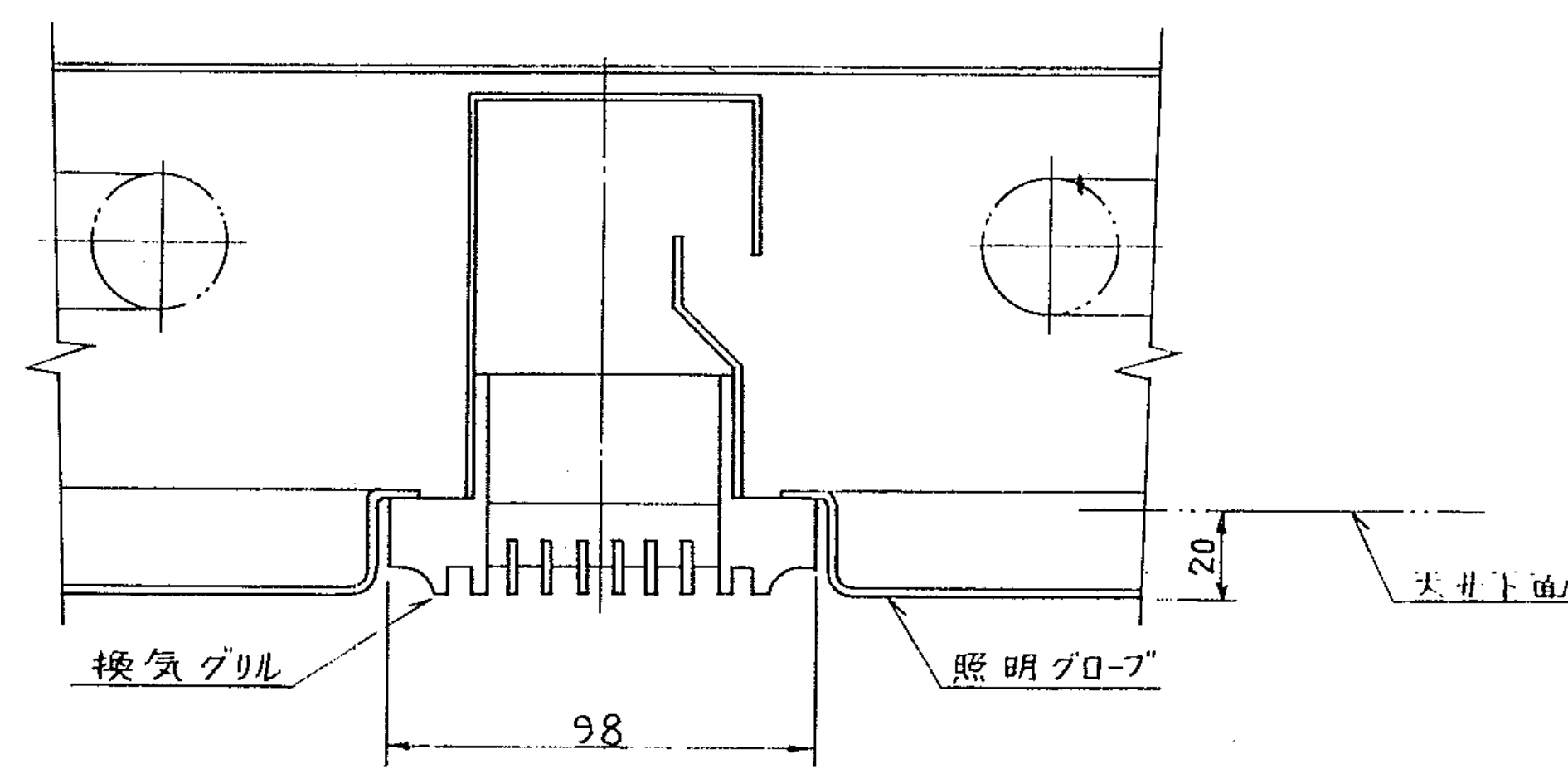
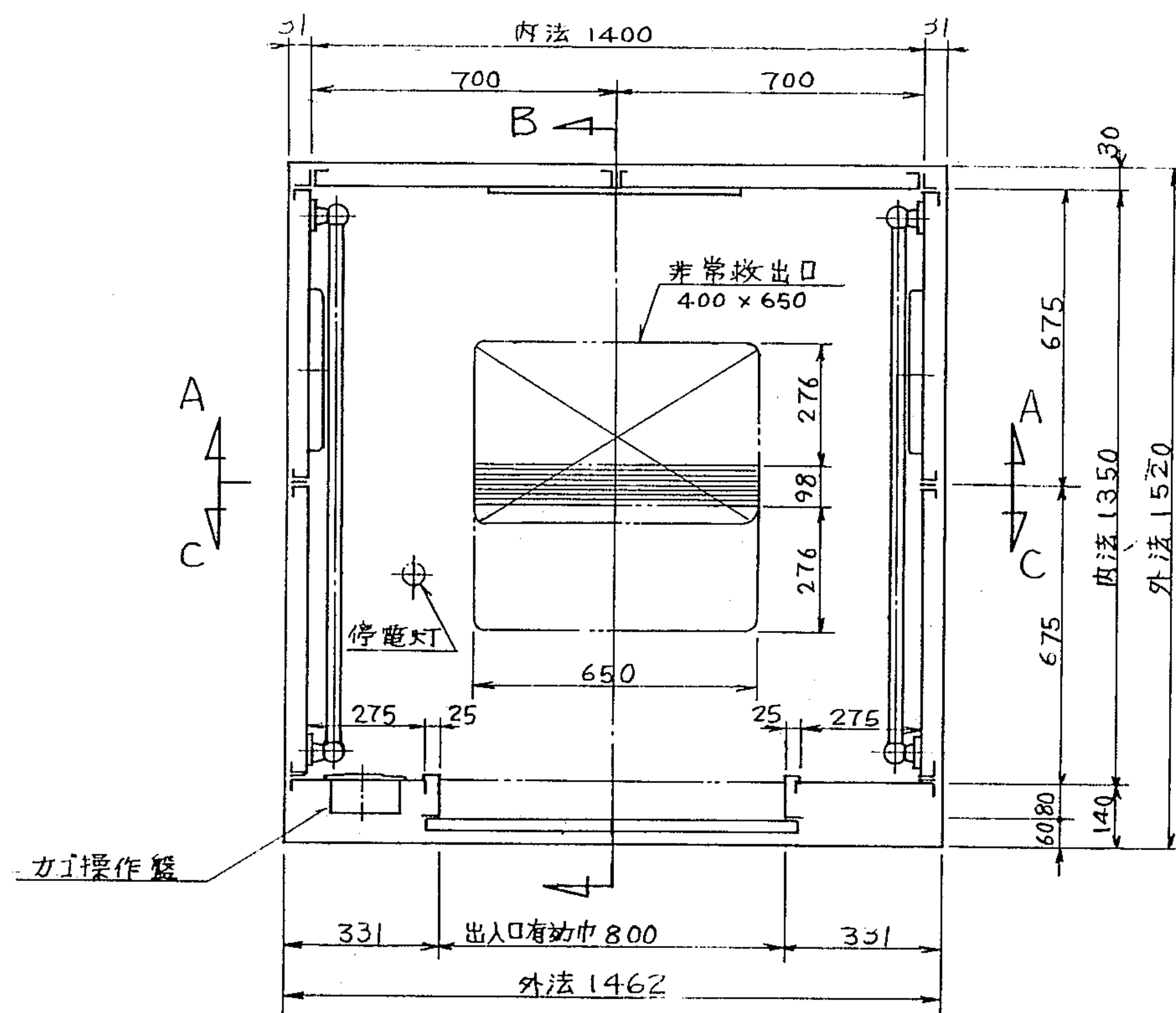
断面 A-A



断面 B-B



断面 C-C

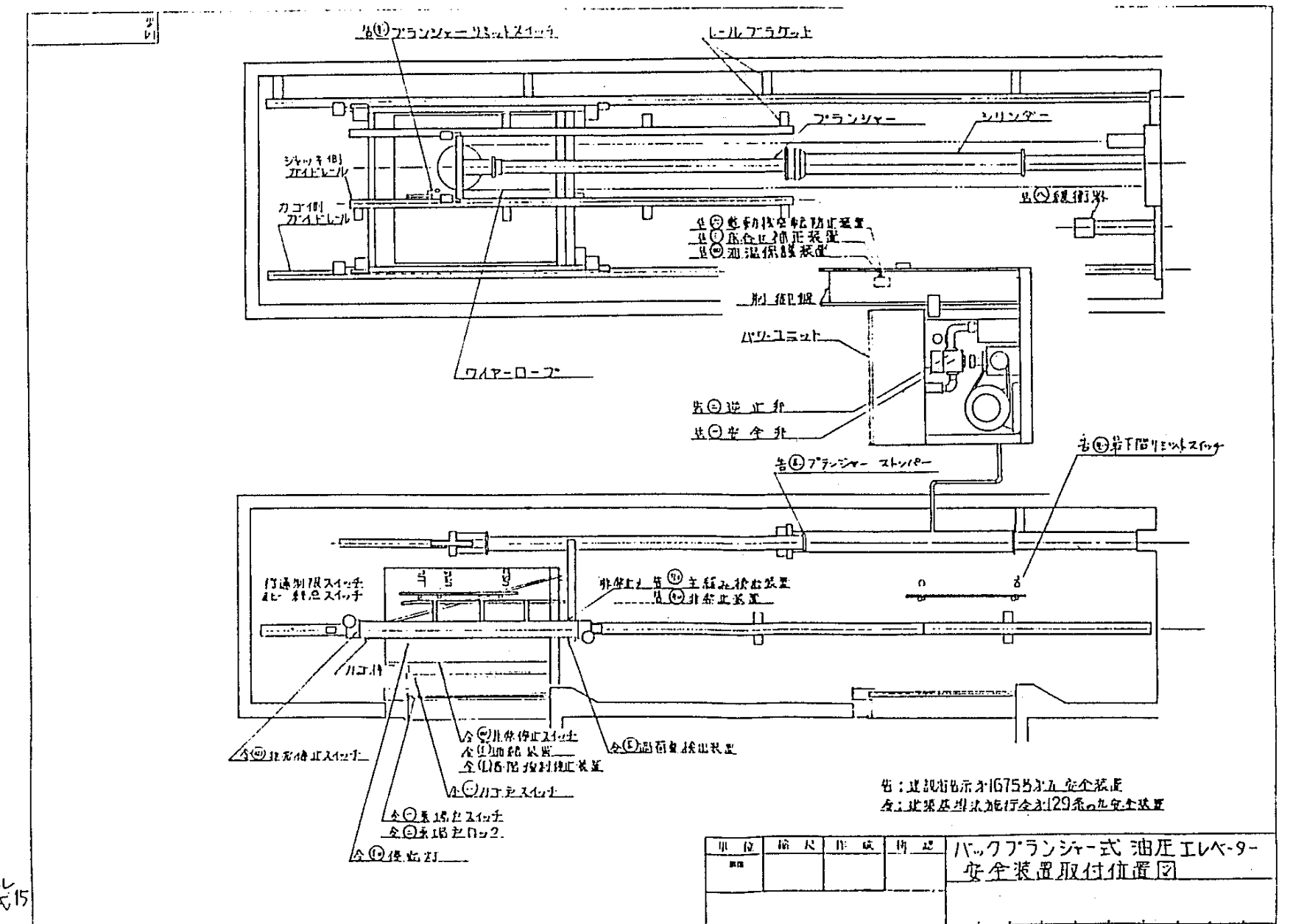
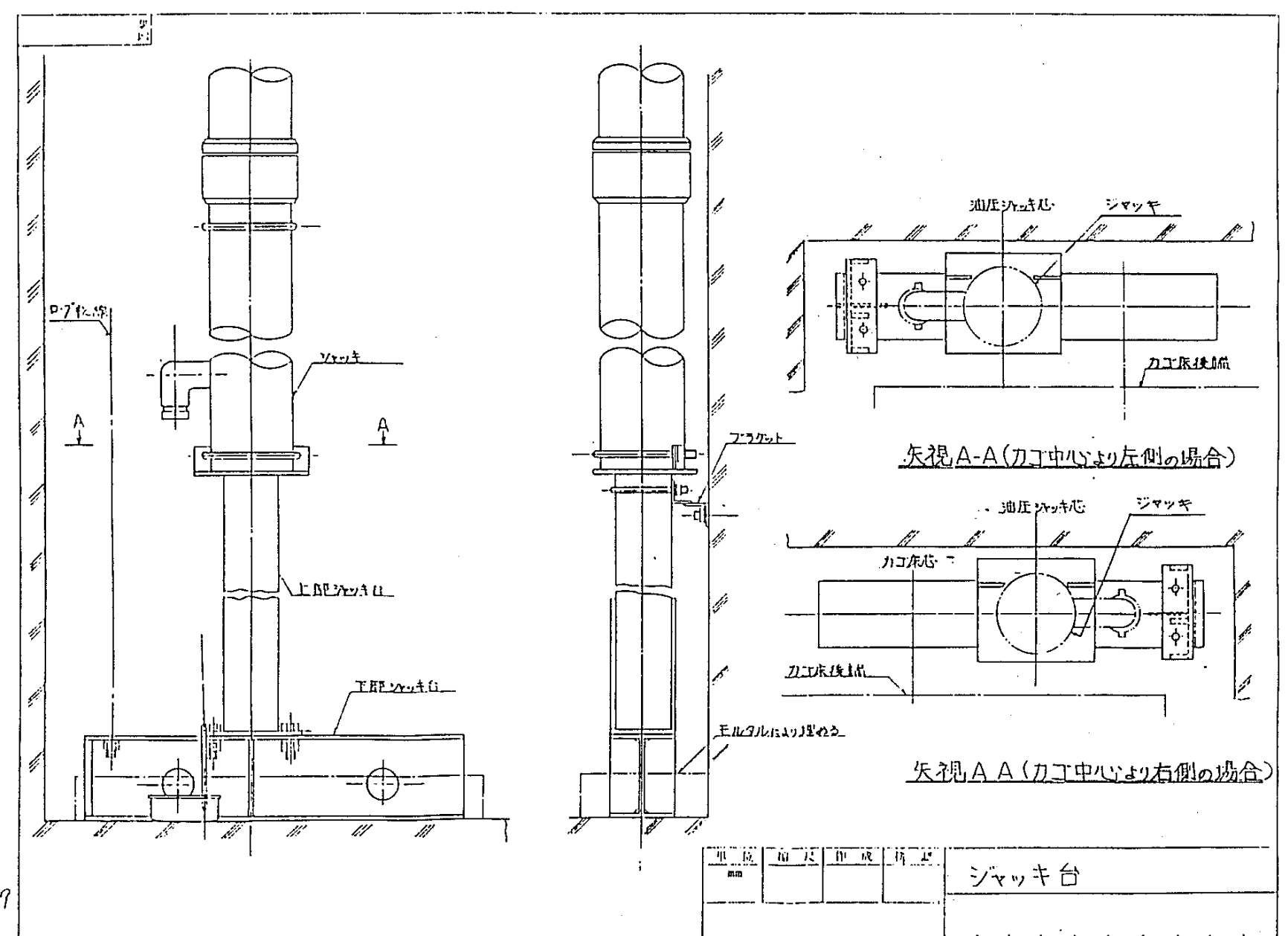
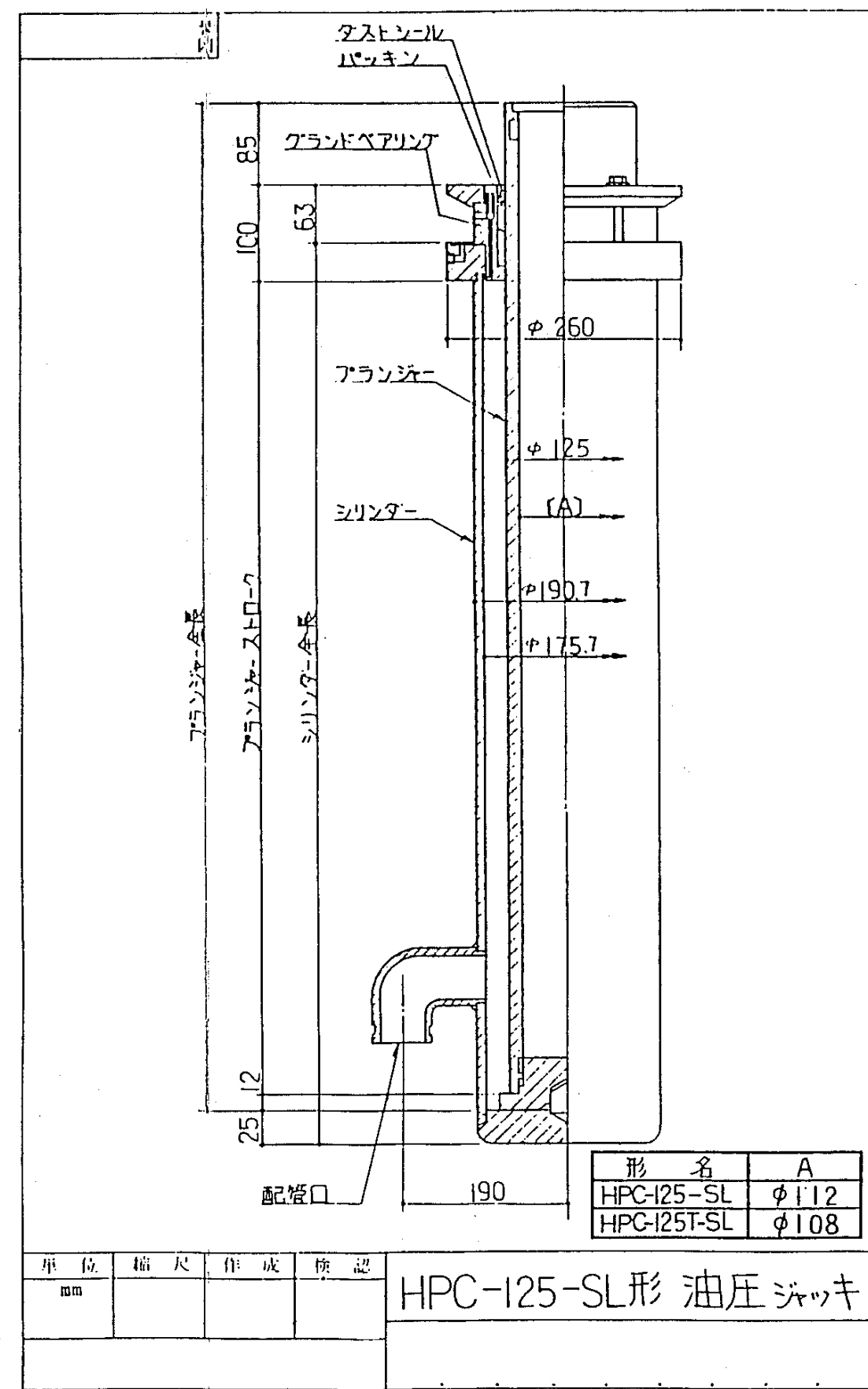
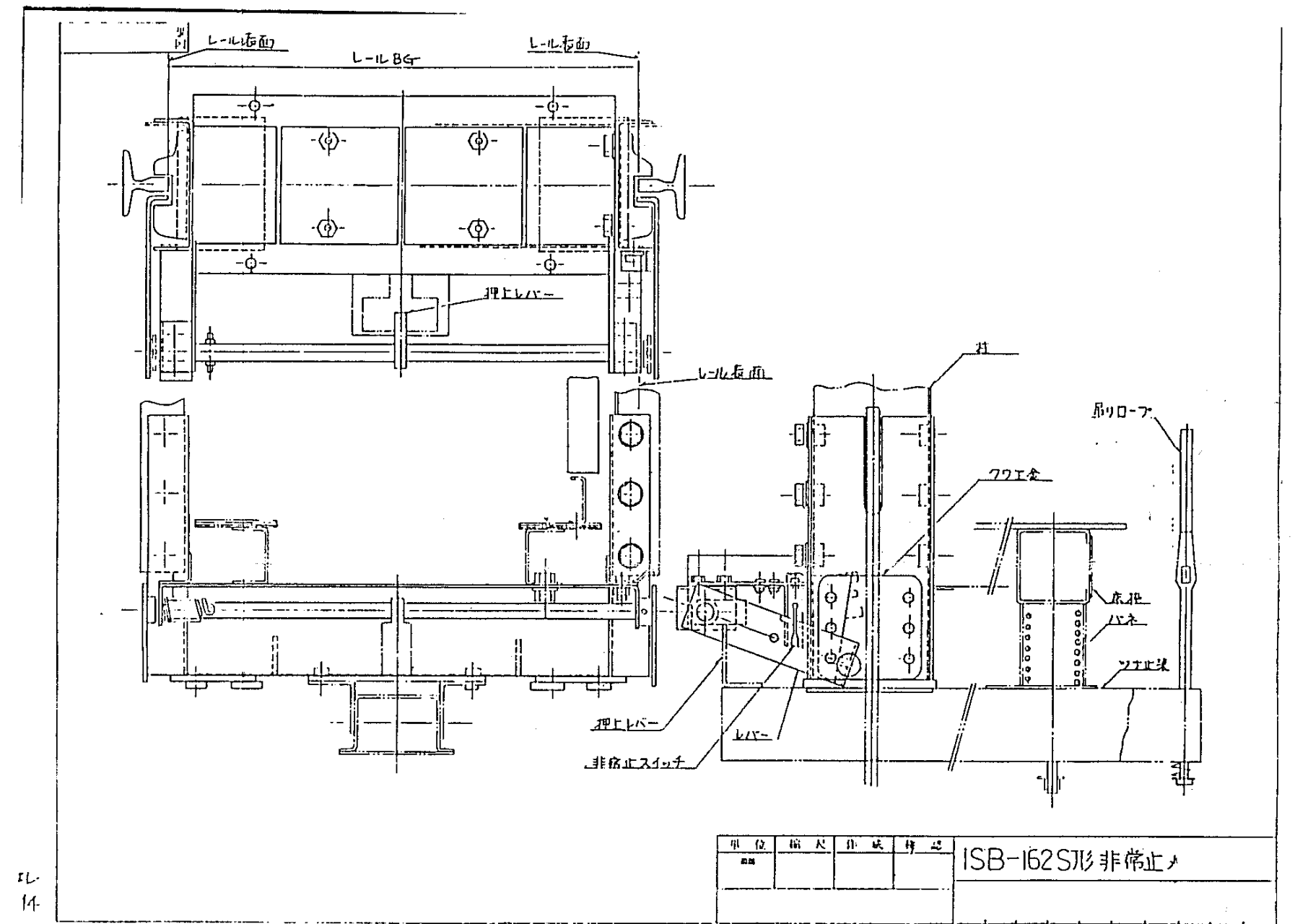
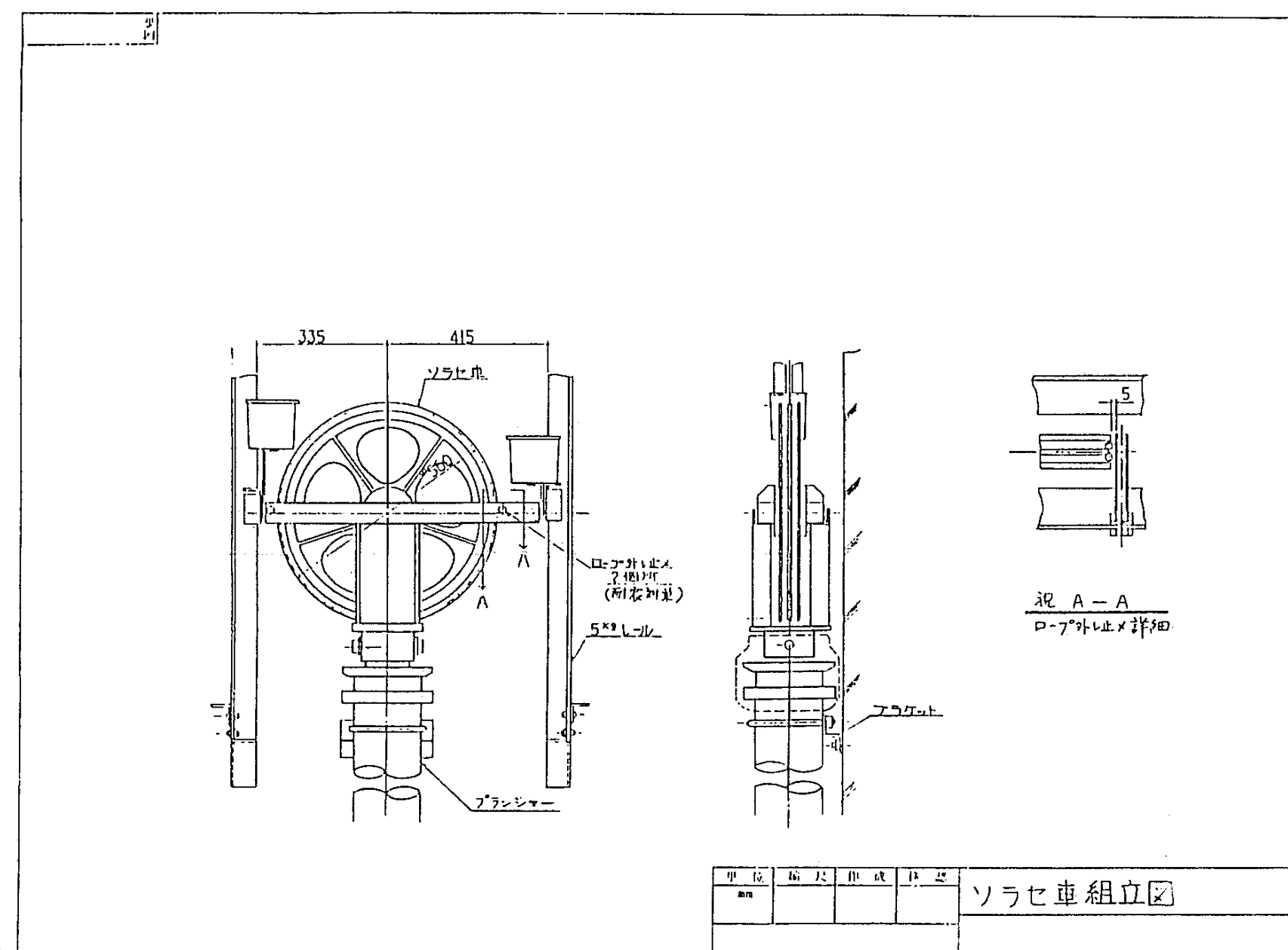
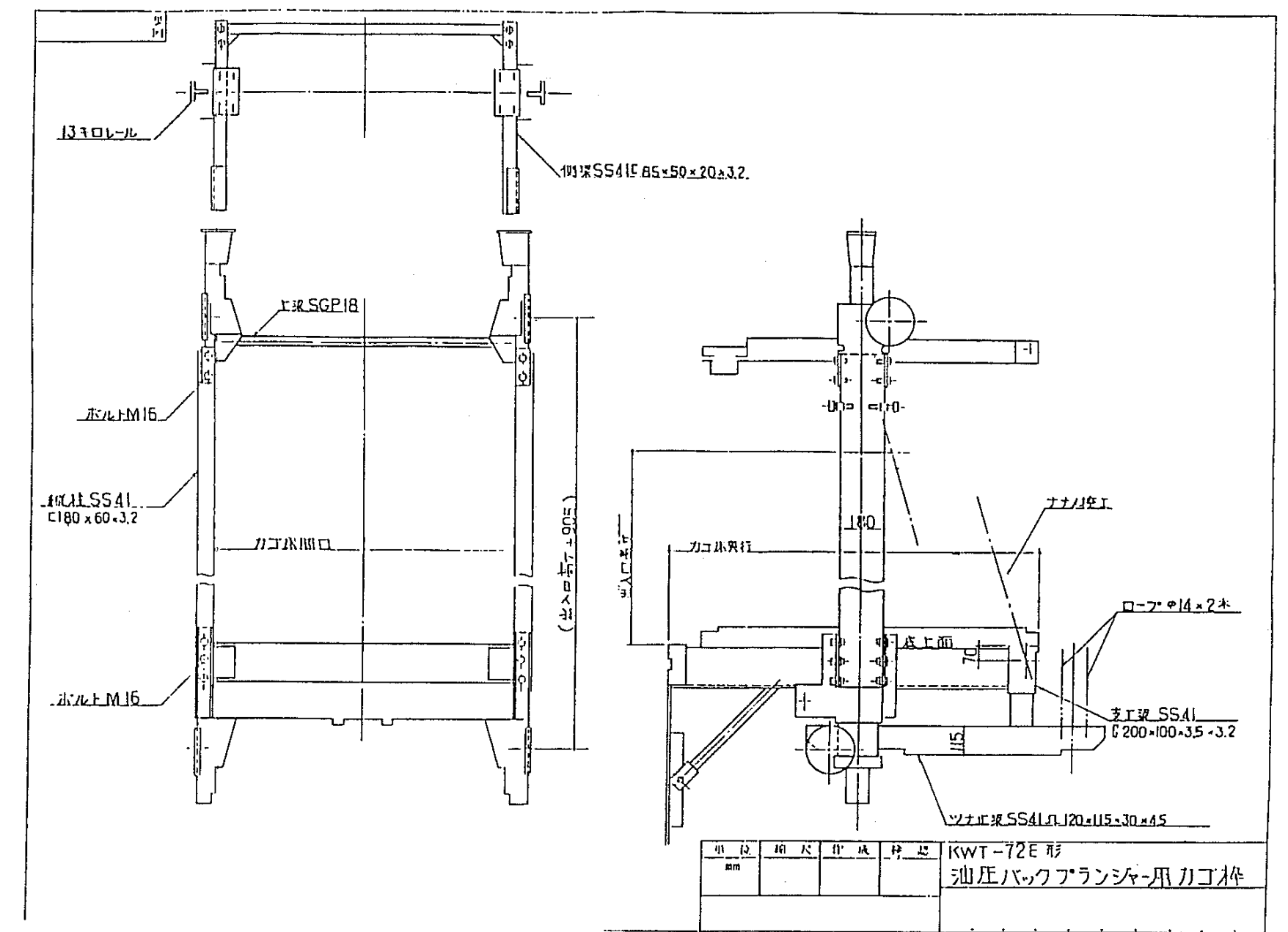
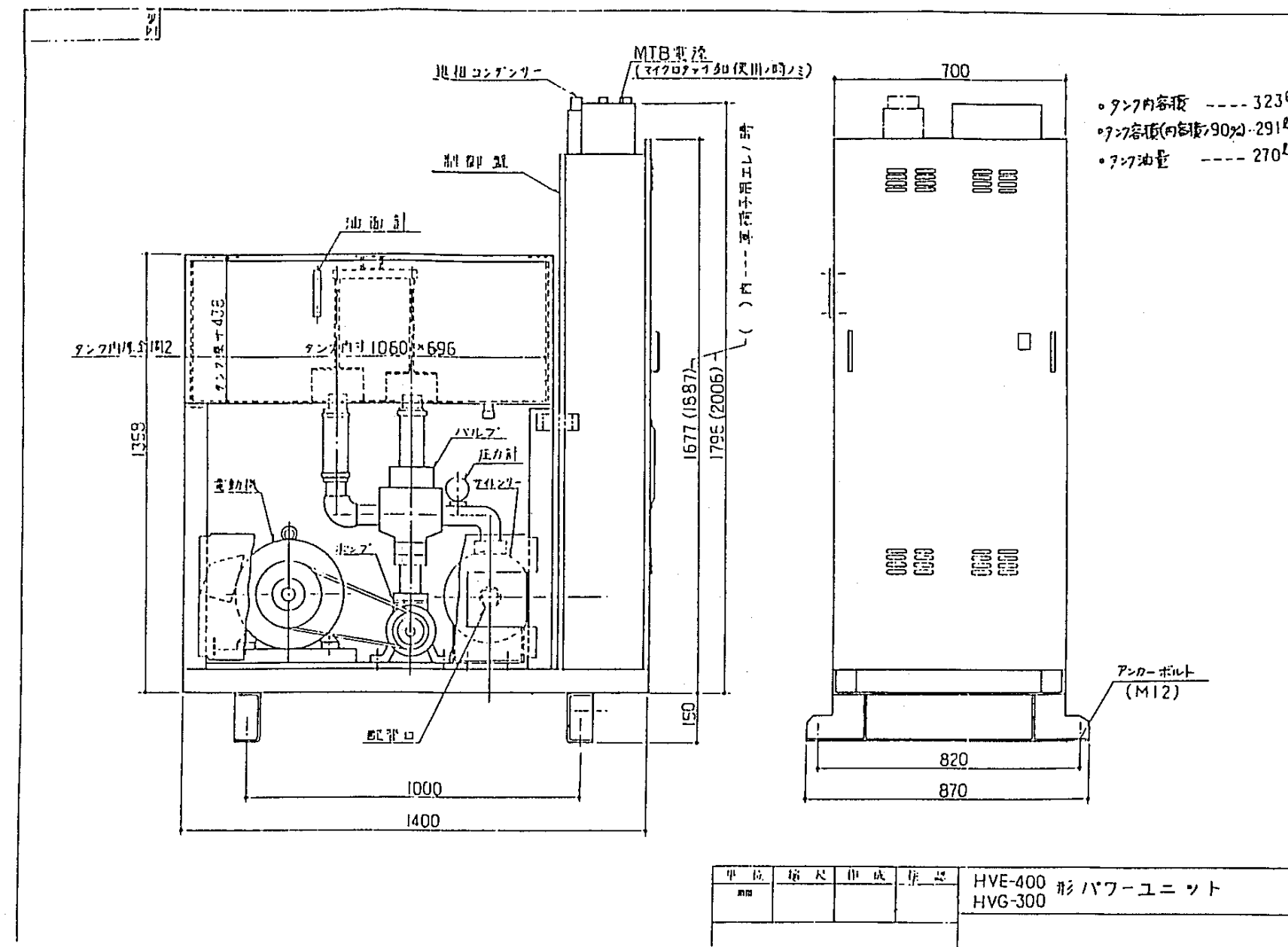
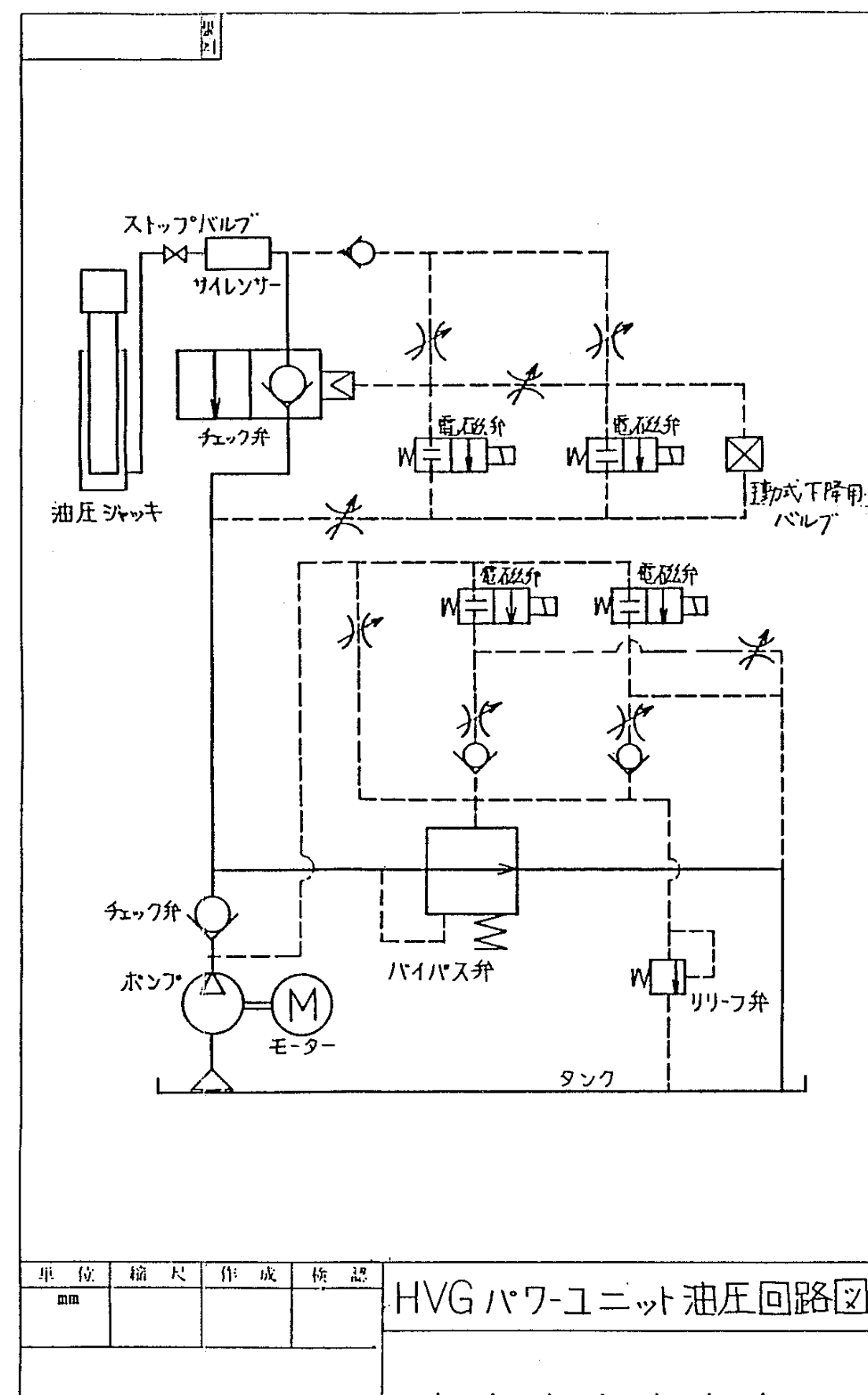
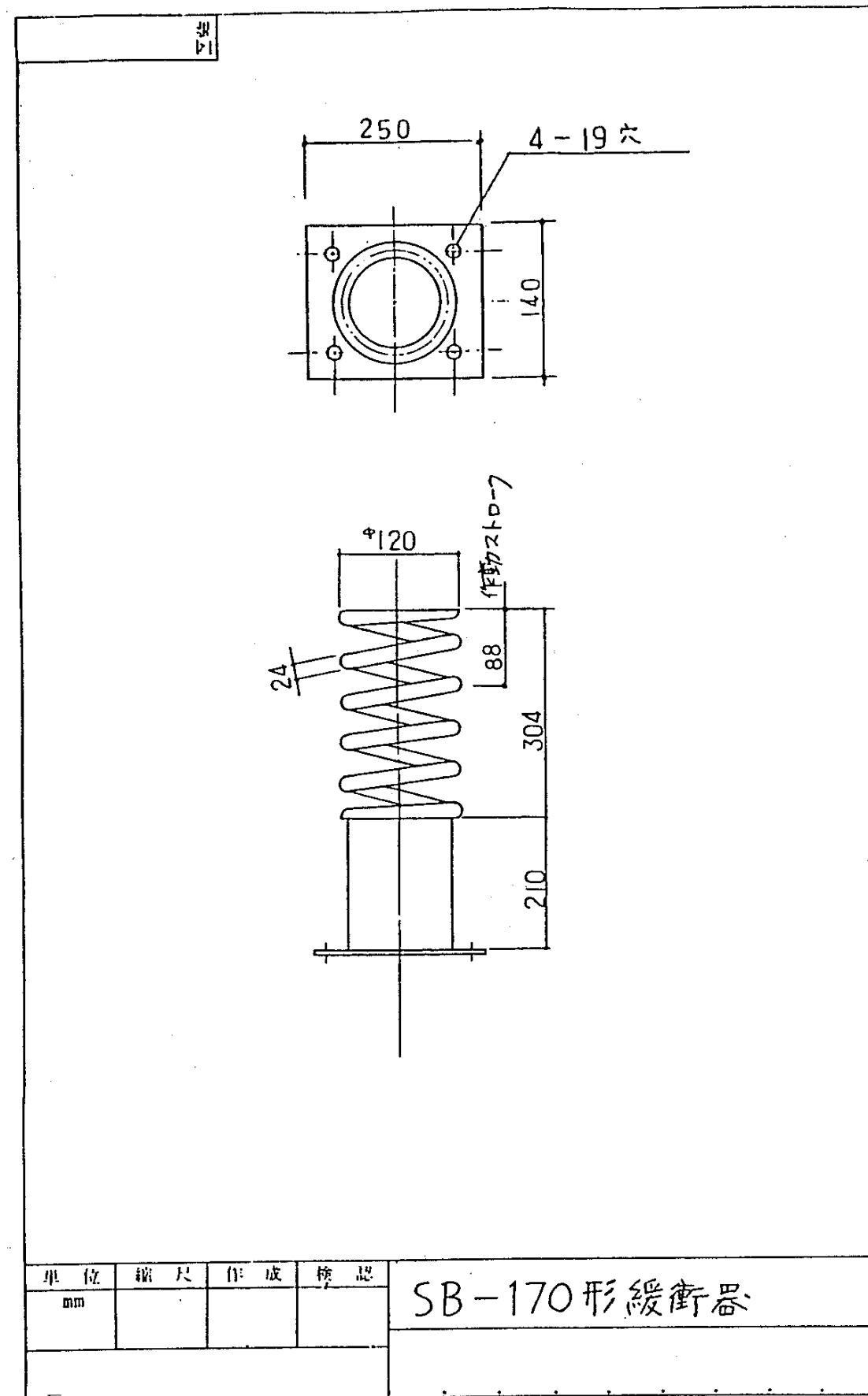


D部詳細

意匠仕様		
天井	鋼板塗装仕上	Y060
壁	化粧鋼板	E01
カゴ戸	"	E01
出入口上板	アルミ銀白色アルマイト仕上	
出入口柱	"	
目地	"	
巾木	"	
照明	蛍光灯 円管 20w 4灯	
	停止灯 6x10w 1灯	
換気扇	シロッコファン	
床敷物	ビニルタイル タタキ (2t)	TA05
敷居	硬質アルミ製	
手摺	ステンレス製 丸パイプ (38φ)	
鏡	ステンレス鏡面加工	

本図ハ1.2号機ヲ示ス

向先 富士見市立富士見養護学校



電気設備工事特記仕様書

1 工事概要

- 1.1 工事名 市立富士見特別支援学校エレベーター更新工事
- 1.2 工事場所 富士見市大字上南畑 地内
- 1.3 工期 契約日から 令和2年 10月16日 まで (共通仮設費及び現場管理費の算定を要しない期間を含む)
- 1.4 工事科目 (○印の付いたものを適用する)

<ul style="list-style-type: none">○ 電灯コンセント設備○ 動力設備・ 電熱設備・ 雷保護設備・ 受変電設備・ 静止型電源設備・ 発電設備・ 構内情報通信網設備・ 構内交換設備・ 情報表示設備・ 映像、音響設備・ 拡声設備 (非常放送設備)○ 誘導支援、呼出し設備	<ul style="list-style-type: none">・ テレビ共同受信設備・ テレビ電波障害防除設備・ 監視カメラ設備・ 駐車場管制設備・ 防犯、入退室管理設備○ 自動火災報知設備・ 発電設備・ ガス漏れ火災警報設備○ 電話配管設備・ 中央監視制御設備・ 昇降機設備
---	---

- 1.5 指定部分 ○ 無 ・ 有 (工期:平成 年 月 日)
- 1.6 主任技術者又は監理技術者の専任期間 (建設業法により必要になった場合)
 - 1 専任期間の始期 請負契約締結の日から、(○現場施工に着手するまで (現場事務所を設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまで)の期間 ・平成 年 月 日までの期間)については、主任技術者又は監理技術者の専任を要しないものとする。
 - 2 専任期間の終期 工事完成後、検査が終了し(発注者の都合により検査が遅延した場合は除く。)、事務手続き、後片付けのみ残っている場合は、主任技術者又は監理技術者の専任を要しないものとする。
 - 3 専任期間の中断 自然災害の発生又は埋蔵文化財調査等により発注者からの通知により、工事を全面的に一時的中止にしている場合は、主任技術者又は監理技術者の専任を要しないものとする。
- 1.7 建物概要 特別支援学校 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 ・ 地下1階、地上3階建て 延床面積: 2, 9 2 4 . 8 6 m²
- 1.8 工事概要 エレベーター更新工事 上記に関わる、建設工事及び電気設備工事一式
- 1.9 同時期発注の関連工事 ○建築工事 ・機械設備工事

2 工事仕様

- 2.1 共通仕様
 - (1) この工事は特記仕様書、図面によるほか、埼玉県電気設備工事特別共通仕様書(以下「特別共通仕様書」という。)、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)、公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)、公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)(以下「標準仕様書等」という。))及び監督員の指示に従い施工する。なお、県営住宅の場合は、公共住宅建設工事共通仕様書、機材の品質・性能基準を最優先とする。
 - (2) 機械設備工事及び建築工事を本工事を含む場合は、それぞれの特別共通仕様書及び標準仕様書等を適用する。
 - (3) 法令・基準・仕様書等は、原則として施工時において最新のものを適用する。
- 2.2 特記仕様 (特記事項の選択項目は、○印のついたものがなければ※印を適用し、・印のものは適用しない。○印と※印の付いた場合は、共に適用する。)

項目	特記事項
① 機材等	本工事に使用する機材等は、設計図書に規定するもの又はこれと同等のものとする。なお、資材名、製造所名および発注先を記載した報告書を監督員に提出し承諾を受けるものとする。 使用機材等については、アスベスト含有の有無を確認し、アスベストを含む機材等は使用しないこと。 国等による環境物品等の調達に関する法律」に基づく特定調達品目に該当する機材を使用する場合は、原則として、その判断の基準、配慮事項を満たすこと。 調達する工事材料は、埼玉県産とするよう努めるものとする。
② 施工条件	施工時間 ※行政機関の休日に関する法律 (S63第91号) に定める行政機関の休日以外。 ・上記以外の時間に施工する場合は事前に監督員と協議すること。
③ 工用電力・水	本工事に必要な電力及び水などは、構内のものを使用できるものとし、その仮設工事にかかる費用は、受注者の負担とする。
④ 工用仮設物	すべて受注者の負担とし、構内につくることができる。
⑤ 足場・さんばし類	※別契約の関連工事の受注者が定着したものは無償で使用できる。 ・本工事とする。
⑥ 監督員事務所	本工事で ・設ける (規模) ※設けない
⑦ 保 険	受注者は工事目的物及び工事材料について工事完成期日後14日まで、これを火災が保障対象になっている組立保険等にかけて、証書の写しを監督員に提出する。
⑧ 再使用機材	取外し再使用機材は、清掃及び絶縁抵抗測定等を行い、機能が良好なことを確認した上で取付る。なお、その測定結果表を監督員に提出する。
⑨ 建設リサイクル法の適用	建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律の適用について ※ 適用する (契約金額による) ・ 適用しない
⑩ 完成図書の電子納品	完成図書の電子納品ガイドライン ※ 適用する ・ 適用しない 完成図の表紙及び背表紙には、工事名、受・発注者名、完成年月を記載すること。また、完成図の中に主要機器一覧表 (名称、製造者名、形式、容量又は出力、数量等) を記載すること。 県営住宅の完成図の提出部数は、A3二つ折り5部とする。
⑪ 発生材処理	引渡を要するもの以外は構外に搬出し、適切に処理する。 (構外搬出処理費は、※本工事 ・ 別途) (1) 引渡しを要するもの () (2) 買取処分をするもの (銅屑・鉄屑) (3) 再生資源化を図るもの (蛍光管) 蛍光管等は再資源化施設等に搬入し、全てリサイクルするものとする。 (4) 特別管理産業廃棄物 () ※処理に先立ち計画書を提出し、処理後は調書を提出すること。

- ⑫ 金属電線管の塗装
- ⑬ 鍵

1.4 地中電線路

敷き均し土	管 種 別
良質土	硬質ビニル電線管 (VE) 耐衝撃性強化ビニル管 (HIVE) 波付硬質合成樹脂管 (FEP) ポリエチレン被覆鋼管 (PLP)

- ⑮ 回路の種別 行先の表示
- ⑯ 電線の接続

湿度の多い場所、水を使用する場所及び屋外は、圧着接続し自己融着テープを巻き付けたうえで絶縁テープ巻きとする。
上記以外の場所においては、屋内配線用電線コネクタによる接続をしてもよい。ただし、接続はボックス内とする。

- ⑰ 電線管の接続
- 1.8 残土処分 埋戻し後の建設残土は、監督員が指示する構内の場所に敷き均しとする。

- 1.9 再生砂・再生アスコン 契約図書中の山砂の類、砂利、砕石及びアスコンに代替し、監督員の了解を得た上で、 ・使用できる。 ※使用できない。
再生砂使用に先立ち、1購入あたり1検体の六価クロム溶出試験を行い土壌の汚染に係る環境基準に適合することを確認すること。

- ⑰ 工事カルテ 作成・登録 請負代金が500万円以上のときは、本工事受注時、変更時及び完成時に工事実績情報として「工事カルテ」を作成し、監督員に承諾を受けた後、(一財)日本建設情報総合センターに登録するとともに、登録結果を監督員に報告する。

- ⑱ 耐震施工 設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」(独立行政法人建築研究所監修)による。
なお、施工に際し、耐震強度計算書を監督員に提出し、承諾を受けるものとする。
(1) 設計用水平地震力 機器の重量 [kgf] に、設計用水平震度を乗じたものとする。
なお、特記なき場合、設計用水平震度は、次による。

設置場所	機器種別	特定の施設		一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階 屋上及び屋根	機 器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5
中間階	機 器	1.5	1.0	1.0	0.6
	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0
地下・1階	機 器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6
	水 槽 (※1)	1.5	1.0	1.0	0.6

【備 考】 (※1) : 水槽類には、オイルタンク等を含む。
重要機器
・ 配電盤 ・ 発電装置 (防災用) ・ 直流電源装置 ・ 交流無停電電源装置
・ 交換機 ・ 火災報知器受信機 ・ 中央監視装置 ・ 太陽光発電装置
上層階の定義は次による。
2~6階建の場合は最上階、7~9階建の場合は上層2階、10~12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。
(2) 設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。

- ⑳ あと施工アンカー 機器・配管等の据付けにおけるあと施工アンカーの使用については、監督員の承諾を受けるものとする。
重量100kgを超える機器の耐震支持については、耐震計算書を添付し、アンカーボルトを選定すること。
施工は、(一社)日本建築あと施工アンカー協会の資格を有するもの、又は十分な技能及び経験を有した者が行うこと。
金属孤張系アンカーの場合は、所定の穿孔深さ、拡張の完了がわかる記録を添付すること。
接着系アンカーの場合は、所定の穿孔深さ、清掃状況、マーキング、カプセル挿入、埋込みの完了が分かる記録を添付すること。
(原則として、接着系アンカーは吊り支持に使用しないものとする。)
あと施工アンカーの試験は、アンカーの種類毎に1か所引張試験を実施すること。

- ㉑ はつり
- ㉒ 改修部分の足場

- ㉓ その他 (1) 施工に先立って建築及び関連設備の業者と打合せのうえで施工図を作成し、監督員の承諾を受ける。
(2) 本工事に使用する製作品は、事前に製作図を監督員に提出し、承諾後製作する。
(3) 本工事に使用する機器は、事前に性能等を記した機器仕様書を監督員に提出し、承諾後施工する。

- (4) 本工事にかかる官公庁への諸手続はすべて受注者が代行し、その費用は受注者の負担とする。
- (5) 特記なき電線・ケーブルは、原則としてエコマテリアル電線・ケーブルとし、露出部分に使用する場合は耐紫外線性能を有するものとする。
- (6) 改修工事等を行う場合は、施工する前後に工事対象箇所の写真撮影を行う。また、既設ケーブル等は施工前後に絶縁抵抗、伝送品質等の測定を行い、試験記録を提出する。
- (7) 調達する工事材料は、埼玉県産とするよう努めるものとする。
- (8) 受注者は、施工にあたって施設運営に支障の無いように締割に打合せを行うこと。

- ※以下は、高等学校および特別支援学校の改修工事 (夏休み工事) に適用する。
- (9) 騒音振動など周辺に大きな影響のある工事については原則として夏休み期間に設定すること。

以上のことを留意し、工程管理、安全管理に万全を期すること。
・同時期発注の関連工事: 建築工事、機械設備工事

2.3 工事別一般事項 (特記事項選択項目は、○印の付いたものを適用する)

項目	特記事項
① 電灯コンセント設備	(1) 配線器具 スイッチ・壁付コンセント (2P15A) は運用形とする。なお、2口コンセントは横式を使用してもよい。 フラッシュプレートは原則としてステンレス又は新金属を使用する。コンセント器具に具備されている送り配線端子は使用してはならない。 (2) 照明器具 防災用照明器具は、建築基準法による非常用照明器具及び消防法による誘導灯とし、関係法令に適合したものとする。 (3) 照度測定 電灯設備工事に際し、新築工事の場合は新設後の、改修工事の場合は改修前と改修後の照度測定を下記基準により実施すること。 ○ JIS C 7612 「照度測定方法」 ・ 学校環境衛生基準 (4) 分電盤 分電盤の塗装色は、監督員の指定した色とする。 (5) 継柱 天井又は壁埋込みの場合のボックスは、塗りしろカバーと仕上り面とが10mm程度以上離れる場合は継柱を使用する。ただし、ボード張り、ボード裏面と塗りのカバーの間が離れないように施工した場合は、継柱を必要としない。 (6) 位置ボックスの省略 ケーブルころしが配線で、位置ボックスの図面特記がなく、かつ、照明器具に送り配線端子が具備されている場合は、位置ボックスを省略しても良い。
② 動力設備	(1) 動力制御盤及び開閉器の塗装色は、監督員の指定した色とする。負荷用送り端子台は1負荷につきU・V・W・Eの4Pを原則とする。 (2) 電動機等各負荷までの接続は、本工事とする。ただし、制御盤以降が別途工事の場合は、当該制御盤の電源側接続までとする。
3 雷保護設備	(1) 受雷部突針はLR1とする。 (2) 水平導体又はメッシュ導体は、太さ38mm以上の銅より線、t3×25mm以上の太さの銅帯又はt4×25mm以上の太さのアルミ帯とする。 (3) 引下げ導線は、太さ2mm以上の銅より線を使用する。
4 受変電設備	高 圧 引 込 引込み口は、設計図に示された位置を電力会社に再確認する。また、ケーブル等の埋設及び、その端末処理は監督員の立会いのうえで施工する。 (端末処理 ・ 耐塩用 ・ 一般用) 受 電 電 圧 交流3相3線式 6.6kV 50Hz 柱上開高圧気中 定格電圧 7.2kV 定格電流 A 負荷開閉器 (PAS) 定格電圧 kV 定格遮断電流 kA 主 遮 断 装 置 動力用 kVA × 台 変圧器設備容量 電灯用 kVA × 台 高圧三相コンデンサ kVar × 台 直列リアクトル ・6% ・1.3% kVar × 台
5 構内情報通信網設備	ネットワーク機器を盤内等に収納する場合は、放熱、耐塵等を考慮する。
6 静止型電源設備	・ 直流電源装置 ・ 交流無停電電源装置 ・ (概要)
7 発電設備	・ ディーゼル発電装置 ・ ガスエンジン発電装置 ・ ガスタービン発電装置 ・ マイクロガスタービン発電装置 ・ 燃料電池発電装置 ・ 熱供給 (コージェネレーション) 発電装置 ・ 太陽光発電装置 ・ 風力発電装置 ・ (概要)
⑧ 構内交換設備	局線電話の引込位置は、第一種電気通信事業者と打合せのうえで施工する。
⑨ 自動火災報知設備、ガス漏れ火災警報設備、拡声設備 (非常放送設備)	(1) 所轄する消防署と打合せのうえ、各関係条例等に従い施工する。 (2) 総合盤内の接続は端子を使用し、回路名を記入しておくものとする。 (3) ガス漏れ警報設備の動作試験は、原則としてガス納入業者立会いのうえで行うものとする。
⑩ 昇降機設備	特記なき場合の施工は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書 (機械設備工事編) による。 なお、県営住宅の場合は、公共住宅建設工事共通仕様書による。

- 2.4 取付高さ 壁付、壁掛型の機器等の取付高さは、図面に記載のない場合は原則として次のとおりとする。

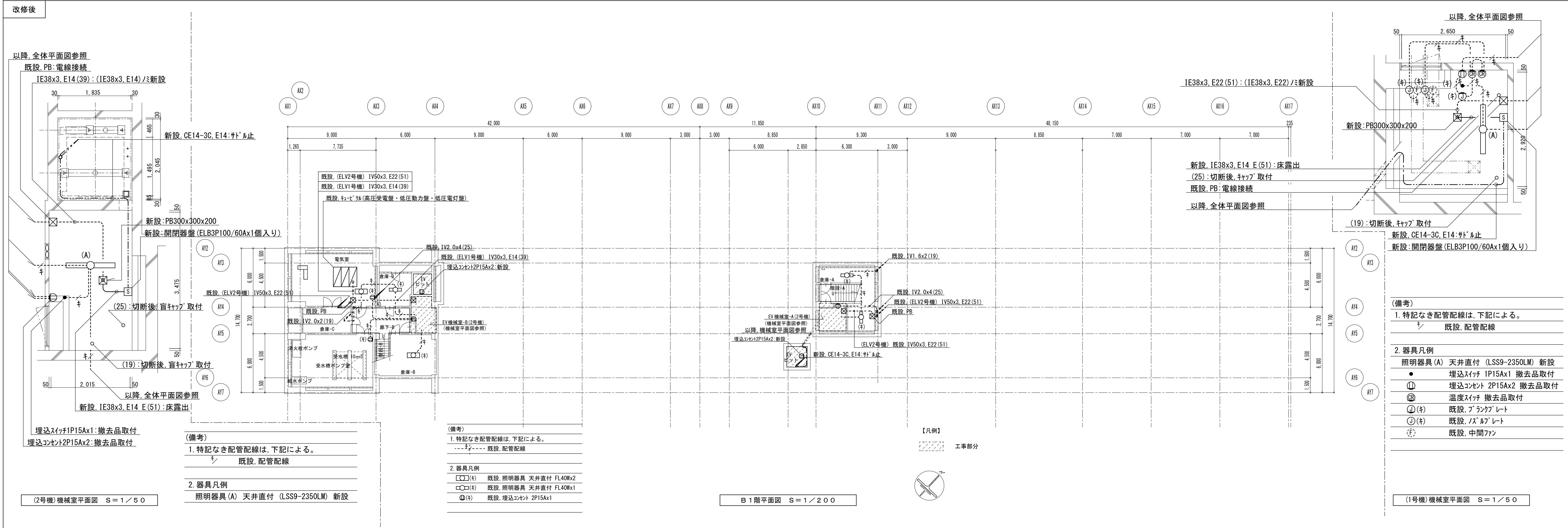
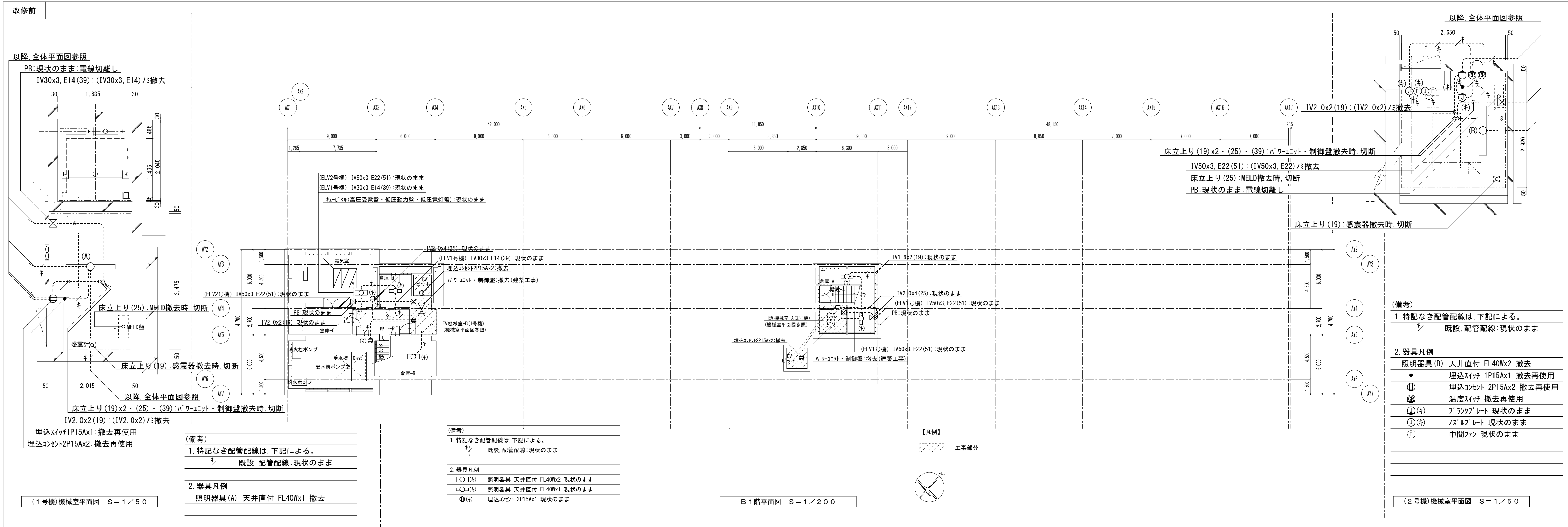
名 称	測 点	取付高さ (mm)	
		一 般	県営住宅
スイッチ (一般)	床上~中心	1,300	1,200
" (身体障害者用)	"	1,100	1,000
" (人感センサー切換用)	"	2,000	2,000
コネクタ、電話用707レド、直列コネクタ	"	300	400
" (和室)	"	150	200
" (台上)	台上~中心	150	500
防水型コンセント	床上~中心	500	500
分電盤、制御盤、開閉器箱	"	(上端1,900以下)1,500	(上端1,900以下)1,500
呼出ボタン (身体障害者用)	"	900	900
復帰ボタン (")	"	1,800	1,800
廊下表示灯 (")	"	2,000	2,000
端子盤	"	"	2,000

3 その他

- 3.1 他工事との取合区分 発注図又は工事区分表による。
- 3.2 図面上の縮尺 図面上の縮尺は、発注図の大きさを日本工業規格A1版とした縮尺とする。
- 3.3 疑義 本特記仕様書、特別共通仕様書及び標準仕様書等において疑義が生じた場合は、監督員と協議するものとする。

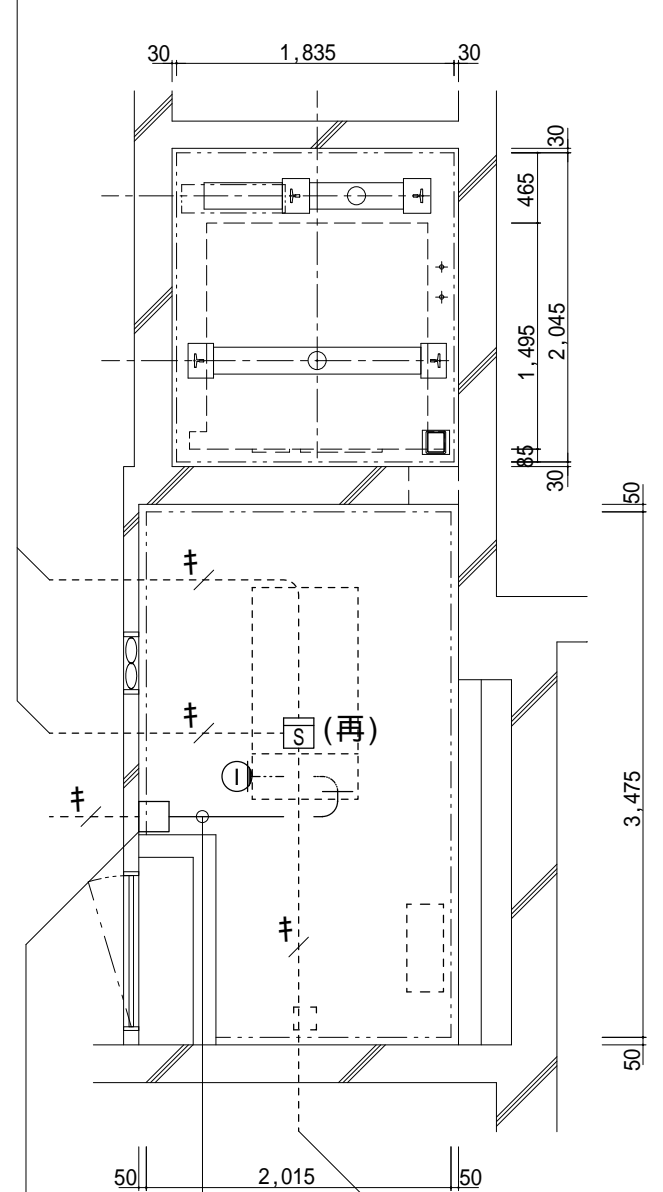
舗装版切断時に発生する濁水の処理に係る特記仕様書	
第1条	この特記仕様書は、埼玉県電気設備工事特別共通仕様書に定めるもののほか、アスファルト舗装版切断時に発生する濁水 (以下「濁水」という。) の処理に関し必要な事項を定めるものである。
第2条	受注者は、回収した濁水を次のとおり処理するものとする。 ・種類及び処理量 汚泥 (油分を含む汚泥) m ³ ・中間処理施設 市 地内、(株) ・処理方法 ・ 中間処理後、最終処分場に搬入 (処理に焼却又は溶融含まず) ・ 中間処理後、最終処分場又は再資源化 (処理に焼却又は溶融を含む)
第3条	2 受注者は、別の中間処理施設を選定する場合には、事前に監督員と協議するものとする。 第3条 受注者は、舗装版切断作業を行いながら濁水を可能な限り回収し、作業後速やかに回収した濁水を産業廃棄物の汚泥 (油分を含む汚泥) として中間処理施設に運搬及び処理するものとする。
第4条	2 受注者は、汚泥の中間処理業の許可を受けている業者と産業廃棄物処分委託契約を締結しなければならないものとする。 3 受注者は、自ら運搬を行う場合を除き、汚泥の収集運搬業の許可を受けている業者と産業廃棄物収集運搬委託契約を締結しなければならないものとする。 4 受注者は、濁水の処理に関する履行について、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において定める産業廃棄物管理票 (以下「マニフェスト」という。) により管理するものとする。
第5条	2 受注者は、施工計画書において、濁水の回収、運搬及び処理に関する方法を定めなければならないものとする。また、中間処理業者及び収集運搬業者と第3条第3項及び第4項に基づき締結した委託契約書の写し及び許可証の写しを添付すること。 2 受注者は、工事検査時にマニフェスト原本を提示する。 第5条 濁水処理量については、舗装版の切断延長や切断厚が変わった場合を除き、原則として設計変更の対象としないものとする。 2 受注者は、舗装版切断時に濁水を生じない工法を使用する場合においては、事前に監督員と協議するものとする。 3 この特記仕様書に疑義等が生じた場合については、別途監督員と協議するものとする。

官公庁等打ち合わせ相手 打ち合わせ担当者 建築: _____ 昇降機: _____
施設管理者: _____
電力会社: _____
電話会社: _____
ケーブルテレビ会社: _____
消防本部: _____



改修前

以降,全体平面図参照



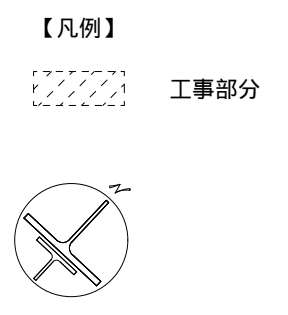
以降,全体平面図参照

AE1.2-2C(19):撤去
サビスリット:現状のままケーブル切断し端末処理

(1号機)機械室平面図 S = 1 / 5 0

- (備考)
1. 特記なき配管配線は,下記による。
既設,配管配線:現状のまま
2. 器具凡例
[S](再) 煙式2種 撤去再使用
[L] ELVケーブル 撤去

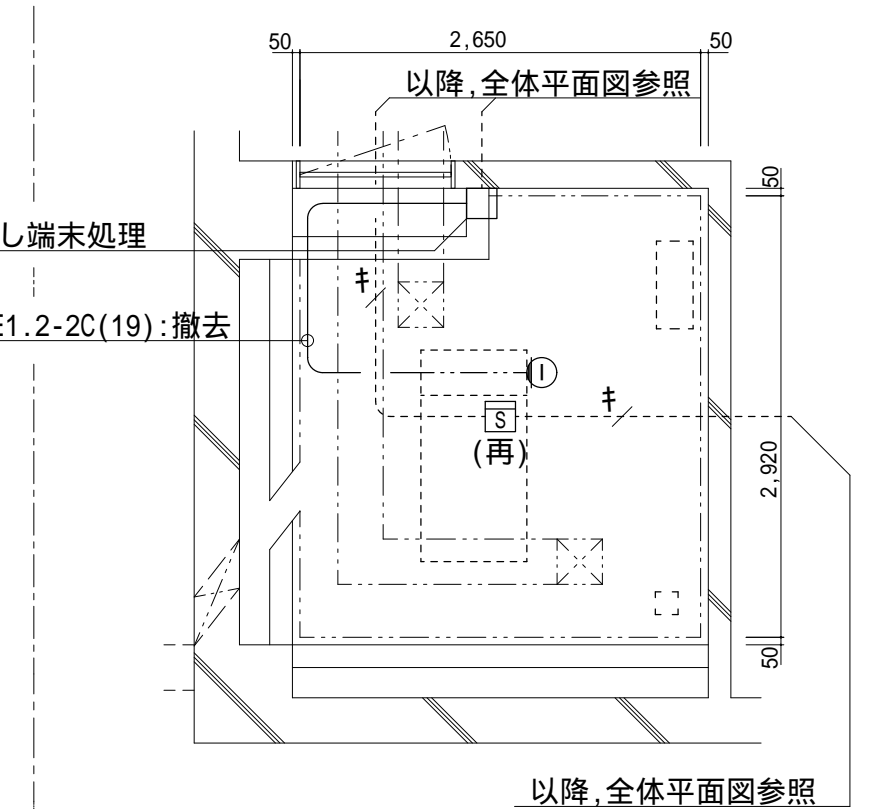
- (備考)
1. 特記なき配管配線は,下記による。
既設,配管配線:現状のまま
2. 器具凡例
[S](+) 煙式2種感知器 現状のまま
[L](+) 中継ボックス 現状のまま
[□](+) 消火栓ボックス 現状のまま



B 1階平面図 S = 1 / 2 0 0

サビスリット:現状のままケーブル切断し端末処理

AE1.2-2C(19):撤去



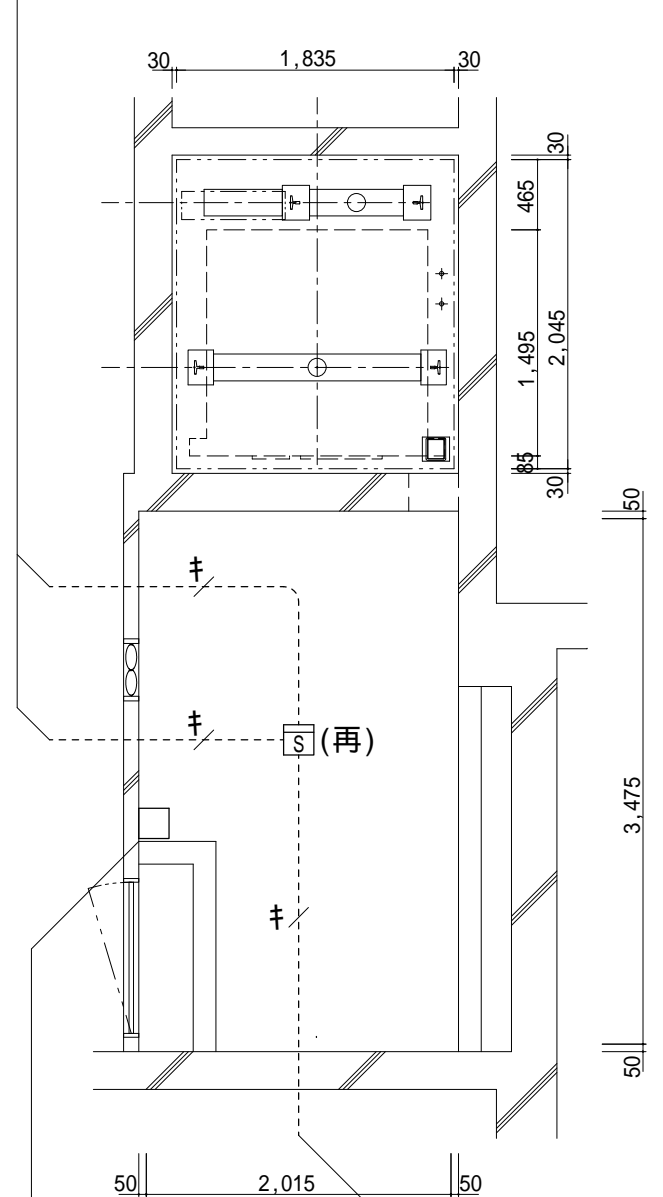
以降,全体平面図参照

- (備考)
1. 特記なき配管配線は,下記による。
既設,配管配線:現状のまま
2. 器具凡例
[S](再) 煙式2種 撤去再使用
[L] ELVケーブル 撤去

(2号機)機械室平面図 S = 1 / 5 0

改修後

以降,全体平面図参照



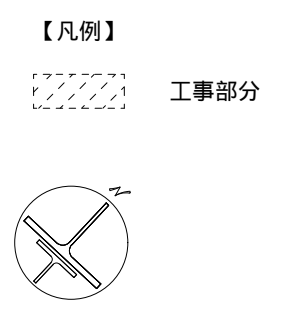
以降,全体平面図参照

既設,サビスリット

(2号機)機械室平面図 S = 1 / 5 0

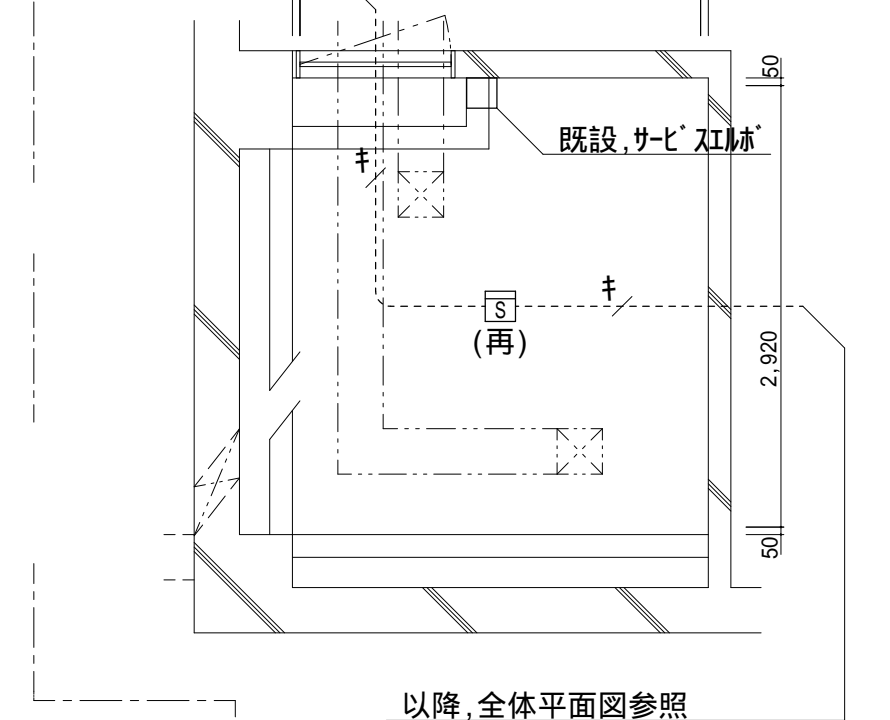
- (備考)
1. 特記なき配管配線は,下記による。
既設,配管配線
2. 器具凡例
[S](再) 煙式2種 撤去品取付

- (備考)
1. 特記なき配管配線は,下記による。
既設,配管配線
2. 器具凡例
[S](+) 既設,煙式2種感知器
[L](+) 既設,中継ボックス
[□](+) 既設,消火栓ボックス



B 1階平面図 S = 1 / 2 0 0

以降,全体平面図参照

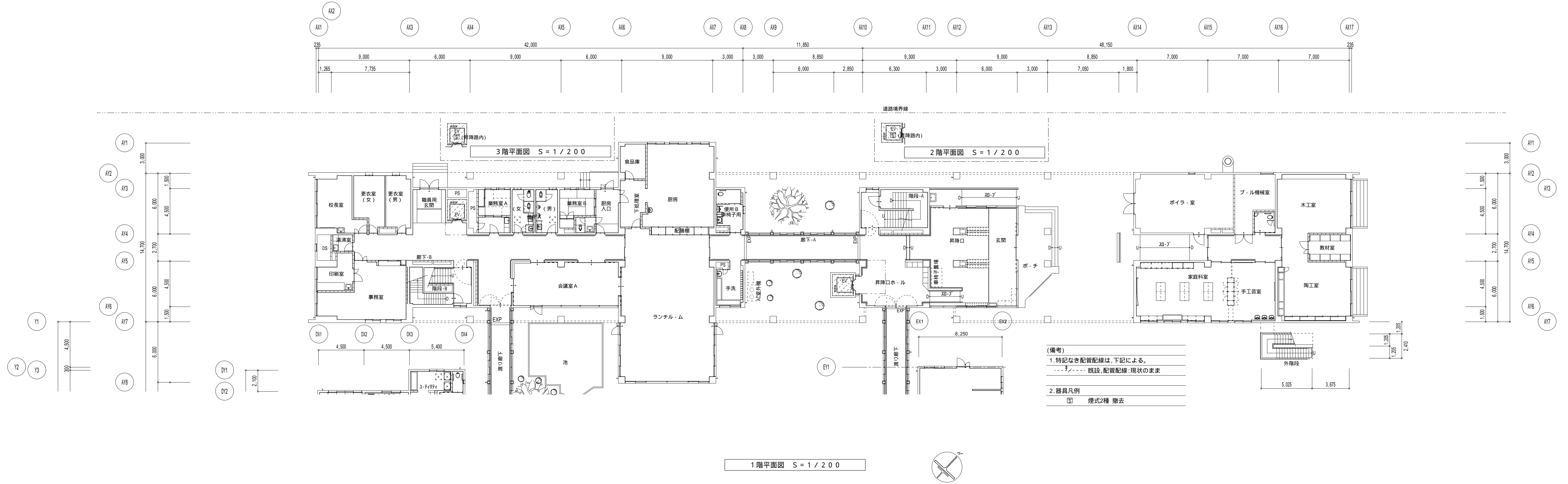


以降,全体平面図参照

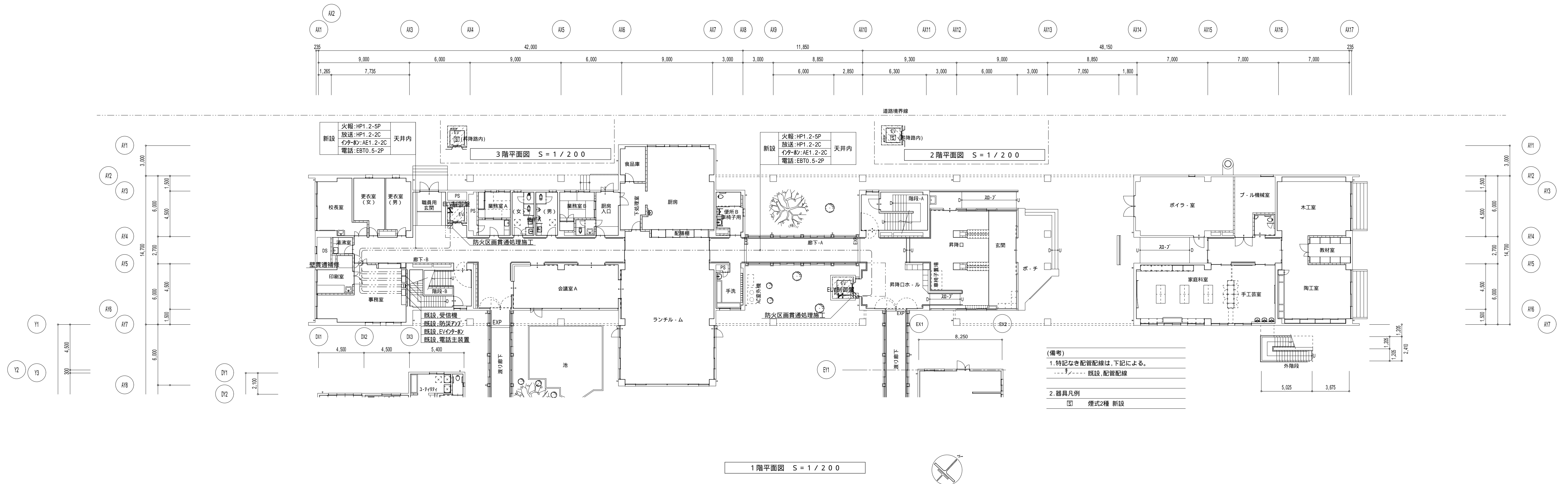
- (備考)
1. 特記なき配管配線は,下記による。
既設,配管配線:現状のまま
2. 器具凡例
[S](再) 煙式2種 撤去品取付

(1号機)機械室平面図 S = 1 / 5 0

改修前



改修後



(有) 桑子建築設計事務所
さいたま市大宮区榑引町1-330-4
TEL 048 783 5566
一級建築士登録第67048号 桑子 喬

承認 設計 担当

縮尺 A1:1/200
A3:1/400
設計年月日 2019.11.29

工事名称 市立富士見特別支援学校エレベーター更新工事
図面名称 (改修前・改修後) 1・2・3階平面図 弱電設備

No. E-05